

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部の設置							
フリガナ設置者	ガッコウホクシン トカイガクエン 学校法人 東海学園							
フリガナ大学の名称	トカイガクエンダガク 東海学園大学(Tokai Gakuen University)							
大学本部の位置	愛知県みよし市福谷町西ノ洞21番地233							
大学の目的	仏教に基づく宗教的情操を養い、人間性豊かな人格者の育成を目指し、「人間力」と「共生」の思想の育成を原点に社会的に有用な人材を育成する。							
新設学部等の目的	健康社会の構築に向け、社会的環境の変化を視野に入れながら幼児から高齢者までの「こころ」「からだ」を発育発達のな知見、あるいは加齢による変化をふまえた上でスポーツ、健康に関わる幅広い分野の専門知識、技能を習得させ、学校体育、地域スポーツ、運動健康づくりに貢献できる指導者を養成することを目的とする。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	スポーツ健康科学部 (School of Sport and Health Science) スポーツ健康科学科 (Department of Sport and Health Science)	年	人	年次人	人	学士 (スポーツ健康科学)	年 月 第 年次 平成24年4月 第1年次	愛知県みよし市福谷町西ノ洞21-233
	計	4	235	5	950			
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	<p>平成24年4月【届出設置】 教育学部教育学科 (入学定員150人・3年次編入学定員5人)</p> <p>平成24年4月【学生募集停止(廃止)】 人間健康学部人間健康学科 (入学定員250人・3年次編入学定員30人) 人文学部発達教育学科 (入学定員100人・3年次編入学定員10人)</p> <p>平成24年4月【定員減】 経営学部経営学科 (3年次編入学定員20人→5人) [△15] 平成24年4月【定員減】 人文学部人文学科 (3年次編入学定員30人→5人) [△25]</p> <p>※大学全体の収容定員(3,620人)の変更はない</p>							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
	スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科	講義	演習	実験・実習	計			
		95科目	42科目	66科目	203科目	124単位		

教 員 組 分	学 部 等 の 名 称		専任教員等					兼 任 教 員 等		
			教授	准教授	講師	助教	計			助手
既 設 分	新	スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科	12 (11)	5 (5)	5 (5)	3 (2)	25 (23)	3 (3)	102 (55)	
	設	教育学部教育学科	13 (12)	11 (11)	0 (0)	2 (2)	26 (25)	0 (0)	103 (59)	平成23年4 月届出設置
	分	計	25 (23)	16 (16)	5 (5)	5 (4)	51 (48)	3 (3)	205 (114)	
	既	経営学部経営学科	14 (14)	8 (8)	1 (1)	1 (1)	24 (24)	0 (0)	69 (69)	
	設	人文学部人文学科	15 (15)	7 (7)	0 (0)	3 (3)	25 (25)	0 (0)	103 (103)	
	分	人文学部発達教育学科	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	
概 要		人間健康学部人間健康学科	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	
		健康栄養学部管理栄養学科	8 (8)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	14 (14)	6 (6)	17 (17)	
		計	37 (37)	20 (20)	1 (1)	5 (5)	63 (63)	6 (6)	189 (189)	
		合 計	62 (60)	36 (36)	6 (6)	10 (9)	114 (111)	9 (9)	394 (303)	
	教 員 以 外 の 職 員 の 概 要	職 種		専 任		兼 任		計		大学全体
		事 務 員		46 (46) 人		45 (45) 人		91 (91) 人		
技 術 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)				
図 書 館 専 門 員		5 (5)		10 (10)		15 (15)				
そ の 他 の 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)				
計		51 (51)		55 (55)		106 (106)				
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計		大学全体	
	校 舎 敷 地	35,364.01㎡	0㎡		0㎡		35,364.01㎡			
	運 動 場 用 地	87,105.89㎡	0㎡		0㎡		87,105.89㎡			
	小 計	122,469.90㎡	0㎡		0㎡		122,469.90㎡			
	そ の 他	76,402.93㎡	0㎡		0㎡		76,402.93㎡			
	合 計	198,872.83㎡	0㎡		0㎡		198,872.83㎡			
校 舎	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計		大学全体		
	45,273.78㎡ (45,273.78㎡)	0㎡ (0㎡)		0㎡ (0㎡)		45,273.78㎡ (45,273.78㎡)				
教 室 等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設		語学学習施設		大学全体		
	49室	34室	20室	11室 (補助職員4人)		1室 (補助職員0人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数					
		スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科			25 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点			
	スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科	21,200 [832] (21,200 [832])	141 [39] (141 [39])	10 [10] (10 [10])	808 (808)	0 (0)	0 (0)			
	計	21,200 [832] (21,200 [832])	141 [39] (141 [39])	10 [10] (10 [10])	808 (808)	0 (0)	0 (0)			
図 書 館	面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数			大学全体		
	3,539.818㎡		376席		270,000冊					
体 育 館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体		
	3,975.03㎡		室内プール・トレーニングジム・ダンス室							

経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書購入費については経常経費の中で措置	
		教員1人当り研究費等		250千円	250千円	250千円	250千円			
		共同研究費等		0千円	0千円	0千円	0千円			
		図書購入費	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円			
	設備購入費	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円				
学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
	1,390千円	1,230千円	1,230千円	1,230千円	—千円	—千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			完成時までの運営費は手数料収入・法人全体収入を充当する。							
既設大学の状況	大学の名称	東海学園大学(Tokai Gakuen University)								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	経営学部(School of Business Management) 経営学科(Department of Business Management)	4年	230人	20人	960人	学士(経営学)	1.26倍	平成7年度	愛知県みよし市福谷町西ノ洞21番地233	
	人文学部(School of Humanities) 人文学科(Department of Humanities)	4年	200人	30人	860人	学士(人文学)	1.22倍	平成12年度	名古屋市天白区中平2丁目901	
	人文学部(School of Humanities) 発達教育学科(Department of Development and Education)	4年	100人	10人	420人	学士(発達教育)	0.93倍	平成20年度	名古屋市天白区中平2丁目901	平成24年度より学生募集停止予定
	人間健康学部(Faculty of Human Wellness) 人間健康学科(Department of Human Wellness)	4年	250人	30人	1,060人	学士(人間健康学)	1.12倍	平成16年度	愛知県みよし市福谷町西ノ洞21番地233	平成24年度より学生募集停止予定
	人間健康学部(School of Human Wellness) 管理栄養学科(Department of Registered Dietitian)	4年	80人	—	320人	学士(管理栄養学)		平成16年度	名古屋市天白区中平2丁目901	平成23年度より学生募集停止
	健康栄養学部(School of Health and Nutrition) 管理栄養学科(Department of Nutrition)	4年	80人	—	320人	学士(栄養学)	1.14倍	平成23年度	名古屋市天白区中平2丁目901	
経営学研究科(Graduate School of Business Management)	2年	20人	—	40人	修士(経営学)	0.57倍	平成12年度	愛知県みよし市福谷町西ノ洞21番地233		
附属施設の概要	該当なし									

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。

- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「－」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要															
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全	共生の理解	共生人間論Ⅰ	1前	2			○			1					
		共生人間論Ⅱ	3後	2			○		1						
		共生人間論実習A	3前・後		1				○	1					
		共生人間論実習B	1・2・3・4前・後		1				○	1					
		共生人間論実習C	1・2・3・4前・後		1				○	1					
		共生人間論実習D	1・2・3・4前・後		1				○	1					
学	スポーツ・日本文化	共生人間論実習E	1・2・3・4前・後		1			○	1						
		スポーツ(バドミントン)	1前・2・3・4		1				○	1					兼1
		スポーツ(テニス)	1後・2・3・4		1				○	1					兼2
		スポーツ(バスケットボール)	1前・2・3・4		1				○						兼1
		スポーツ(バレーボール)	1前・2・3・4		1				○						兼1
		スポーツ(サッカー)	1後・2・3・4		1				○						兼1
		スポーツ(ソフトボール)	1後・2・3・4		1				○						兼1
		スポーツ(ゴルフ)	1前・2・3・4		1				○						兼1
		スポーツ(スイミング)	1前・2・3・4		1				○						兼1
		スポーツ(エアロビクス)	1後・2・3・4		1				○						兼2
		スポーツ(アクアビクス)	1後・2・3・4		1				○						兼2
		競技スポーツⅠ	1後		1				○		1		1		兼5 集中
		競技スポーツⅡ	2後		1				○		1		1		兼5 集中
		競技スポーツⅢ	3後		1				○		1		1		兼5 集中
		日本文化(書道)	1前・2・3・4		1				○						兼1
		日本文化(茶道)	1・2・3・4前・後		1				○						兼1
		日本文化(華道)	1・2・3・4前・後		1				○						兼1
		日本文化(舞踊)	1前・2・3・4		1				○						兼1
日本文化(能)	1・2・3後・4		1				○						兼1		
日本文化(歌舞伎)	1・2・3後・4		1				○						兼1		
日本文化(陶芸)	1・2・3・4		1				○						兼1 集中		
日本文化(武道)	1・2・3・4前		1				○						兼1		
科	キャリア	キャリアデザインⅠ	1前	2			○							兼1	
		キャリアデザインⅡ	1後	2			○							兼1	
		キャリアサポートⅠ	2前		2		○							兼1	
		キャリアサポートⅡ	2後		2		○							兼1	
		キャリアサポートⅢ	3前		2		○							兼1	
		キャリア実践研究	3後		2		○							兼1	
		キャリア実務研究	3後		2		○							兼1	
		情報リテラシーⅠ	1前		1				○						兼3
		情報リテラシーⅡ	1後		1				○						兼3
目	日本語	日本語表現法A(音声)	1前		2			○						兼1	
		日本語表現法B(文章)	1後		2			○						兼1	
目	外国語	総合英語Ⅰ	1前	1				○						兼4	
		総合英語Ⅱ	1後	1				○						兼4	
		総合英語Ⅲ	2前		1				○					兼2	
		英会話Ⅰ	1前	1					○					兼5	
		英会話Ⅱ	1後	1					○					兼5	
		英会話Ⅲ	2後		1				○					兼2	

教育課程等の概要															
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
外国語	基礎中国語 I	2前		1			○								兼3
	基礎中国語 II	2後		1			○								兼3
人文	哲学	1前		2			○								兼1
	倫理学	3後		2			○								兼1
	心理学	1前		2			○								兼1
	日本史	1前		2			○								兼1
	世界史	1後		2			○								兼1
	日本文学	1前		2			○								兼1
	外国文学	2前		2			○								兼1
	異文化理解	2後		2			○								兼1
	日本文化論	1前		2			○								兼1
	仏教文化史	1後		2			○								兼1
社会	憲法と基本権	1前・後		2			○								兼1
	社会生活と法	2前		2			○								兼1
	暮らしと経済	1後		2			○								兼1
	市民社会と政治	3前		2			○								兼1
	社会の成り立ち	1後		2			○								兼1
	高齢者と福祉	2前		2			○				1				兼1
	国際事情	3後		2			○								兼1
	社会保障論	2前		2			○								兼1
	社会と福祉	1後		2			○				1				兼1
自然	健康と運動	1前・後		2			○			1					兼1
	生活と環境	1後		2			○			1					兼1
	自然と環境	1前		2			○			1					兼1
	生命の科学	1後		2			○			1					兼1
	生物学 I	1前		2			○								兼1
	生物学 II	1前		2			○								兼1
	化学 I	1前		2			○								兼1
	化学 II	1後		2			○								兼1
	物理学	1後		2			○								兼1
	数学	1後		2			○								兼1
	小計 (76科目)	—		12	104	0		—		5	2	1	1		兼126

教育課程等の概要															
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	スポーツ科学概論	1前	2			○			2	1					オムニバス
	健康科学概論	1後	2			○			2	1					兼1 オムニバス
	小計 (2科目)		4	0	0		—		4	3					
基礎科目	スポーツ医学	1前	2	2		○			1						
	生理学	1後	2			○			1						
	衛生学	2後		2		○									兼1
	公衆衛生学	1前		2		○			1						
	機能解剖学	1前	2			○					1				
	小計 (5科目)		4	6	0		—		2		1				兼1
基幹科目	バイオメカニクス	1後	2			○			1						
	トレーニング科学	2後		2		○				1					
	運動生理学	2前	2			○			1						
	健康管理論	2後		2		○			1						
	体育原理	2前		2		○									兼1
	コーチング科学	2前		2		○					1				
	スポーツ心理学	1後		2		○									兼1
	スポーツ社会学	2前		2		○						1			
	小計 (8科目)		4	12	0		—		3	3		1			兼1
専門科目	予防医学	3前		2		○									兼1
	小児保健	3後		2		○									兼1
	精神保健	2後		2		○									兼1
	学校保健	2前		2		○			1						
	救急処置法	3前		2		○			1						兼1 集中
	救急処置実習	3前		1				○							兼1 集中
	健康心理学	3前		2		○									兼1
	スポーツ栄養学	2後		2		○			1						
	健康栄養食品学	3前		2		○			1						
	発育・発達老化論	3前		2		○				1					
	健康増進科学	3後		2		○			1						
	生活習慣病と運動	3前		2		○			1						
	体力測定・評価	3前		2		○				1					兼1
	運動処方 of 理論と実習 I	2後		2		○				1					兼1
	運動処方 of 理論と実習 II	3後		2		○			1						
	スポーツ障害	3前		2		○			1						
	トレーニング実習 I	2後		1				○			1				兼3
	トレーニング実習 II	3前		1				○		1					兼3
	野外運動論	3前		2		○					1				
	野外運動実習 (キャンプ)	3前		1			○		1		1	1			集中
	体育経営管理学	3後		2		○									兼1
	スポーツ政策論	4前		2		○									兼1
	スポーツ環境論	3後		2		○			2						オムニバス
	スポーツマネジメント論	4前		2		○									兼1
	スポーツレジャー論	4前		2		○									兼1
	スポーツマーケティング論	4前		2		○									兼1
	障がい者スポーツ論	3後		2		○				1					兼1 オムニバス
レクリエーション論	2前		2		○					1					
レクリエーション実技 I	2前		1				○				1				
レクリエーション実技 II	2後		1				○				1				

教育課程等の概要															
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目 展開科目	スポーツ方法学実習(陸上Ⅰ)	1前		1				○				1	2	兼1	
	スポーツ方法学実習(陸上Ⅱ)	1後		1				○				1	2	兼1	
	スポーツ方法学実習(バスケットボール)	1後		1				○						兼1	
	スポーツ方法学実習(バレーボール)	1前		1				○						兼1	
	スポーツ方法学実習(サッカー)	1後		1				○						兼1	
	スポーツ方法学実習(ハンドボール)	1前		1				○	1						
	スポーツ方法学実習(ウィンタースポーツ)	2後		1				○		1				集中	
	スポーツ実習(陸上)	1前・後		1				○							兼1
	スポーツ実習(バスケットボール)	1前		1				○							兼1
	スポーツ実習(バレーボール)	1後		1				○							兼1
	スポーツ実習(サッカー)	1前		1				○							兼1
	スポーツ実習(ハンドボール)	1後		1				○	1						兼2
	スポーツ実習(体操)	2後		1				○							兼2
	スポーツ実習(水泳)	2前・後		1				○		1					兼1
	スポーツ実習(水中運動)	3前		1				○							兼1
	スポーツ実習(エアロビクスダンス)	3前		1				○							兼1
	スポーツ実習(マリンスポーツ)	2前		1				○				1			集中
	スポーツ情報学	3後		2			○			1					
	スポーツ統計学	2前		1				○			1				
	運動生理学実験	2前・後		1					○	1					兼1
	バイオメカニクス実験	2前・後		1					○			1			
	スポーツ心理学実験	2前・後		1					○						兼1
	コーチング科学実習	3前		1					○						兼1
	コンディショニング実習	3前		1					○			1			
	アスレチックトレーニング	3後		1					○			1			
	スポーツ指導論	2後		2				○					1		
	生涯スポーツ論	3前		2				○		1					
	地域スポーツ論	3後		2				○					1		
	スポーツ審判法	4後		2				○		1					
	水泳C級Ⅰ	3前		1				○			1				
	水泳C級Ⅱ	3後		1				○			1				
	インターンシップⅠ	3後		1					○				1		集中
	インターンシップⅡ	3後		1					○	1					集中
	保健体育科教育法(陸上)	3前・後		1					○			1	1		
	保健体育科教育法(体操・器械運動)	2前・後		2					○	1					兼2
	保健体育科教育法(球技)	3前・後		1					○	1					兼1
	保健体育科教育法(武道)	3前・後		1					○		1				兼1
	保健体育科教育法(水泳)	3前・後		1					○		1				兼1
	保健体育科教育法(ダンス)	3前・後		1					○						兼1
	保健体育科教育法(授業理論)	3後		2			○				1				
	保健体育科教育法(体育理論)	3後		2			○			1					
	体育史	2前		2				○					1		
	教職概論	1後		2				○							兼1
	教育原理	1前		2				○		1					
	発達心理学	2後		2				○							兼1
教育制度論	2前		2				○		1					兼1	
教育課程論	2前		2				○							兼1	
道徳教育指導論	3後		2				○							兼1	
特別活動論	2後		2				○		1						
教育方法・技術論	2前		2				○		1						
生徒指導論(進路指導を含む)	3前		2				○							兼1	
教育相談(カウンセリング基礎を含む)	2後		2				○							兼1	
教育実習指導	3後～4前		1				○			1					
中学校教育実習	4		4					○	1					集中	
高等学校教育実習	4		2					○	1					集中	
教職実践演習(教論)	4後		2					○	3					兼13 オムニバス	

教育課程等の概要															
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	展開科目	教職演習Ⅰ	1後	1			○			1	1	1			
		教職演習Ⅱ	2前	1			○			1	1	1			
		教職演習Ⅲ	2後	1			○			1					
		教職演習Ⅳ	3前	1			○			1	1				
		教職演習Ⅴ	3後	1			○			1			1		
		教職演習Ⅵ	4前	1			○			1	1				
		スポーツコーチ演習Ⅰ	1後	1			○					1			兼2
		スポーツコーチ演習Ⅱ	2前	1			○				1				
		スポーツコーチ演習Ⅲ	2後	1			○						1		
		スポーツコーチ演習Ⅳ	3前	1			○						1		
		スポーツコーチ演習Ⅴ	3後	1			○				1				兼1
		スポーツコーチ演習Ⅵ	4前	1			○				1				兼1
		健康トレーナー演習Ⅰ	1後	1			○			1					
		健康トレーナー演習Ⅱ	2前	1			○					1			
		健康トレーナー演習Ⅲ	2後	1			○			1					
		健康トレーナー演習Ⅳ	3前	1			○						1		
健康トレーナー演習Ⅴ	3後	1			○						1				
健康トレーナー演習Ⅵ	4前	1			○				1						
	小計(104科目)		0	152	0		—		9	5	5	3		兼61	
演習科目	演習科目	基礎演習Ⅰ	1前	2			○			11	5	5	2		
		基礎演習Ⅱ	1後	2			○			11	5	5	2		
		専門基礎演習Ⅰ	2前	2			○			11	4	5	3		
		専門基礎演習Ⅱ	2後	2			○			11	4	5	3		
		専門演習Ⅰ	3前	2			○			12	5	1	3		
		専門演習Ⅱ	3後	2			○			12	5	1	3		
		専門演習Ⅲ	4前	2			○			12	5	1	3		
		専門演習Ⅳ	4後	2			○			12	5	1	3		
	小計(8科目)		16	0	0		—		12	5	5	3			
合計(203科目)		—	40	274	0		—		12	5	5	3		兼189	
学位又は称号		(学士) スポーツ健康科学			学位又は学科の分野			体育学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
全学共通科目25単位以上、専門科目:導入科目で4単位、基礎科目で6単位以上、基幹科目で8単位以上、展開科目で40単位以上、演習科目16単位修得し、全学共通科目または専門科目で25単位以上、124単位以上修得すること。(履修科目の登録上限:49単位(年間))								1学年の学期区分				2学期			
								1学期の授業期間				15週			
								1時限の授業時間				90分			

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	共生の理解 共生人間論Ⅰ	<p>【概要】 21世紀は共生の世紀といわれる。しかし、世界情勢や国内の諸問題を見ると、また自然環境の破壊や汚染の状況を見ると、更には人間関係を見ると、あまりにも反共生的な現実に溢れている。こうした現実を真正面から見詰め、その背景にある問題、思想的な課題を分析し、これからの人類の生き方と、その理念的な根拠(パラダイム)を考えていくこととする。そのためには生態系における共生の実際や人間の本質なども参考にする。</p> <p>「共生人間論」であるので、共生の問題とあわせて、その共生を人間という立場から問う関係上、人間存在についても問いかけることとする。その上に立って、人間の生き方を考察し、あわせて仏教の基本的な考え方と対比して、仏教による共生への道の意義を検討する。人間だけが持つ宗教を通じた共生の可能性と仏教への理解が深まることを期待する。</p> <p>【到達目標】 ①我々の置かれている現実を見つめることからはじめ、その背景にある考え方を取り出し、その問題点を解決する新たな考え方(ここでは共生思想)の理念の枠組みを理解すること。 ②人間存在とはどのような存在なのかを考える。 ③人間はいかにして形成されるのかを考える。 ④その上で今、人間に課せられた課題にいかに取り組むかを考える。 以上のことについて各自が真剣に考え、自分の言葉で表現できるようにする。</p> <p>【授業計画】 (第1回) 授業展開の方法と評価について(聞・思・修の態度) (第2回) なぜ今共生が言われるのか①世界情勢の現実 (第3回) なぜ今共生が言われるのか②人間関係の諸問題 (第4回) なぜ今共生が言われるのか③社会・集団の諸問題 (第5回) なぜ今共生が言われるのか④自然環境の実際 (第6回) 人間の欲望の特質 (第7回) 生態系における共生の姿 (第8回) さまざまな分野における共生① (第9回) さまざまな分野における共生② (第10回) 共生を成り立たすパラダイム①(異なりの尊重、平等) (第11回) 共生を成り立たすパラダイム②(差別・排除の問題) (第12回) 共生を成り立たすパラダイム③(個別・自由・平和の問題) (第13回) 人間存在の特質 (第14回) 人間とはいかなる存在か、人間はいかにしてつくられるか(心と行為の問題から) (第15回) まとめ</p> <p>【授業方法】 ノート講義を中心とする。 授業の展開にあわせて、適宜レポートの提出や小テストを実施する。</p>	
全学共通科目	共生の理解 共生人間論Ⅱ	<p>【概要】 共生人間論Ⅰでの理解を通して、現代社会の問題に対して、仏教の立場から共生について考察する。したがって、仏教のものの考え方、見方の理解からはじめて、本学の建学の精神である仏教の共生の理論について理解を深めることを目的とする。そのために仏教の基本的な思想構想としての縁起の思想、無常という促し方、無我という立場、さらには世界で初めて「共生」の言葉を作り出し社会的に実践した、本学の初代学長である「椎尾弁匡」の共生論の特質、さらには浄土教における共生論について理解を深め、これからの人類の生き様について考えることとする。</p> <p>【到達目標】 仏教による共生の可能性と有意義性について確認しながら、仏教思想に基づく人間の生き方を学ぶ。欲望の肥大が引き起こす様々な社会問題や人類の存亡にかかわる問題に対して、仏教の果たす役割の大きさに理解が深まることを目標とする。</p> <p>【授業計画】 (第1回) 授業展開の方法と評価の仕方 (第2回) 仏教の基本的な立場…利害を超えた現実直視 (第3回) 諸行無常の意味 (第4回) 無我の現代的意義…近代思想の問題点との対比の中で (第5回) 存在のあり方の理解…縁起の理解① (第6回) 存在のあり方の理解…縁起の理解② (第7回) 仏教による共生に対する諸学説の紹介 (第8回) 自己をみつめることの重要性…仏陀の言葉から (第9回) 自己と他者の関係(共生)における不可欠な要素…仏陀の言葉から (第10回) 浄土宗における共生の理論① (第11回) 浄土宗における共生の理論② (第12回) 椎尾弁匡師の共生論① (第13回) 椎尾弁匡師の共生論② (第14回) 仏教による共生の意義 (第15回) まとめ</p> <p>【授業方法】 ノート講義を中心として、適宜発表を求め、理解を深めるために随時小テスト(レポート形式)を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	共生の理解 共生人間論実習A 共生人間論実習B 共生人間論実習C 共生人間論実習D 共生人間論実習E	<p>【概要】 他者との共生、それは自己中心的な生き方ではなく、他者の苦しみを自己の問題として受け止め、その苦しみを抜くために、また他者の幸せのために、自己が出来ることは何かに気づき、自らの生き方を実際的に変革していく生き方である。従って、それぞれが自己の出来る自我らを通して、実践的に他者に関与して、他者理解を深め自己変革を行うための実習を行う。</p> <p>実習日数4日～1週間を予定している。実習機関は福祉施設を始め、ボランティア活動、あるいは地域や団体における様々な活動もその対象となる。それらの詳細については前期(春)ガイダンス以降に履修登録者に説明する。</p> <p>【到達目標】 他者理解と実践的な活動を通して人間関係をよりスムーズに出来る事を目標とする。</p> <p>【授業計画】 実習に出るまでの事前指導と手続き上のガイダンス 実習機関で指定された時間数の実習および実習記録の作成 実習終了後の反省と評価、まとめ</p> <p>【授業方法】 集中講義となるので、指示などに十分注意すること。</p>	
全学共通科目	スポーツ・日本文化 スポーツ(バドミントン)	<p>【概要】 誰しも健康維持・増進にとって運動の重要性はわかっている。しかし、運動の生活化、習慣化は難しい。慢性的食料不足を何百万年も生き延びてきた動物にはエネルギーの無駄使いを避ける強固な機構がある。成長後の動物は身体的遊びをしない。人間も本質的には動物と同じく身体的活動よりもラクを望む。このラクへの基本的欲求が運動の生活化を阻害するのである。</p> <p>一方、ホイジンガーが人間のことを「ホモ・ルーデンス」(遊ぶヒト)といているように、脳の発達した人間は成人後においても身体的遊びをするが、脳が発達しているがゆえに、ただ、単純に体を動かすだけの遊びには満足しない。ゲーム性、創造性、発展性の少ないジョギング、ウォーキング等の運動が三日坊主になりやすい理由でもある。人間には身体の活動と同時に脳の活動が必要である。運動文化といわれるスポーツがこの役割を果たす。</p> <p>習得した身体的遊びの技術(スポーツ)はスポーツを通じての友人との交流、家族の団欒等、生活の内容を豊かにし、さらには健康の維持・増進の手助けともなる。例えば、ゴルフ、テニス、スキー、水泳等の技術を持った人と技術を持たない人では生きる密度が異なってくるものと思われる。</p> <p>本授業ではスポーツ技術、スポーツマンシップの習得を目指す。</p>	
全学共通科目	スポーツ・日本文化 スポーツ(テニス)	<p>【概要】 高度に機械化・情報化の進んだ現代社会では、健康を維持・増進するためには、定期的な身体運動の継続が肝要である。本講義では、硬式テニスを教材としてとりあげ、硬式テニスの学修を通じて、健康を維持・増進するために生涯にわたってスポーツを楽しみながら実践する能力を養うことを目的とする。また、硬式テニスの学修を通じて技術の向上を図ることは勿論のこと、体力の増進や全力を発揮する態度を養い、フェアプレー、スポーツマンシップを涵養し、仲間との交流を図ることも目的とする。</p>	
全学共通科目	スポーツ・日本文化 スポーツ(バスケットボール)	<p>【概要】 バスケットボールの競技発祥と競技特性に関する知識をはじめ、基本技能・動きやルールなどについて実践を通じて学習する。</p> <p>専門的技術の練習をし、その成果がどの程度向上することができたかを中間及び最後のまとめとして確認する。課題をクリアすることによって、それをゲームに活かし高度な戦術につなげることにより競技の楽しみを知る。</p>	
全学共通科目	スポーツ・日本文化 スポーツ(バレーボール)	<p>【概要】 バレーボールは集団スポーツであり、集団による協力が重要である。本授業では、バレーボールにおける個人技術の向上、技術・戦術の理解や、体力トレーニングの方法を学ぶだけでなく、集団による協力の重要性を、ゲームを通して理解・実践する事である。</p> <p>また、相互のコミュニケーション能力を養い、生涯スポーツの一つとして、バレーボールを楽しく実践できることを目的とする。</p>	
全学共通科目	スポーツ・日本文化 スポーツ(サッカー)	<p>【概要】 サッカーという競技の楽しさとは、状況を把握し、自分が判断してプレー(行動)を決定し、イメージ通りにプレーできることである。この授業ではさまざまな工夫でプレーを確保し、判断の伴うスキルの獲得、動きの中でのスキルの獲得を目的とする。</p> <p>「サッカーは少年を大人にし、大人を紳士にするスポーツである。」この言葉の持つ意味を理解し、スポーツの精神、フェアプレーの精神を体現できる教養と人格を身に付けることを目指す。</p>	
全学共通科目	スポーツ・日本文化 スポーツ(ソフトボール)	<p>【概要】 ソフトボールは、老若男女に親しまれ、学校体育でも取り入れられている生涯スポーツの一つである。また、わが国では女子日本代表の国際大会における活躍にも見られるように、競技スポーツとしての人気も高い。</p> <p>この授業では、ソフトボールをレクリエーションスポーツ・競技スポーツの両面から捉え、実践を通して競技に必要な知識や実技を学ぶことを目的とする。また、ゲームを基本とし、そのゲームから得た問題点や改善点を修正する練習を授業に取り入れて行きたいと考えている。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	スポーツ 日本文化	スポーツ (ゴルフ)	【概要】 この授業では、ゴルフの授業(ゴルフを行うこと、観戦すること、調べたり考えること、皆で協力したり支えあったりすること)を通して、スポーツあるいはスポーツ文化への学びを深め、スポーツをより理解したり実践できる能力を養うことを目的とする。また、ゴルフは紳士、淑女のスポーツといわれる。これは、エチケットやマナーが時としてプレーよりも重要視される場合があることに由来するが、本授業においてもゴルフの技術だけでなく歴史、ルールあるいはマナーにふれることでスポーツの持つ奥深さを学んでほしい。
全学共通科目	スポーツ 日本文化	スポーツ (水泳)	【概要】 現在、生涯スポーツという観点からみると、求められる水泳のあり方が多様化してきているのではないかと。オリンピック、マスターズなどの競技としての水泳は、やはりその頂点に位置すると思われるものの、実際には、マリンスポーツ、アクアティックエクササイズなど、レジャーとしての水中活動、健康づくりとしての水泳が幅広く受け入れられているように思われる。 そこでこの授業では、水泳を通して、いかに健康のレベルを高めるかを目的として、トレーニング方法を紹介する。また、応用技術として、本学の屋内プールの特徴を最大限活用した水中活動を試み、長く水泳に接してもらえるような土台をつくりたい。
全学共通科目	スポーツ 日本文化	スポーツ (エアロビクス)	【概要】 エアロビクスダンスエクササイズの魅力を体感し、基本動作の習慣と、それらを自己の身体で表現する能力を身につける。これに伴い、安全に関する知識も学ぶ。音楽に合わせて運動するという他の有酸素運動にない特徴を体験する。上肢下肢をバランスよく組み合わせ、安全で効果的な要素を踏まえながら、「多種多様な動き」を習得する。
全学共通科目	スポーツ 日本文化	スポーツ (アクアビクス)	【概要】 超高齢化社会を迎えたわが国では、寝たきりにならず生涯にわたって健康で自立した生活を営むことが求められている。本講義では、アクアビクスを教材として取り上げ、アクアビクスの学修を通じて生涯にわたってスポーツを実践する能力を養うことを目的とする。またアクアビクスの技術を向上させることは勿論のこと、体力の増進を図ると同時に仲間との交流も目的とする。
全学共通科目	スポーツ 日本文化	競技スポーツⅠ 競技スポーツⅡ 競技スポーツⅢ	【概要】 スポーツの競技力は体力×技術・戦術×精神力という方程式で表される。この授業では、特定の競技種目におけるトップアスリートを育成することを目的とし、それぞれの競技種目の特性や専門性を理解し、競技力に関する要素全般のアップを集中的に図る。 Ⅰでは競技の基礎技術・戦術の習得の徹底を図る。 Ⅱでは基礎技術・戦術の応用を学ぶ。 Ⅲでは実践の中でこれまでに修得した技術・戦術がどこまで通用するかを試し、更なる向上を目指す。体力や精神力についても、ⅠからⅡ、さらにⅡからⅢへとアップを図る。 種目：野球、サッカー、テニス、ソフトボール、水泳、陸上、相撲
全学共通科目	スポーツ 日本文化	日本文化 (書道)	【概要】 悠久の豊かな中国の名品と日本の優美華麗な名筆をビデオなどによって接し鑑賞する。書の様々な歴史的意義、流れを知る。実技によって、うるわしい書の技法を学び、個性溢れる様々な楽しい作品を制作する。又、会社実務や日常の暮らしの中で役立つ実用書道を学ぶ。
全学共通科目	スポーツ 日本文化	日本文化 (茶道)	【概要】 美しい日本の花、我が家の仏間に入ったマレーシアの学生は、自然に手を合せてくれた。インド人の家族を見せてもらった。子供がプレールームだ、と言った。おもちゃがない。そこはPRAYルームであった。アメリカ人がはじめて名古屋に来て、「ミココロセンター」どこですか?と聞いてきた。 日本人には何でもある。しかし大切な心を忘れてしまった。茶の道を歩くと、その心が道すがらおちている。茶を喫し、その型をくり返す、そして、日本人の忘れたものに、もう一度ふれてみようというのが講座の目的である。
全学共通科目	スポーツ 日本文化	日本文化 (華道)	【概要】 21世紀は「交流新時代」といわれる。15世紀にヨーロッパに波及したイタリア・ルネッサンスから500年たち、物質文明から心のコミュニケーションが重視されることから21世紀は「新ルネッサンス時代」ともいえる。「交流新時代」の中で特に重要なものは「自然と人との交流」である。 日本の伝統文化である「華道」は応仁の乱で荒れた室町時代の東山文化期に誕生し、700年余りの歴史の中で育成され、日本発進の世界的な芸術文化として21世紀に新たな展開を秘めている。自然との共存、共生の華道の美的感性と東洋の美意識を理論と実技を通して学ぶことは、「人間形成上」大切なことである。
全学共通科目	スポーツ 日本文化	日本文化 (舞踊)	【概要】 「舞踊」は明治時代に創られた言葉で、それ以前は「おどり」である。つまり昔はどの「おどり」も日本舞踊で、基礎は同じである。この授業は約400年の歴史を持つ歌舞伎舞踊を中心に、それ以前の芸能、現代の芸能・生活との関連性、海外との関連性、また音楽・美術・舞台・きもの・礼儀作法など舞踊にまつわる文化を紹介する。 実技を中心に据え、身体の動かし方から、扇子の扱い方、音楽の聞き取り方、せりふ、着付などをビデオ・実際の舞台鑑賞などを加えて行う。

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	スポーツ・日本文化 日本文化(能)	<p>【概要】 能は世阿弥により開花した室町初頭から600年に及ぶ。その間、権力者の後授を受け隆盛を誇り、又は応仁の乱や明治維新などで存亡の危機に陥ったり、徳川幕府からは古いままやれ、新しい工夫はするなと超保守的になる事(伝統芸能)を強いられた。その結果として内面を熟成し芸術美を深め象徴的な能が出来上がった。 中世にはほぼ確立した能はその後歌舞伎、日本舞踊等演劇や文学にも大きな影響をあたえ、現代に継承されている。 能はもともと室町時代という短い期間に書かれたものが主体であるから、能の中の文章やストーリーに分からない所があるのは当たり前で、この時代の日本人と今の日本人の感性には隔たりがありすぎる。宗教観、生活観、男女のこともそうである。 能を理解することを目的とし、そのために能の基礎知識を学び、能を鑑賞し、能の真髄に触れ、日本文化の理解と国際文化の理解と国際交流に役立てるようにする。</p>	
全学共通科目	スポーツ・日本文化 日本文化(歌舞伎)	<p>【概要】 日本のオリジナルの演劇である歌舞伎を通し、日本人の美意識や表現方法、思考形態などを学び、日本文化を理解する。また、歌舞伎とシェイクスピアなど欧米の演劇や、歌舞伎と現代演劇などを比較研究することで、日本だけでなく、世界の舞台芸術にも影響を与えつつある歌舞伎の表現方法の普遍性と独創性、素晴らしさを学ぶ。</p>	
全学共通科目	スポーツ・日本文化 日本文化(陶芸)	<p>【概要】 人間(ひと)と陶芸(やきもの文化)の関わりは極めて幅広く奥の深いものである。この講座ではその歴史、技術の習得はもとより人間にとって重要である豊かな感性の形成を目指す。</p>	
全学共通科目	スポーツ・日本文化 日本文化(武道)	<p>【概要】 柔道は、昔からわが国に伝えられた柔術を嘉納治五郎が、人間形成の教育法として集大成し、柔道として創始されたものである。現在ではオリンピック種目にも採用され、柔道が国際化するのに伴って、日本文化としての柔道がその内容を失う危険がある。「精力善用・自他共栄」を特性とする柔道は、技術の原理を習得するものではなく、精神と身体力を有効に使用することを本質としている。 本授業は、柔道の伝統文化としての歴史、柔道独特の人間形成としての意味を加えながら、柔道の理解を深めていくことを目的とする。</p>	
全学共通科目	キャリア キャリアデザインⅠ	<p>【概要】 キャリアデザイン、すなわち自分自身をよく理解し、将来の社会人としての「なりたい自分」のイメージを描くための講座である。 「なりたい自分」をイメージするには、まず自分自身の「興味」や「価値観」について知ることが大切である。そして自分の興味や価値観が、世の中にある職業とどうつながるのかを様々な課題を通して考えていく。 また、「なりたい自分」だけではなく、ビジネス社会で求められる「社会人基礎力」という観点から自分の強み・弱みを知り、今後の対策を考えていく。 本講座は、カードやセルフチェックテストといった親しみやすいツールを使って楽しみながらキャリアデザインができるような構成になっている。自分と仕事についての理解を深め、さらに自分自身の可能性を広げることにより、あなたが充実した学生生活を送れるようにすることがこの授業の目的である。</p>	
全学共通科目	キャリア キャリアデザインⅡ	<p>【概要】 キャリアデザイン、すなわち自分自身をよく理解し、将来の社会人としての「なりたい自分」のイメージを描くための講座である。 「なりたい自分」をイメージするには、まず自分自身の「興味」や「価値観」について知ることが大切である。そして自分の興味や価値観が、世の中にある職業とどうつながるのかを様々な課題を通して考えていく。 また、「なりたい自分」だけではなく、ビジネス社会で求められる「社会人基礎力」という観点から自分の強み・弱みを知り、今後の対策を考えていく。 本講座は、職業を通して社会参加することの意味、就職に対する意識付け・自己分析・自己理解等を理解させて再確認させる。同時に企業研究・業界分析の仕方を始め、学生自身の適職探しに至ることを目的とする。</p>	
全学共通科目	キャリア キャリアサポートⅠ	<p>【概要】 この講義の目的は、就職活動に対する基礎的な考え方や能力を身につけることを目指している。就職活動を開始する前に、じっくり時間をかけて職業意識を養いながら、就職活動中または就職後に必要とされる基本的な知識やスキルを涵養することで、社会人としての素地を形成することができ、スムーズに就職活動に移行することができる。 具体的には、就職試験対策としてのSPI2や一般常識、Webテストに準拠した内容で講義は展開。また、社会において必要とされるコミュニケーション能力やビジネスマナーを身に付けるとともに、職業人意識を醸成する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	キャリア	キャリアサポートⅡ	<p>【概要】 この講義の目的は、就職活動に対する基礎的な考え方と能力を身につけることを目指している。就職活動を開始する前に、じっくり時間をかけて職業意識を養いながら、就職活動中または就職後に必要とされる基本的な知識やスキルを涵養することで、社会人としての素地を形成することができ、スムーズに就職活動に移行することができる。 具体的には、就職試験対策としてのSPI2や一般常識、Webテストに準拠した内容で講義は展開。また、社会において必要とされるコミュニケーション能力やビジネスマナーを身に付けるとともに、職業人意識を醸成する。</p>
全学共通科目	キャリア	キャリアサポートⅢ	<p>【概要】 社会人として必要な「マナー」を、単なる机上の知識としてではなく、場面や役割に応じた生きた使い方をすることによって、「自分の働き方」に結びつけるための考え方を学ぶ講座である。 ビジネスに限らず、人と人が出会い、より良い人間関係を築くためには「相手を思いやる気持ち」が大切である。この「思いやりの気持ち」を形に表わしたものが「マナー」である。いくら気持ちがあっても、形として表せなければ他者には伝わらない。マナーが身につくと人間関係は自然にスムーズになり、コミュニケーション力もアップする。 また、社会人になる前にも、就職活動の場面でビジネスマナーやコミュニケーション力が評価される。近年は、就職活動前に就労体験ができるインターンシップの機会も増えている。 就職活動・インターンシップにおいても、まずは社会のルールやマナーを理解しているかが問われる。 マナーに関する知識や考え方を習得し、就職活動やインターンシップに自信をもってチャレンジしよう。</p>
全学共通科目	キャリア	キャリア実践研究	<p>【概要】 実践的なスキルや技術の習得としてのインターンシップ(学生が在学中に、企業・団体等において自らの専攻や将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと)に参加することにより、実社会に触れることによる学習意欲の向上を主たる目的とする。事前研修により、インターンシップ参加の心構えを身につける。インターンシップにおいて実社会の現状を把握する。インターンシップ終了後、自らの経験や今後の学生生活の取組方針について、まとめるとともに、プレゼンテーションができることを目指す。</p>
全学共通科目	キャリア	キャリア実務研究	<p>【概要】 実際の就職活動と並行して学ぶことで、学習内容をそのまま実践につなげられる就職活動支援講座である。 就職活動のハウツーやテクニックばかりではなく、社会で求められる基本的な能力(コミュニケーション力・実行力・思考力)を実際の就職活動を進めながら体系的に身につけられる構成になっている。 本講座では、自分自身が抱えている不安や課題の解決への道を探りながら、ゴールを目指している。そのために必要な、行動計画、情報収集、業種・企業選択、自己分析・応募書類作成などを授業の中でこなしていく。 毎回着実に自分が直面している就職活動の課題を達成していくことで、「やればできる」という自信にもつながる。</p>
全学共通科目	キャリア	情報リテラシーⅠ	<p>【概要】 今日の社会では、あらゆる場面においてパソコンなど情報機器の使用やインターネットを利用した情報収集が不可欠になっている。このような情報化社会において、一般的な機器やソフトウェアの基本操作のほかに、ネット社会の一員として良識ある態度や自己防衛策を身につける必要がある。そこで、情報リテラシーⅠでは4年間の大学生活を送るうえで、最低限、身につけておくべきコンピュータ・リテラシー(コンピュータを使いこなす能力)、及び情報リテラシー(情報を使いこなす能力)を学習する。</p>
全学共通科目	キャリア	情報リテラシーⅡ	<p>【概要】 現在では企業だけでなく様々な組織で、パソコンを用いたデータの分析・視覚化が必要とされるようになってきている。また、わかりやすく視覚的にもインパクトのあるプレゼンテーションも活用される場面は多い。そこで、情報リテラシーⅡでは、表計算ソフトによるデータの分析方法と、プレゼンテーション作成ソフトを使用した研究発表・企画提案の方法を学習する。</p>
全学共通科目	日本語	日本語表現法A(音声)	<p>【概要】 みんなの前で、3分程度の話や朗読をする。聞き手としてのレポートを提出する。 【授業計画】 (第1回)声の文化(話しことばと書きことば) (第2回)自分探し(自分のことを表現する) (第3回)自分の言葉で話す (第4回)自分の声を点検する (第5回)聞きやすい声(共通語の発声) (第6回)言葉の粒立(共通語の発音) (第7回)こことよく響くことば(鼻濁音) (第8回)歯切れよく話す(母音の無声化) (第9回)音としての日本語(アクセント、イントネーションなど) (第10回)声で読む (第11回)声で表現する (第12回)朗読、語りを聞く (第13回)みんなの前で声を出す (第14・15回)まとめ 【授業方法】 講義及び実習を主とするが、適宜ビデオ教材も利用する。</p>

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	日本語	日本語表現法B(文章)	<p>【概要】 文章表現の基本を習得する。日常的・実用的な文章から創造的・芸術的な文章まで、いろいろな文章を書く。基本的な文章の書き方の習得が目的だが、書く事によって意外な自己を発見したり、文を書くことが楽しいという気持ちを感じられることを願う。</p> <p>【到達目標】 文章表現力の向上。テーマに沿って、自分の考えを文章で書けるようになる。</p> <p>【授業計画】 (第1回) 目上の人宛に手紙を書く (第2回) 相手を変えて手紙を書く (第3回) 自分に 関する短い文章を書く① 例「自己PR」「趣味」 (第4回) 自分に関する短い文章を書く② (第5回) 文章を書くための準備(メモ・下書き)について (第6回) 与えられた テーマで文章を書く① 例「私の出会った人」「もう一人の自分」など (第7回) 与えら れたテーマで文章を書く② (第8回) 与えられたテーマで文章を書く③ (第9回) 文章の 仕上げ(推敲)について (第10回) 与えられた資料でレポートを作成する① (第11回) 与えられた資料でレポートを作成する② (第12回) 与えられた資料でレポートを作成する ③ (第13回) 与えられた資料でレポートを作成する④ (第14~15回) 自由に文章を書いて みる 例「音楽を文章にする」「水の入ったコップ」</p> <p>【授業方法】 実作とその添削が中心。文章を書く上での欠点は各人異なる。man-to-manで指導する。 従って作品を提出すればよいのではなく、毎時出席して指導を受けながら制作することが重要である。</p>
全学共通科目	外国語	総合英語Ⅰ	<p>【概要】 本演習では、世界共通語としての英語を必要とする社会の要請に応え、聞く・読む・書くという英語技能の向上を目指し、総合的な英語学習を行う。 なお、英語の学習を効果的にすすめるために、クラス編成は学年当初のプレースメントテストによる到達度別とし、授業内容と教科書は、それぞれのクラスに応じ異なる。</p>
全学共通科目	外国語	総合英語Ⅱ	<p>【概要】 本演習では、総合英語Ⅰに引き続き、世界共通語としての英語を必要とする社会の要請に応え、聞く・読む・書くという英語技能の向上を目指し、総合的な英語学習を行う。 なお、英語の学習を効果的にすすめるために、クラス編成は学年当初のプレースメントテストによる到達度別とし、授業内容と教科書は、それぞれのクラスに応じ異なる。</p>
全学共通科目	外国語	総合英語Ⅲ	<p>【概要】 本演習では、「総合英語Ⅰ・Ⅱ」に引き続き、世界共通語としての英語を必要とする社会の要請に応え、特に聞く・読む・書くという英語の技能の向上を目指し、総合的な英語学習を行う。 なお、英語の学習を効果的にすすめるために、クラス編成は、1年学期末に行ったプレースメントテストによる到達度別とし、授業内容と教科書は、それぞれのクラスに応じ異なる。</p>
全学共通科目	外国語	英会話Ⅰ	<p>【概要】 英語で基礎的なコミュニケーションを取れるように、必要な会話力を養う。とくにスピーキングを強化し、会話を練習する。なお授業の効率化のために、クラス分けテストにより、能力別クラス編成とし、5グループ7クラスに分ける。</p>
全学共通科目	外国語	英会話Ⅱ	<p>【概要】 この授業は「英会話Ⅰ」で修得した技能をさらに伸ばし、英語の理解を深めることを目的とする。学生が外国人に会った時、コミュニケーションが取れるようにトレーニングする。 なお、前期(春)と同じクラス編成である。</p>
全学共通科目	外国語	英会話Ⅲ	<p>【概要】 1) 英語の様々な文の形を理解しながら、実用的な英会話能力を養う。 2) コミュニケーションの道具としての英語の重要性を理解する。 3) 楽しく英語を学ぶ。</p>
全学共通科目	外国語	基礎中国語Ⅰ	<p>【概要】 外国語としての中国語を理解し、使用できるようになるために、初歩的な基礎の習得を目的とする。ピンイン表記による中国語の正確な発音、聞き取り、簡単な中国語の文型による文法等の初歩的段階での総合的な学習をする。特に、正確な発音と、聞くことのできる基本を身につける。また中国語の学習を通じて、現代中国の文化や社会、人々の暮らしについて知る。</p>
全学共通科目	外国語	基礎中国語Ⅱ	<p>【概要】 外国語としての中国語を理解し、使用できるようになるために、初歩的な基礎の習得を目的とする。ピンイン表記による中国語の正確な発音、聞き取り、簡単な中国語の文型による文法等の初歩的段階での総合的な学習をする。特に、正確な発音と、聞くことのできる基本を身につける。また中国語の学習を通じて、現代中国の文化や社会、人々の暮らしについて知る。</p>

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	人文 哲学	【概要】 哲学は、常識や科学的な判断などをそのまま受けいれずにその前提にまでさかのぼって吟味しようとする。新しい考え方をつかんだ、と思った人がいても、既に過去の哲学者や思想家が同じようなことを考えていた、ということはある。したがって、新たなアイデアを模索するだけでなく、過去の学説を学び、考え方の基本に立ち返ることでかえって難局が打開されることもある。そこで、この講義では、西洋哲学の歴史を振り返りながら、基本となる事柄を考え直してみることにしたい。	
全学共通科目	人文 倫理学	【概要】 何が「よい」(「悪い」)ことかを研究するのが倫理学である。主として西洋のアリストテレス以来の倫理思想の紹介を目的とするが、比較対照のために東洋の倫理学説にもふれたい。また近年、新しい問題群として注目を集めている「生命倫理」や「環境倫理」の主なテーマについても説明する。特に重点をおきたいのは、諸学説に関する単なる事典的知識の習得ではなく、何が問題となっているか、どういう考え方があるのか、という内容的な理解である。	
全学共通科目	人文 心理学	【概要】 心理学は一般に生活体の行動の科学と言われる。行動は人の内的要因とその人がおかれている環境的要因によって決まるが、こうした行動を引き起こすような心の仕組みや働きを科学的に明らかにしていく学問が心理学である。心理学には、認知心理学、教育心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学など多くの分野がある。この講義ではこれらの分野の理解に必要な基礎的な知識をとりあげ、心理学が扱う問題と考え方について学ぶことを目的とする。	
全学共通科目	人文 日本史	【概要】 「日本」という国家、「日本人」という民族の形成を主軸として日本古代・中世を概観、日本社会に対する基本的認識力を養う。前半ではまず東アジアの二大文化圏の存在、律令国家形成による7～10世紀の在地社会との対立の歴史を通して、「日本」「日本人」の原型の形成を論じる。後半では院政期における中世封建制社会の開花・鎌倉時代中期以後の社会変動を、東アジア貨幣経済圏の展開というグローバルな視点に留意して論じる。 多様な東アジア社会の一部としての列島社会の原像と、そこからの離脱のプロセスを認識することを通して、アジア社会の一部としての「日本」を認識する。	
全学共通科目	人文 世界史	【概要】 グローバル化時代を生きる現在、環境・政治・経済・文化など、あらゆる分野において地球規模で世界を理解することが、時代の要求として求められている。世界はただ一つであり、そこで生じる問題には地球人みんなが一体となって取り組まなければならなくなっているからである。そのためには、これまでの一国や狭い地域の枠を超えた地球主義の世界史を構築することが必要となる。本講座ではこうした地球市民意識にもとづく新しい世界観に立って、古代から現代までの人類の歩みを、大きな流れのなかで理解することに重点を置いて見ていく。15回の講義では地球人の歴史を丸ごとカバーすることは不可能ですので、一神教の世界である西ユーラシア(西欧・中東地域)を中心に見ていくことにします。この地域の躍動する歴史を理解することは、現在の世界を理解するうえで欠かせないからである。他の地域は、教科書の自習によって、必要な知識を習得しよう。	
全学共通科目	人文 日本文学	【概要】 この講義では、日本の近代・現代文学について、特に「文学と風土」に焦点をあて、学ぶ。 文学作品の舞台となったところを訪ねたり、作家が生まれ、暮らした土地を知ることにより、それまでとは違った読み方ができる。土地の景色、風、空気などその風土を知り、背景を知ることによって、文学をより深く読む。	
全学共通科目	人文 外国文学	【概要】 現代社会においても、世代から世代へと語り継がれている公的な精神上の文化遺産である神話・伝説・民話・迷信・俗信等の民間伝承が生活に溶け込んでいる。伝承文学は民間伝承の一つで、神話、伝説、民話、昔話がそれにあたる。 本授業では、伝承文学のうちの英米の民話について概観し、その歴史的・現代的意味を探ることを目的とする。	
全学共通科目	人文 異文化理解	【概要】 家族関係であれ、友人関係であれ、もともと近くにいる人物を理解できなければ円滑な長い付き合いはできない。企業活動でも同じである。国際化したビジネス環境において隣人であり、最も関係の深い中国人やアメリカ人がどういう考え方を好むかは、それらの国の文化である。また日本の経済や外交や防衛にとっても世界屈指の2大強国については、どれほど勉強してもし過ぎることはないはずだ。それなのに今日の高校までのカリキュラムはこのことを必ずしも重視していないため、企業に就職してから隣国のことに音痴であることに気づいてあわてる日本人があまりにも多い。そのことにより日本の経済ははかりしれぬ損失をしている。近未来でこれら強国とときに共生しときに熾烈な競争をしなければならぬ日本人にとって、中国とアメリカの文化の本質を知ることは、単なる教養ではなく「死活問題」と知るべきであろう。	
全学共通科目	人文 日本文化論	【概要】 日本人が暮らしのなかに伝えてきた「祭り」を通して「祭祀儀礼」、ことに稲作儀礼について学び、稲作をめぐる古代神話と信仰について考える。	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	人文	仏教文化史	<p>【概要】</p> <p>この授業では仏教と日本文化の関わりについて考える。日本人の宗教は一般的に仏教だと言われているが、そもそも仏教の目指していたものは何からか考えを始めて見たい。世界史で学んだ仏教を基にどこまで仏教について知っているかを考え、みんなの仏教観の再検討から始めてみたい。インドから中央アジアを経て漸く日本にたどり着いてきた仏教。それがどのように日本文化に影響を与えてきているかを考えるものである。ある意味では「日本の民俗」を考える授業にもなるが、それだけ日本文化は仏教の影響を受けていたかが知れるものである。それは日本人のものの見方、考え方にも様々に影響を与えたわけであるが、日本人の精神性を知るためには重要な要素でもある。</p>
全学共通科目	社会	憲法と基本権	<p>【概要】</p> <p>日本国憲法が施行されて半世紀以上になる。その間、平和主義を規定した第9条の解釈をはじめとして、憲法そのものの評価をめぐってさまざまな議論がなされ、昨今は憲法改正も取りざたされている。こうした憲法のあり方について最終的な決定権を持つわれわれは、憲法の理念を正しく理解しておく必要がある。憲法は、憲法総論、基本的人権、統治機構の3つの学習分野に大別できるが、最も重要なのは基本的人権の分野であり、基本的人権についての学習が憲法学習の中心となる。そこで、授業では、基本的人権の保障とその内容を中心に解説をし、基本的人権についての理解を深めることを目的とする。なお、憲法総論、統治機構の分野についても必要な限り説明をする。</p>
全学共通科目	社会	社会生活と法	<p>【概要】</p> <p>法律は「最低限の道徳」といわれる存在がある。本講義では主に3つの事項を講義する。一番目：法と法律、法と正義、法律と憲法、憲法と憲法制定権力との関係・相違はどこにあるのだろうか、といった抽象的問題。二番目：①交通事故に遭ったら法律的にはどのように処理されるのだろうか？②16歳の日本人の男性と婚姻適齢にあるアメリカ人の女性とは結婚できるのだろうか？前者は不法行為等の問題であり、後者は国際法・抵触法の問題というように、具体的問題の処理の方法。三番目：法の解釈の方法（法解釈学・文理解釈・論理解釈、類推解釈・反対解釈・拡張解釈・縮小解釈等）など、法技術的な問題。これらの事項に関する講義を通じて、出席者が法的思考・リーガルマインドを少しでも身につけて、生活者として必要となる法律についても学ぶ場とする。出席者が身の回りの事象に対して問題意識をもって分析・検討すれば、法的思考の更なる向上にも資することとなると思われる。</p>
全学共通科目	社会	暮らしと経済	<p>【概要】</p> <p>経済学の基礎的概念を平易に理解することを講義の目的としたい。経済学でいう「資源配分」、「経済主体」の行動、「経済的豊かさ」の指標、消費経済、公共経済のあり方について講義する。また、戦後の日本経済の成長、金融危機、成熟社会における経済的諸問題を社会との関係で講義する。</p>
全学共通科目	社会	市民社会と政治	<p>【概要】</p> <p>現代は、メディア等から国内外の政治に関する情報を受けつつも、国民の“政治不信”や“政治無関心”が叫ばれる時代である。しかし、政治は人間の行為から生まれたものであり、現在も有り続け、密接に我々の生活と関係している。そうした中で、政治は過去・現在においてどのように我々と関係し、役割を果たしてきたのであろうか。そこでこれらを、授業を通じて学びつつ、最終的には政治の将来や、どのようにひとりひとりが政治との関わりをもつかを学生自身に考えてもらいたい。</p>
全学共通科目	社会	社会の成り立ち	<p>【概要】</p> <p>この授業は、家族や地域社会、企業、学校、サークルなどの人と人とのつながりについて考えていく。</p> <p>たとえば、家族を一つの集団としてとらえ、それにはどのような機能があるのか、歴史的にどう変わってきたのか見るとともに、具体的に現在の日本社会で少子化や晩婚化などがどのような状況にあるのかを具体的に見ていく。また、格差社会と言われる日本で、階層とは何か、貧困の実態はどうか、女性の働き方にはどのような特徴があるのか、企業の組織にはどのような特徴があるのか、地域社会でのつながりはどのように変化しているのかなどについて見ていく。</p> <p>今は、人と人とのつながりが薄れている時代、無縁社会とも言われている。自分の身の回りから、人と人とのつながりを考え、そこからさらに想像力をふくらまして、社会のいろいろな人々のつながりはどうなっているのか、さらに日本社会全体はどのような変化を遂げようとしているのか、いっしょに考えていこう。</p> <p>授業では日常の生活のなかに社会学を見出していけるようにしていく。また統計数値を見ながら、事実に即して、社会の構造をとらえるようにしていく。</p>

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	社会 高齢者と福祉	<p>【概要】 年を重ねることの素晴らしさ。それを表現・実感できる社会とはどんな社会だろうか。すべての人が最後まで自分らしく生き続けるための条件整備の課題(福祉)とそれを促す価値観(哲学)が問われている。この講義では、加齢に伴う心身機能の低下や生活スタイルの変化についての理解を基礎にしながら、高齢者福祉の制度の理想と現実、高齢者であっても社会運営の主人公であり続けられる新しい社会組織原理・老年文化をともに考える。</p> <p>【到達目標】 高齢者の生活実態の特徴が把握できること。また、現状の高齢者福祉制度の概要が説明できること。以上2点を基本目標にして、さらに高齢者福祉の国際比較の視点を獲得すること。</p> <p>【授業計画】 (第1回)「若い」の理解…身体の変化 (第2回)「若い」の理解…心の変化、痴呆のメカニズム (第3回) 高齢者の生活…家族生活、家族関係、血縁、近隣関係など (第4回) 高齢者の生活…年金制度の概要 (第5回) 高齢者の生活…高齢者の仕事・職種 (第6回) 高齢者の生活…「ひとりで生きる」、死を巡る社会環境、葬式、死生観 (第7回) 施設福祉と在宅福祉…老人ホームの体系 (老人福祉制度の歴史・変遷と施設福祉) (第8回) 施設福祉と在宅福祉…在宅福祉の現状とマンパワー (保健・医療・福祉の連携) (第9回) 施設福祉と在宅福祉…シルバービジネスを考える (第10回) 余暇と「生きがい」…情報化社会のなかの高齢者、孤立と孤独、老人クラブとテレビ (第11回) 余暇と「生きがい」…高齢者の性とパートナーシップ (第12回) 世界の高齢者福祉事情…福祉先進国の場合(スウェーデン、デンマーク、ドイツなど) (第13回) 世界の高齢者福祉事情…アジアの高齢者と福祉制度 (第14回) 高齢者福祉にみる比較文化論 (ポランディアの位置付けと福祉原理のタイポロジー) (第15回) まとめ</p> <p>【授業方法】 講義を主体に行うが、適宜視聴覚教材も活用する。視聴覚教材に対しては必ずレポート提出を求める。授業時間以外に各自で施設あるいは機関を見学してもらう。</p>	
全学共通科目	社会 国際事情	<p>【概要】 グローバル時代の現代のビジネスでは、国内外の企業において、さまざまな国と文化出身の従業員や顧客に対応する異文化経営が必要である。それには各国の政治的・社会的・文化的事情に関する知識とそれに対応する能力が必要である。 本授業では、異文化経営の基礎知識として世界の概況を地域別に学んだ後に、日本と関連のある世界の国々の事情を地域に分けて学ぶ。 諸外国に関心をもち、国際事情に敏感な態度を身につけるよう努力して欲しい。</p>	
全学共通科目	社会 社会保障論	<p>【概要】 現在、日本では人口の高齢化が、人類史上かつてないスピードで、かつてない水準に向かって進みつつある。この結果、老人医療費や老人を介護するための費用を中心として社会保障に必要な費用が急増しつつある。「揺りかごから墓場まで」人びとの生活が国によって保障されていること自体は喜ばしいことであるが、その費用は結局は国民それぞれが負担しなければならない。かつてのように経済が高いテンポで成長していた時代には、高度成長の果実によって、この費用のかんりの部分をまかなうことができたが、もはやそのようなことを期待することはできない。今や、国民ひとりひとりが、自らの負担の限界と関連させて、福祉における給付のあり方を考えなければならない時代を迎えているのである。本講義では、学生が社会保障制度についてより正確な理解を有するようになることを目指して、社会保障制度の歴史と現状を論ずる。</p>	
全学共通科目	社会 社会と福祉	<p>【概要】 本授業では、社会福祉の基本的な考え方や21世紀における新しい社会福祉のあり方、方向性について概括的に学習をすすめていく。具体的には、新しい社会福祉の全体像の理解や個別の諸課題、例えば、高齢者問題(雇用・生きがい・介護など)、障害者問題(自立・就労・社会参加など)、児童問題(虐待・養護など)について、社会的な事例を可能な限り利用しながら考える。 社会福祉の課題は、自分達とは異なる外界の出来事として、客観的に捉える視点も時には大切であるが、どこかで自分達とは繋がっているかもしれないといった主観的な観点から理解することをもとても重要である。そこでは、社会福祉を学習するひとり一人が、自分に向き合う勇氣と他者を受け入れる大きな器が求められてくる。授業を通して目的とする点は、そうした事柄に一人でも多くの学生が気づいてもらうことと、これからの社会にとって社会福祉の必要性や重要性についてしっかりと考えてもらう点にある。</p>	
全学共通科目	自然 健康と運動	<p>【概要】 超高齢化社会を迎えて、健康に長生きすることは個人にとっても社会にとってもますます重要になっている。そして、そのためには運動が極めて大切であることが多くの科学研究によって実証されている。本講義では運動と健康との関係について理解を深めるために、各ライフステージにおける運動の意義や生活習慣病予防のために必要な運動を中心に概説する。受講生諸君が近い将来、社会に出て活躍するためにはまず、自らの健康管理能力を身につける必要がある。そのためにはどのような運動をすべきか、また、適正な身体組成を保つためには何をすべきかといった、実践能力を身につけてもらうことを目的としたい。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	自然 生活と環境	【概要】 私たちが取り巻く環境は、自然からの影響はもちろんのこと、時代的・社会的な影響を受けながら変化してきている。また、見方を変えると私たちのライフスタイルの変化等が環境に影響を及ぼしているといえる。本講では、身近な生活における環境の現状とそこでのニーズや課題について論じ、今後私たちが考え、取り組むべき事柄についての理解を深めることを目的とする。	
全学共通科目	自然 自然と環境	【概要】 我々を取り巻く自然は日々変貌を遂げているが、これまで人類が自然に及ぼした変化は、21世紀に入り急速に危機的な様相を深めている。環境問題は我々人類が21世紀において直面する最大の課題の一つで、地球上に棲息するすべての生物の命に関わる重要な問題である。この講義では、地球環境破壊の現状を分析して、原因の究明、自然破壊防止、自然との共生と復活のために、われわれ一人ひとりが何ができるかを考え、果たすことができる役割を探る。	
全学共通科目	自然 生命の科学	【概要】 前半8回の授業は、人体の構造と機能について、大学生に望まれる教養程度の知識を得ると同時に、各機能が破綻した状態である病気について理解することを目的とする。 後半では、微生物のような単細胞生物から、人のような多細胞生物にいたる多くの生命に共通する事項について学び、生命の多様性についての理解を深めることを目的とする。	
全学共通科目	自然 生物学Ⅰ	【概要】 この講義では、生物に特徴的な現象のうち、私たちの身近なことや私たち自身にかかわること、すなわち、遺伝子やゲノム、個体の発生などについて理解するための基本的知識を学び、同時に生命の営みに対する科学的見方を深めることを目的としている。すなわち、私たち生物(ヒト)の基本単位である細胞やゲノム、生物の発生・分化などについて学ぶとともに、暮らしの中に見出される生物学、クローン、遺伝子組換え、テラーメイド医療など、最近の話題も加えながらともに学んでいく。	
全学共通科目	自然 生物学Ⅱ	【概要】 細胞は生物の基本的単位である。そこで、この講義では、最初に細胞の一般的構造を学び、次いで主として動物細胞の細胞膜、核、および種々の細胞小器官について個別にその構造と機能を学んでいく。さらに、生命現象をささえる物質(糖質、アミノ酸・タンパク質、脂質など)の代謝やエネルギー代謝についても学び、生化学的基礎を養っていく。これらが、私たちの暮らしや私たち自身とどのように関連するか、バイオ関連の身近な例や様々な話題を挙げて理解を助ける。	
全学共通科目	自然 化学Ⅰ	【概要】 人間の健康に関わる仕事を志す者にとって、日常生活が健康的で豊かであるように心がけることは極めて重要である。この点、近年の科学技術の発展が果たしてきた役割は大変大きいと言える。科学の進歩は多くの物質を生み出し、生活を便利に、且つ、快適にしてきた。従って、人々を取り囲む環境中にはさまざまな物質がある。私たちの体も物質からできており、日常生活は物質との相互作用の上に成り立っていると言える。この講義では、専門分野の生化学、栄養学、生理学などの理解をたすけるため、物質の成り立ちや性質に関する化学の基礎的な考え方や知識を学習する。	
全学共通科目	自然 化学Ⅱ	【概要】 私たち人間のみならずあらゆる生物は、有機化合物が中心になって作られている。21世紀は生命科学が大発展をした世紀と言われ、多くの新しい学問分野が発達した。私たち自身の生活をよりよいものにするために、特に人間の健康に関わる仕事を志す者にとっては、生物が示すさまざまな生命現象を、有機化合物の構造と機能を学習し、その知識に基づいて分子レベルで理解しようとするのが大切である。この講義では、有機化学の基礎的な知識と代表的な有機化合物について学ぶ。この講義は、生化学、栄養学、生理学などの理解をたすけ、より深めるのに役立つ。	
全学共通科目	自然 物理学	【概要】 これは、高校で物理を学ばなかった、あるいは十分に学ばなかった学生のための授業である。勉強したからといって「お金になる」ものではないが、やれば必ず人生の財産になると気付くものである。“基礎”学習は、潜在能力を高めてくれるものがある。予備知識は仮定しないが、なにしろ土台から順に“組み立てられていく”ものであるから、復習は必要である。それを支えるのは“やる気”だろう。高校で物理は暗記科目のようだったと思った人も多いだろうが、そうでないことを示すのが私の課題である。 まず見慣れた(耳慣れた)現象として、ドップラー効果を取り上げ“簡単な数学処理”で理解できることを実感してもらいたい。続いて力学及び流体力学についての話をする。数学的処理は少々難しいので、それにはあまり立ち入らずに学習する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	自然 数学	<p>【概要】 「何のために数学を勉強するのか」。それは「役に立つものだからある」と説明する人もいるが、実益を求めて講義で勉強すると、数学は、たいがい挫折する。御存じのとおり、わからないと頭が痛くなり、やる気がなくなるが、それを超えてわかってくると、何んともいえない爽快感があり「面白い」のである。結局、「山を超えると気持ちいい」という体験のために勉強するのである。</p> <p>今回は、中学の連立方程式の解法を、現代数学的に書きなおしてみた。目新しい方法であるから、学習した後はきっと自慢できるものだと思う。指数及び三角関数は“知らない恥をかか”という種類のものであるから、高校でのことは忘れて、新しい気持ちで挑んでほしい。高校の授業とは、ちょっと違う展開の仕方である。</p>	
専門科目群	導入科目 スポーツ科学概論	<p>【概要】 近年、様々なスポーツ種目での競技力向上が見られるが、その理由の一つとして、スポーツを科学的に分析し合理的なトレーニングや動作の指導が行えるようになったことが考えられる。本講義では、スポーツ選手や指導者が身につけておくべきスポーツ科学の基礎を習得することを目的とする。</p> <p>【到達目標】 本講義で学んだ知識を活用して、個人にあったトレーニング方法やスポーツ動作を理解し、さらに実践現場でも応用する能力を養うことを目標とする。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉神経の構造と機能、反射、反応、随意運動 〈第2回〉筋組織の構造と機能、骨格筋の収縮機構 〈第3回〉骨格筋のタイプとスポーツ 〈第4回〉エネルギー供給系と運動パフォーマンスとの関係 〈第5回〉筋疲労と筋肉痛のメカニズム 〈第6回〉立つ・歩く・走る動作のバイオメカニクス 〈第7回〉跳ぶ動作のバイオメカニクス 〈第8回〉投げる動作のバイオメカニクス 〈第9回〉打つ動作のバイオメカニクス 〈第10回〉蹴る動作のバイオメカニクス 〈第11回〉トレーニングの原理と原則 〈第12回〉筋力増強のトレーニング 〈第13回〉スピード・パワー・瞬発生のトレーニング 〈第14回〉持久力のトレーニング 〈第15回〉トレーニングの計画法</p>	
専門科目群	導入科目 健康科学概論	<p>【概要】 日本は世界一の長寿の国となった。いまゼロ歳児の平均寿命は男性79歳、女性85歳である。ところが、生まれる子供が少なく長生きの高齢者の増加の影響を受けて、年金、医療費、など社会保障にかかる金額が急増し社会問題となっている。いうまでもなくこの負担は全て現役労働者にかかる。したがって、どの世代においても健康を損ない医療にかかることは、本人は無論社会にとっても大きな損失であり、いま『健康』であることが人生の重要な課題となっていることの所以である。</p> <p>そこでこの授業では、我々が80年間の生涯、こころ豊かに健やかに健康な生活を死ぬまで続けられるようにするにはどのような手だてが必要であるのか、体、心、食の三つの領域から学習する。</p> <p>【到達目標】 ・身体運動、スポーツの実施と健康との関連を理解する。 ・日常生活におけるストレスと心の健康との関連を理解する。 ・生命現象を維持するために不可欠な食と健康との関わりについて理解する。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉健康の概念と健康づくり施策 〈第2回〉スポーツと健康Ⅰ 〈第3回〉スポーツと健康Ⅱ 〈第4回〉生活習慣病Ⅰ 〈第5回〉生活習慣病Ⅱ 〈第6回〉心と健康 〈第7回〉ライフステージと心の健康 〈第8回〉人間関係の心理学 〈第9回〉自分と向き合う 〈第10回〉ストレスとつきあう 〈第11回〉食べ物と健康 〈第12回〉食べ物と栄養 〈第13回〉食べ物と環境 〈第14回〉食品の安全・安心 〈第15回〉食生活と健康</p> <p>【授業方法】 資料を配布し、それによって講義を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	基礎科目 スポーツ医学	<p>【概要】 “スポーツ”は一般的に身体運動活動および運動競技としておこなわれ、心身の健全な発達と健康的な生活の達成を目的としている。また“医学”は生体の構造や機能について探求・考察を行い生理的、病的状態の検査、診断、治療、予防などの研究と診療をおこなうとする学問である。</p> <p>現代の“スポーツ医学”の歴史は古く、紀元前すでに健康長寿のために運動をおこなう、いわゆるhealing exerciseの概念が確立されていた。時と社会の変革はスポーツと医学の意義、役割を多様化させてきたが、現代社会においてスポーツは世界共通の文化であり、医学とともにさまざまな局面で人類の課題の解決に貢献し、来るべき新たな世代、社会に希望と方向性を見出させる力を持つ。スポーツと医学の範疇にとらわれることなく、スポーツ医学がもつ特異的な学問の立場から広く深く考えることの出来る能力を身につけることが望ましい。</p> <p>【到達目標】 スポーツならびに医学の歴史、沿革を知った上でスポーツ医学の目的、意義を理解していること。“スポーツのための“医学”、 “医学のためのスポーツ”として考察でき、疾病や障害の治療、予防などに対しても基本的な事項を理解していること、個人から集団を対象として、スポーツを通じて健全な心身の獲得に寄与できる指導者としての基礎的能力があることを目標とする。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉 オリエンテーション、スポーツ医学概論 〈第2回〉 スポーツ医学各論：スポーツと健康管理 〈第3回〉 スポーツ医学各論：運動と身体構造・機能① 〈第4回〉 スポーツ医学各論：運動と身体構造・機能② 〈第5回〉 スポーツ医学各論：運動と身体構造・機能③ 〈第6回〉 スポーツ医学各論：運動と栄養 〈第7回〉 スポーツ医学各論：運動と発育 〈第8回〉 スポーツ医学各論：運動とライフステージ 〈第9回〉 スポーツ医学各論：運動と傷害：内科的傷害 〈第10回〉 スポーツ医学各論：運動と傷害：外科的傷害 〈第11回〉 スポーツ医学各論：疾患と運動：内科的疾患 〈第12回〉 スポーツ医学各論：疾患と運動：外科的疾患 〈第13回〉 スポーツ医学各論：メディカルチェックアップ 〈第14回〉 スポーツ医学各論：運動指導、運動処方 〈第15回〉 スポーツ医学各論：運動と事故、救急処置</p> <p>【授業方法】 教科書を用いた講義を主体に進める。医学関連の視聴覚メディアを供覧することもある。また理解度を講義に反映する目的でフリーコンポジションの提出を適宜求める。</p>	
専門科目群	基礎科目 健康管理論	<p>【概要】 健康は、人間の幸福にとって最も重要なことの一つであり、人々がそれぞれの人生を豊かに過ごすための基本的条件である。国民一人ひとりが毎日の生活を健康に暮らしていくため、健康の意義、健康の指針、疾病の現状、予防法および健康づくりの実際について学習する。</p> <p>【到達目標】 日常生活において、自らの健康を管理し、運動、栄養、休養を中心とした健康増進の実践を習慣化する。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉 健康とは 〈第2回〉 健康の指標 〈第3回〉 余命、寿命、死因 〈第4回〉 健康づくり施策 〈第5回〉 疾病の予防法 〈第6回〉 運動基準運動指針 〈第7回〉 生活習慣病と運動疫学 〈第8回〉 健康の概念、医事法規 〈第9回〉 生活習慣病概論 〈第10回〉 介護予防概論 〈第11回〉 健康づくりの運動、健康の概念、健康管理 〈第12回〉 生活習慣病とその予防、メディカルチェック 〈第13回〉 地域・学校の健康管理と精神保健、歯科保健 〈第14回〉 職場の健康管理 〈第15回〉 まとめ</p> <p>【授業方法】 授業は、健康管理論を系統的にまとめた適切な教科書を基本にして、解説内容、まとめ等を板書しながら講義の形式で進行する。毎週の授業において、各テーマが持つ意義、目的、解説を習得していく。毎週授業の最後に授業内容に関する課題を2題程小テストの形で提示するので、各自それに対する解答を書いて必ず提出する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	基礎科目 生理学	<p>【概要】 複雑な生命現象を解析し、生命に関するあらゆる謎を分子レベル、細胞レベルおよび固体レベルから解き明かす。人体やそれを構成する各要素(細胞、組織、器官)は、それぞれが目的をもった固有の働き、あるいは役割をもち、生きていくための営みをしている。本講義では、まず、人体を構成する各要素の機能を追求し、人間のからだの仕組みと働きを理解する。そして、それらを総合して、からだの働きがバランスを失ったとき、からだの機能がどのように生理学および生化学的变化をし、病的な症状が現れてくるかなど、そのからくりを知り、薬理概論などとも関連させながら総合的な医学知識を身につける。</p> <p>【到達目標】 からだのしくみと働きを科学的に理解し、学校保健室、教育現場、医療現場、スポーツ関連施設などで日常よく見られる疾病を生理学的に理解した上で、その予防や治療など「正しい健康管理」の指導ができることを到達目標とする。</p> <p>【授業計画】 <第1回> 生理学とは <第2回> 神経系のしくみと働き(神経の興奮と伝達) <第3回> 中枢神経系のしくみと働き <第4回> 自律神経系のしくみと働き <第5回> 感覚のしくみと働き(視覚と聴覚) <第6回> 筋肉のしくみと働き <第7回> 血液・免疫のしくみと働き <第8回> 循環器系のしくみと働き <第9回> 呼吸器系のしくみと働き <第10回> 消化器系のしくみと働き(消化と吸収) <第11回> 消化器系のしくみと働き(栄養と代謝) <第12回> 泌尿器系のしくみと働き(尿の生成と排泄) <第13回> 内分泌系(ホルモン)のしくみと働き <第14回> ホメオスタシスのしくみと働き(体温とその調節) <第15回> まとめ</p> <p>【授業方法】 学内ネットワーク上にリンクした講義資料をパソコンで活用しつつ、ビデオ・DVDなどの視聴覚教材を通して理解を深めながら進める。また、レポート提出や小テストなどで学習の到達度を確認しながら進めたい。</p>	
専門科目群	基礎科目 衛生学	<p>【概要】 衛生と云う字が、「いのちをまもる」と表されているように、衛生学は健康の科学といわれる。わたくしたちは、どうすれば病気に罹らないで健康でいられるのか、わたくしたちが生きている周りの身近な環境を視る目線を養い、基礎的な人体生理学の知識、また、環境保全のための処理・対策の科学的な知識、また、労働衛生について衛生管理の基礎的な知識などを考え、学ぶ場を与えたい。</p> <p>【到達目標】 衛生学は人の健康の科学という分野である。人の身近な生活環境と健康、労働環境の衛生管理、などの基礎的な知識を学び、考える視点を養うこと。</p> <p>【授業計画】 <第1回> 衛生学とは何か-健康の科学 <第2回> 内分泌かく乱化学物質とエストロゲン <第3回> 河川・湖沼・沿岸海域の水環境の化学 <第4回> 生物をとりまく環境・生態学について <第5回> 大気汚染の化学物質 <第6回> 地球環境問題と炭酸ガス <第7回> のみ水の問題と水質管理 <第8回> 身の周りの環境汚染物質 <第9回> 労働衛生と作業健康管理 <第10回> 環境工学と処理・対策 <第11回> 疾病予防と感染症について <第12回> 発がんと食品衛生について <第13回> JAS法と食品衛生法の視点 <第14回> 衛生学演習問題とまとめ <第15回> まとめ</p> <p>【授業方法】 プリントによるレジュメを配布して、講義する。</p>	
専門科目群	基礎科目 公衆衛生学	<p>【概要】 公衆衛生学は、疾病発生の要因は環境にあるとする「疫学」の考え方を基本としている。現代は、「人間は生態系のなかで存在し、人間の存在状態は人間をとりまく環境によって支配される」と言われる。歴史的に疫学の意義にこだわりつつ、公衆衛生学の基礎を学ぶ場を与えたい。また、公衆衛生学の手法は、社会制度の仕組みに組み入れられており、高齢化・年金・福祉の問題点について、公衆衛生学の視点で考えるときを与えたい。</p> <p>【到達目標】 ひとの健康管理と疾病予防の方法は、一人ひとりの環境と生活習慣にあることを自覚すること。また、公衆衛生学は行政の仕組みとして高齢化・年金・福祉などの制度を学ぶこと。</p> <p>【授業計画】 <第1回> 公衆衛生学とは何か-疫学について <第2回> 公衆衛生学とは何か-公衆衛生の歴史 <第3回> 人口静動態統計と疾病統計について <第4回> 疫学と感染症について <第5回> 環境衛生と水 <第6回> 汚水処理と廃棄物・ごみ問題 <第7回> 環境保全と地球環境問題 <第8回> 室内環境汚染と労働者の健康障害 <第9回> 疾病予防と生活習慣病について <第10回> 疾病予防と食品衛生の問題 <第11回> 健康管理と公衆衛生活動 <第12回> 高齢化と社会保障について <第13回> 公衆衛生学で用いられる統計学について <第14回> 公衆衛生問題演習と課題レポートの講評 <第15回> まとめ</p> <p>【授業方法】 プリントによるレジュメを配布して、講義する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	基礎科目 機能解剖学	<p>【概要】 ヒトの運動は、複雑な生体機構の協調によって発生・維持される。この講義では、解剖学・工学・運動生理学の基礎概念や方法論を応用・発展させることにより、骨・筋・腱・靭帯の運動の発生・許容・制御に関するメカニズムの基礎を習得することが目的である。具体的には、筋骨格系の基本構造とそれを構成する組織の力学的特性を学び、「機械としての人体の機能」のメカニズムを考察する。それによりヒト特有の動きの特徴を理解し、スポーツおよび健康科学に応用できる基礎力を身につけることである。</p> <p>【到達目標】 身体構造の基礎知識を習得し、科学的根拠に基づいた身体各階層レベルの運動発生と力学的性質が説明できるようになる。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉オリエンテーション(授業展開の説明) 〈第2回〉関節の基本構造と機能 〈第3回〉機械としての人体(工学との接点) 〈第4回〉骨・関節軟骨の力学 〈第5回〉靭帯・腱の力学 〈第6回〉筋肉の構造と収縮メカニズムⅠ 〈第7回〉筋肉の構造と収縮メカニズムⅡ 〈第8回〉足の運動と衝撃吸収メカニズム 〈第9回〉膝関節の運動と靭帯による制御 〈第10回〉骨盤と下肢の運動 〈第11回〉脊柱と胸郭の運動(運動学) 〈第12回〉脊柱と胸郭の運動(運動力学) 〈第13回〉肩関節の運動 〈第14回〉肘・手関節の運動 〈第15回〉これまでの授業のまとめ</p>	
専門科目群	基幹科目 バイオメカニクス	<p>【概要】 我々は日常種々の動作を何気なく行っているが、その動作の成り立ちは実に巧妙であり複雑である。一見、簡単に見える、立ったり、歩いたりする運動ですら、大脳からの命令系統、身体各部からの情報、筋が収縮する仕組みなど、その運動が組み立てられる過程は単純ではない。また、例えば簡単な身体運動であっても、その現象は力学の法則によって行われている。本講義では身体運動の力学的なメカニズムを理解し、様々なスポーツの競技力向上や障害予防などのスポーツバイオメカニクスについて学習する。</p> <p>【到達目標】 人間が行う様々な動きについて運動学的な立場で理解できるようにすると共に、スポーツにおけるあらゆる現象を物理的に表現し、科学的な立場から観察できるようにする。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉力とその合成 〈第2回〉速度、加速度 〈第3回〉重力による運動 〈第4回〉力と力積・衝突 〈第5回〉運動量保存の法則 〈第6回〉仕事と力学的エネルギー 〈第7回〉エネルギー保存の法則 〈第8回〉回転運動の力学 〈第9回〉スポーツにおけるエネルギーの変換 〈第10回〉スキルと効率 〈第11回〉全身運動と仕事 〈第12回〉エネルギー 〈第13回〉陸上での運動・動作各論(歩行) 〈第14回〉水中・水泳運動 〈第15回〉まとめ</p> <p>【授業方法】 できるだけ実際の運動やスポーツに即した運動力学について講義形式で授業を行う。</p>	
専門科目群	基幹科目 トレーニング科学	<p>【概要】 トレーニング科学では、スポーツや健康運動に必要なトレーニングの基礎的理論について学習することを目的とする。</p> <p>【到達目標】 体育指導者、スポーツトレーナー、インストラクターなどの運動指導者に必要な基礎知識を修得する。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉トレーニングの進め方(原理、原則、トレーニング処方) 1 〈第2回〉トレーニングの進め方(原理、原則、トレーニング処方) 2 〈第3回〉トレーニングの種類 〈第4回〉トレーニング概論 〈第5回〉トレーニング条件と反応・トレーニング強度 〈第6回〉筋力と筋量増強のトレーニング条件とその効果 〈第7回〉筋パワーと筋持久力トレーニングの条件とその効果 〈第8回〉全身運動によるエアロビクトレーニング 1 〈第9回〉全身運動によるエアロビクトレーニング 2 〈第10回〉高温環境と運動 〈第11回〉水中環境と運動 〈第12回〉障害者の運動能力とトレーニング 〈第13回〉発育・発達とトレーニング 〈第14回〉女性の体力・運動能力とトレーニング 〈第15回〉まとめ</p> <p>【授業方法】 講義を主体とする。適宜、小テストを実施する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	基幹科目 運動生理学	<p>【概要】 生理学は生体の機能を研究する学問である。言い換えれば、人間が生きてゆくための機能を研究する基礎医学である。運動生理学は、生理学の一分野として、人間が身体運動を行った時のからだの機能あるいは適応能を系統的に究明し、その法則性を叙述するものである。この講義では、からだの仕組みを理解し、身体運動やスポーツを行った時の生体の諸機能を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 身体運動を行った時のヒトの生理的諸機能を理解する。</p> <p>【授業計画】 〈第1回～第2回〉 運動と筋 〈第3回～4回〉 運動と神経支配 〈第5回〉 運動とエネルギー代謝 〈第6回〉 運動と呼吸 〈第7回〉 運動と血液 〈第8回～第9回〉 運動と循環 〈第10回〉 運動と体温調節 〈第11回〉 運動とホルモン 〈第12回〉 運動と免疫能 〈第13回〉 高温環境と運動 〈第14回〉 水中環境と運動 〈第15回〉 高所環境と適応</p> <p>【授業方法】 講義を主体とし、適宜プリントを配付する。</p>	
専門科目群	基幹科目 体育原理	<p>【概要】 体育・スポーツの基礎的概念について解説し、体育科学・スポーツ科学を学ぶための基礎的知識を身につけるとともに、体育・スポーツの現実を深く理解するための能力を育成する。現代の体育・スポーツの展開を現代社会の情報化・国際化の流れの中で考察し、今日の体育科学・スポーツ科学の進展状況をふまえて21世紀の体育・スポーツのあるべき方向を探求する。これに従って体育目標論を展開し、体育・スポーツの課題を明確にする。さらに、具体的には学習指導要領における保健体育の目標について解説する。</p> <p>【到達目標】 1) 体育・スポーツの問題を考察したり、論議したりするとき必要となる基礎的専門用語が使用できるようにする。 2) 現代の体育・スポーツが歴史的にどのような発展段階にあるか、そして体育・スポーツは現在ますます人々の生活にとって大きな意味を持つようになってきていることを理解し、今日体育・スポーツは、どのような課題を抱えているかを考察できるようにする。 3) 一般に体育目標としてはどのようなものがあるのかを理解し、良い目標とはどのようなものなのか、その目標はどのように立てられるのかを理解し、具体的には日本の学校の体育目標としてどのような目標が掲げられているのかを学ぶ。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉 体育の概念 (1) 国語辞典にみる常識的体育概念を検討し、体育科学の立場からそこに残存する古い概念がもつ問題点を指摘する。〈第2回〉 体育の概念 (2) 体育概念の歴史の変遷について述べ、現代の体育概念を概観する。〈第3回〉 体育の領域 学校体育・社会体育の領域区分を行い、社会体育から生涯スポーツへの転換について社会変化と併せて考察する。また、体育の関連分野についても説明する。〈第4回〉 スポーツの概念 狭義と広義のスポーツ概念を検討する。-競技スポーツ・メディアスポーツ、レクリエーションスポーツ・健康スポーツ・コミュニティスポーツを区分し、それぞれについて解説する。〈第5回〉 スポーツの本質とアマチュアリズム ホイジンガとカイヨワのスポーツの本質論を紹介し、さらにスポーツの本質からアマチュアリズムを考え、アマチュアリズムとプロフェッショナリズムの問題を取り上げる。〈第6回〉 スポーツ・フォア・オールの理念 ヨーロッパ諸国のスポーツ政策の展開過程をあとづける。〈第7回〉 体育・スポーツ憲章 スポーツ・フォア・オールの理念が結実したヨーロッパ・スポーツ憲章やユネスコの体育・スポーツ憲章を紹介する。〈第8回〉 文化としてのスポーツと現代スポーツ政策 スポーツを文化としてとらえる立場が主張され、文部科学省のスポーツ政策もこれを根拠として展開していることを明らかにする。〈第9回〉 スポーツとコミュニケーション 学校・企業・クラブ・地域におけるスポーツを、スポーツのもつコミュニケーション機能の重要性に注目して検討する。〈第10回〉 スポーツと倫理 現代におけるスポーツはさまざまな倫理的問題を生じていることを明らかにし、スポーツの道徳的基盤を検討するとともに、学校体育における体育と道德教育の関連を考察する。〈第11回〉 スポーツと環境 環境問題が人類の生存にとって不可避の問題となった今日、スポーツにおける環境問題への取り組みが求められていることを理解し、行動できるようにする。〈第12回〉 体育目標論 現代の体育目標を分類し、それについて解説する。〈第13回〉 学習指導要領の保健体育目標 (1) わが国の学習指導要領総則と保健体育科の目標について解説する。とくに、改訂の要点に注目する。〈第14回〉 学習指導要領の保健体育目標 (2) 中学校と高等学校の相違点を明確にする。〈第15回〉 まとめ</p> <p>【授業方法】 授業で講義した内容に関して適宜課題を与え、ミニ・レポートを提出させる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	基幹科目 コーチング科学	<p>【概要】 スポーツパフォーマンスを向上させるためには、トレーニングとかコーチングの手続きが必要である。自己流の練習はパフォーマンスを向上させないばかりか、時にはスランプやスポーツ障害の原因ともなる。コーチは4頭立ての馬車のことである。馬車には乗客を安全に目的地に送り届ける役目がある。 スポーツ活動に参加する人にはそれぞれの目的がある。これらの目的を安全に、かつ能率的に達成させる手助けがコーチングである。コーチングの科学的基盤を学習するのが本授業の目標である。</p> <p>【到達目標】 コーチングの基本的知識と科学的なトレーニングの指導方法を身につける。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉 スポーツ指導者とは(スポーツ指導者の必要性, スポーツ医学に関する知識の必要性) 〈第2回〉 指導者の心構え・視点(医科学スタッフとの連携, 指導者として必要なコミュニケーションスキル) 〈第3回〉 プレイヤーと指導者の望ましい関係1 〈第4回〉 プレイヤーと指導者の望ましい関係2 〈第5回〉 ミーティングの方法1 〈第6回〉 ミーティングの方法2 〈第7回〉 競技者育成プログラムの理論に基づく展開 〈第8回〉 競技者育成と評価1 〈第9回〉 競技者育成と評価2 〈第10回〉 競技者育成システムにおける指導計画1(海外の競技者育成システム事例の紹介) 〈第11回〉 競技者育成システムにおける指導計画2(海外の競技者育成システム事例の紹介) 〈第12回〉 競技者育成プログラムの理念1(一貫指導システム, 指導者の役割, ネットワーク) 〈第13回〉 競技者育成プログラムの理念2(一貫指導システム, 指導者の役割, ネットワーク) 〈第14回〉 スポーツと倫理(ドーピングなど) 〈第15回〉 まとめ</p> <p>【授業方法】 教科書、プリント、プロジェクターを用いて授業を進めていく。毎授業で出席確認をし、定期的に小テストを行う。</p>	
専門科目群	基幹科目 スポーツ心理学	<p>【概要】 スポーツ活動における心理的側面について、生理学的・力学的・社会的アプローチによる基礎理論の理解と習得を目的とする。スポーツ選手およびスポーツ活動に関わる人達が経験する心理学的問題について理解を深め、スポーツに内在する心理的特性、スポーツ行動を生み出す動機、スポーツ行動やパフォーマンスに影響する心理的要因としての集中力、不安・緊張・興奮状態、自己効力感、パーソナリティについて学習する。</p> <p>【到達目標】 運動の制御・学習メカニズムを知るとともに、その基本原理が心の問題と同型性であることを理解する。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉 スポーツ・運動の心理1 〈第2回〉 スポーツ・運動の心理2 〈第3回〉 スポーツ・運動スキルの獲得とその獲得過程1 〈第4回〉 スポーツ・運動スキルの獲得とその獲得過程2 〈第5回〉 メンタルマネジメント1(メンタルトレーニング, プレッシャーの対処法含む) 〈第6回〉 メンタルマネジメント2(あがり, スランプの対処法含む) 〈第7回〉 メンタルマネジメント3(一般人の健康増進への活用) 〈第8回〉 メンタルマネジメント4(一般人の健康増進への活用) 〈第9回〉 指導者のメンタルマネジメント1 〈第10回〉 指導者のメンタルマネジメント2 〈第11回〉 指導者のメンタルマネジメント3 〈第12回〉 指導者のメンタルマネジメント4 〈第13回〉 スポーツにおける動機づけ1 〈第14回〉 スポーツにおける動機づけ2 〈第15回〉 まとめ</p> <p>【授業方法】 講義を中心としながらも、各時間に一つ何か簡単な実験あるいは体験できる内容を提示する。そしてそれに関して毎時小レポートを課す。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	基幹科目 スポーツ社会学	<p>【概要】 これまでスポーツは、単に身体運動としてのみ存在してきたわけではなく、社会を反映した文化として存在してきた。グローバル化が進む中で、スポーツも例外ではなく、国境を越える文化としてますます人々の関心を集めてきている。その一方で、スポーツがあまりにも身近なものであるために、分かっているつもりになっていることも多いのではないかと。スポーツ社会学では、いったんスポーツを身体と切り離し、社会的な文脈と関連付けて捉えることによって、スポーツの抱える今日的な問題等を客観的に見、考えていくことを目的とする。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ社会学のフレームワークが分かる ・スポーツを様々な社会的事象と関連して考えることができる ・現代社会におけるスポーツの意義について自分なりの考えを持つ <p>【授業計画】</p> <p>〈第1回〉 ガイダンス、スポーツ社会学クイズ 〈第2回〉 概論 スポーツ社会学 〈第3回〉 スポーツの語源と歴史 〈第4回〉 文化としてのスポーツ① 〈第5回〉 文化としてのスポーツ② 〈第6回〉 日本のスポーツ 〈第7回〉 現代社会におけるスポーツの意義① 〈第8回〉 現代社会におけるスポーツの意義② 〈第9回〉 地域とスポーツー総合型地域スポーツクラブー 〈第10回〉 スポーツ振興基本計画と現状 〈第11回〉 商業主義とスポーツ/メディアとスポーツ 〈第12回〉 ナショナリズムとスポーツ 〈第13回〉 ジェンダーとスポーツ 〈第14回〉 ノーマライゼーションとスポーツ 〈第15回〉 環境問題とスポーツ</p> <p>【授業方法】 授業は講義形式で行い、適宜パワーポイント、OHC、ビデオを使用する。また毎時間小テスト/レポートを実施する。</p>	
専門科目群	展開科目 予防医学	<p>【概要】 学校、社会、家庭等において、養護教育、健康管理、衛生管理を行う上で、予防的観点からこれらを捉えて行くことが重要である。例えば、感染症や伝染病の早期発見と伝染の予防、疾病発生時の処置と対策、生活習慣病の予防等について適切な判断が出来なければならない。本授業では、このための基本的な予防医学の知識を習得することを目的とする。</p> <p>【到達目標】 学校や職場、さらには家庭等に発生する各種の疾病の概要と原因、発生した場合の対処と予防教育の基本を理解するとともに、養護教諭、健康管理士、健康運動指導士、衛生管理者等の役割を把握する。</p> <p>【授業計画】</p> <p>〈第1回〉 予防医学の意義と役割について学ぶ。 〈第2回〉 感染症の発生と予防方法の総論について学習する。 〈第3回〉 学校における伝染病対策の概要を理解する。 〈第4回〉 免疫のしくみを学習し、疫学調査の実際について学ぶ。 〈第5回〉 第1種学校伝染病の実態と予防方法について学習する。 〈第6回〉 第2種学校伝染病の実態と予防方法について学習する。 〈第7回〉 第3種学校伝染病の実態と予防方法について学習する。 〈第8回〉 その他の学校伝染病の実態と予防方法を学ぶ。 〈第9回〉 性感染症および寄生虫症の実際について学習し、予防方法を把握する。 〈第10回〉 食中毒の実際について学習し、その予防方法を理解する。 〈第11回〉 アレルギー疾患の実態について学習し、予防方法を把握する。 〈第12回〉 生活習慣病とは何かを理解し、その予防方法について学ぶ。 〈第13回〉 メタボリックシンドロームとは何かについて理解し、予防と改善の方法を学ぶ。 〈第14回〉 日本人の死亡原因上位3位までの疾患について学び、その予防方法を把握する。 〈第15回〉 予防医学の観点から養護教諭、健康管理士等の職業人の役割を総括的に理解する。</p> <p>【授業方法】 教科書を用いて授業をすすめ、毎時間の最後に授業内容の課題について小テストを行う。</p>	
専門科目群	展開科目 小児保健	<p>【概要】 急速な高齢化と少子化社会の到来、食文化、食生活の変化を基礎とする小児における生活習慣病の増加などの疾病構造の変化を理解し、対応するため、小児の身体、精神発育、栄養、疾患について学び、さらに母子保健事業、児童福祉法などについても知識を深める。</p> <p>【到達目標】 小児保健のうち、身近なものについて学び、育児の手助けとなり、また保健・保健体育などの教育において、小児を理解し、健全な子供の育成のための基礎知識を習得する。</p> <p>【授業計画】</p> <p>〈第1回〉序-保健・健康・福祉 〈第2回〉疾患構造の変遷-小児に関する統計 〈第3回〉胎児期の疾患 〈第4回〉周産期の疾患 〈第5回〉新生児期・乳児期の疾患 〈第6回〉学童期の発育と疾患 〈第7回〉学校における問題1(知的障害、自閉症) 〈第8回〉学校における問題2(ADHD, LD) 〈第9回〉思春期の疾患 〈第10回〉学校感染症と予防接種 〈第11回〉小児心身症1(摂食障害) 〈第12回〉小児心身症(睡眠異常、呼吸器異常など) 〈第13回〉チック、PTSD 〈第14回〉児童虐待(被虐待児症候群、代理ミュンヒハウゼン症候群) 〈第15回〉まとめ</p> <p>【授業方法】 プリントを配布した講義を主体に行うが、参考図書の資料(統計データなど)、スライドなどを用いる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	展開科目 精神保健	<p>【概要】 現代社会における問題点を視野に入れて、自らの精神的健康に留意しつつ、ストレス社会の中で人が他者とともに、より良く、自己実現的に生きるために必要な知識と方法を少しでも身につけることを目指す。</p> <p>【到達目標】 精神保健の基本的な視点、理論、方法、実際、倫理などの理解を深める。</p> <p>【授業計画】 〈第1回～第2回〉 現代社会の問題点と精神保健 〈第3回～第4回〉 精神的不健康と積極的な精神的健康 〈第5回～第11回〉 ライフサイクルとメンタルヘルス 乳幼児期、児童期、思春期・青年期、成人期、老年期のメンタルヘルス 〈第12回～第13回〉 カウンセリング(個人、グループ)の理論と基礎的技法 〈第14回～第15回〉 精神的健康の保持と増進</p> <p>【授業方法】 一方通行ではなく、学生の見解を求めて相互交流をはかりながら、セルフコントロールを促進する健康法を随時実施することにより知的レヴェルのみではない理解を目指す。ビデオ教材なども用いる。</p>	
専門科目群	展開科目 学校保健	<p>【概要】 学校での保健活動は、生徒の心身の健康を保持・増進し、学校教育の円滑な実施とその成果に資することを目的として行われる、そのために、保健教育と保健管理が効果的に行われなければならない。学校教育において適切な保健指導ができるような、具体的な学校保健の在り方を本講義では学習する。</p> <p>【到達目標】 ①保健体育科教員として必要な学校保健の知識を修得する。 ②保健科学習指導案を作成して、保健授業で必要となる実践的な指導能力を修得する。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉学校保健の領域 〈第2回〉保健指導の目標および内容 〈第3回〉保健指導の指導計画 〈第4回〉教育課程における保健指導 〈第5回〉保健指導の進め方 〈第6回〉保健授業の指導案の作成について 〈第7回〉生活習慣病の予防 〈第8回〉喫煙と健康 〈第9回〉飲酒と健康 〈第10回〉休養と健康 〈第11回〉エイズ予防と健康 〈第12回〉子どもの事故と安全教育 〈第13回〉ホームルーム、学校行事、生徒会活動における保健指導 〈第14回〉保健指導における個別指導 〈第15回〉保健授業の指導案の作成について</p> <p>【授業方法】 「生活習慣病の予防」、「喫煙と健康」、「飲酒と健康」、「休養と健康」、「エイズ予防と健康」、などの具体的な題材をとりあげて、実践的な保健指導の方法を学習する。保健授業の指導案を作成するとともに、教育現場に役立てるための方法を学習する。</p>	
専門科目群	展開科目 救急処置法	<p>【概要】 救急処置法に関する知識・技術は日ごろから研鑽を積んでおくことが望まれる。運動中のケガや病気と救急処置(RICE、救急箱)に対応するための基礎的な知識を身をもって体験するとともに、バイタルサインと心肺蘇生、内科的障害(熱中症(熱疲労、熱痙攣、熱射病、過換気症候群)及び整形外科的障害(突き指、骨折、捻挫、頭部外傷)の救急処置の基本と、症状や本人の訴えから想定される傷病と適切な処置について学ぶ。</p> <p>【到達目標】 ① 救急処置の範囲がわかる。 ② 蘇生法に必要なバイタルサインを把握することができる。 ③ 症状から傷病を予想し、望ましい救急処置を考えることができる。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉 救急処置とは 〈第2回〉 傷病者の観察(バイタルサイン)とトリアージ 〈第3回〉 救急蘇生法(人工呼吸、胸骨圧迫心臓マッサージ) 〈第4回〉 救急蘇生法(異物除去、AED) 〈第5回〉 救急蘇生法(幼児、乳児) 〈第6回〉 止血法、包帯法 〈第7回〉 固定法、運搬法、保温、連絡通報 〈第8回～第9回〉 内科的傷病の応急手当(熱中症、胸痛、腹痛、過換気症候群) 〈第10回～第11回〉 外科的傷病の応急手当(捻挫、骨折、頭部外傷等) 〈第12回〉 スポーツにおける事故と法的責任 〈第13回〉 学校管理下における事故と法的責任 〈第14回〉 教員や指導者の法的責任と判例 〈第15回〉 まとめ</p> <p>【授業方法】 講義、実習、演習形式とする。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	展開科目 救急処置実習	<p>【概要】 救急処置に関する知識・技術は日ごろから研鑽を積んでおくことが望まれる。運動中のケガや病気と救急処理（RICE、救急箱）に対応するための基礎的な知識を身をもって体験すると同時に、バイタルサインと心肺蘇生、内科的障害（熱中症（熱疲労、熱痙攣、熱射病過換気症候群）及び整形外科的障害（突き指、骨折、捻挫、頭部外傷）の応急処置等をロールプレイによるシミュレーション実習によって、緊急時の連絡、現場でできる救命手当と応急処置などが適切に実行できるように実習する。養護教諭免許を希望する学生は、さらに保健室での養護診断、救急処置、事後措置の基本を学習する。</p> <p>【到達目標】 ① 基本的な救急処置法ができる。 ② 救急蘇生法が実行できる。 ③ 症状から傷病を予想し、望ましい救急処置ができる。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉救急処置の基本 〈第2回〉傷病者の観察（バイタルサイン） 〈第3回〉救急蘇生法（人工呼吸、胸骨圧迫心臓マッサージ） 〈第4回〉救急蘇生法（異物除去、自動対外式除細動器：AED） 〈第5回〉救急蘇生法（幼児、乳児） 〈第6回〉止血法 〈第7回〉包帯法 〈第8回〉固定法、運搬法 〈第9回〉重傷度の判断 〈第10回～11回〉内科的傷病の応急手当（熱中症、胸痛、腹痛、過換気症候群） 〈第12回〉外科的傷病の応急手当（頭部外傷、顔部外傷、ショック） 〈第13回〉外科的傷病の応急手当（捻挫、骨折、打撲、腱断裂、脱臼、創傷、肉離れ） 〈第14回〉日常遭遇しやすい傷病のケーススタディ 〈第15回〉スポーツ外傷のケーススタディ</p> <p>【授業方法】 実習形式とする。</p>	
専門科目群	展開科目 健康心理学	<p>【概要】 近年、健康についての社会的関心が高まり、健康についての正しい知識が求められるようになってきている。健康心理学は、人間の健康をとりまく様々な問題を総合的に取り扱う学問領域である。本講義では、健康をめぐる様々な問題について、特に運動指導の心理学的基礎に焦点を当てて行う。特に、健康維持・増進のためには実践、すなわち行動変容が重要であるので、行動変容についての視野を深める。</p> <p>【到達目標】 スポーツ・運動を指導する立場に立った時に、知っておかなければならない基礎的な心理学的知識を習得することを到達目標とする。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉オリエンテーション（授業の概要および進め方の説明・小レポート） 〈第2回〉健康心理学とは 〈第3回〉運動と休養による健康づくり① 〈第4回〉運動と休養による健康づくり② 〈第5回〉ストレスの理解と対処① 〈第6回〉ストレスの理解と対処② 〈第7回〉子どもと健康・スポーツ 〈第8回〉青少年期と健康・スポーツ 〈第9回〉中年期と健康・スポーツ 〈第10回〉高齢期と健康・スポーツ 〈第11回〉運動行動変容の理論と実践① 〈第12回〉運動行動変容の理論と実践② 〈第13回〉運動行動変容プログラムの開発と評価 〈第14回〉健康カウンセリングの理解と演習 〈第15回〉まとめ</p> <p>【授業方法】 双方向型授業を重視し、学生からのフィードバックを求める。必要に応じディスカッション・演習なども取り入れる。</p>	
専門科目群	展開科目 スポーツ栄養学	<p>【概要】 運動による栄養素の代謝を基礎として、健康づくりと競技スポーツのための運動と栄養について学ぶ。</p> <p>【到達目標】 運動と栄養との関係について理解する</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉栄養学の基礎知識、生活習慣病と予防 〈第2回〉運動、栄養と体重調節 〈第3回〉スポーツと栄養1（5大栄養素、栄養素のバランス、食事の摂り方、水分補給） 〈第4回〉スポーツと栄養2（5大栄養素、栄養素のバランス、食事の摂り方、水分補給） 〈第5回〉身体活動量と定量とその実際1 〈第6回〉身体活動量と定量とその実際2 〈第7回〉アスリートの栄養摂取と食生活1（スポーツ選手の競技力向上と栄養） 〈第8回〉アスリートの栄養摂取と食生活2（スポーツ選手の競技力向上と栄養） 〈第9回〉アスリートの栄養摂取と食生活3（スポーツ選手の競技力向上と栄養） 〈第10回〉アスリートの栄養摂取と食生活4（スポーツ選手の競技力向上と栄養） 〈第11回〉栄養・食事アセスメント1（低栄養対策を含む） 〈第12回〉栄養・食事アセスメント2（低栄養対策を含む） 〈第13回〉食生活と健康運動 〈第14回〉消化と吸収の機構 〈第15回〉栄養素の機能と代謝</p> <p>【授業方法】 講義を主体に行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	展開科目 健康栄養食品学	<p>【概要】 健康の維持、増進には、食品から摂取する栄養素、食品成分が深く関わっている。これらが摂取後に体内代謝され、健康に関与する機構を学ぶ。食品素材、加工食品の健康成分の特徴を学び、また、食品表示、法律から健康食品を正しく理解する。</p> <p>【到達目標】 栄養素、食品成分と健康に関する情報が氾濫する今日、情報を的確に判断し、実践の礎となる科学的常識を身につけ、実践指導できる知識を習得する。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉 栄養と健康 〈第2回〉 糖質の栄養(消化、吸収、代謝) 〈第3回〉 タンパク質の栄養(消化、吸収、代謝) 〈第4回〉 脂質の栄養(消化、吸収、代謝) 〈第5回〉 無機質・ビタミンの栄養 〈第6回〉 非栄養成分の栄養 〈第7回〉 食品素材と健康(農産・畜産・水産) 〈第8回〉 加工食品素材と健康(油脂、調味料、香辛料、嗜好飲料) 〈第9回〉 食品の機能性 〈第10回〉 食品表示と法律 〈第11回〉 健康食品 〈第12回〉 保健機能食品 〈第13回〉 栄養補助食品 〈第14回〉 生活習慣病の予防 〈第15回〉 ライフサイクルと栄養</p> <p>【授業方法】 講義を主体に行う。</p>	
専門科目群	展開科目 発育・発達老化論	<p>【概要】 人の生涯は、発育発達の視点から見れば時間的変異の連続である。発育を形態の大きさの量的な変化、発達を身体諸機能の質的および量的変化と捉えたと、人が出生し成人に至るまでは形態的に増大、成長し、それに伴い身体的諸機能が発達して生体が発揮する能力は大きく変化する。しかし、成人を経て死に至るとき、その能力はやがて衰えさまざまな能力は低下する。ここでは、主に人の身体が出生から成人に至る間どのような経過をたどって成長するのか、また、それに伴う運動動作がどのように発達していくのかについて概観する。さらに運動能力向上の様相についても見る。</p> <p>【到達目標】 ・発育・発達期における身体発育の特性や身体機能、体力・運動能力の発達特性についての知識を身につける。加齢に伴う形態、体力・運動能力の変化についての知識を身につける。人の発育発達過程に応じた運動やトレーニング、またその評価について考えることが出来るようになる。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉 たくましく生きる、よりよく生きるために 〈第2回〉 発育発達期の身体的特徴、心理的特徴1 〈第3回〉 発育発達期の身体的特徴、心理的特徴2 〈第4回〉 発育、発達の概論、老化の過程と生体の構造と機能変化 〈第5回〉 発育、発達の概論、老化の過程と生体の構造と機能変化 〈第6回〉 発育発達期の体の変化とトレーニング 〈第7回〉 発育発達期の体力の変化とトレーニング 〈第8回〉 発育発達期におけるあそび、スポーツの教育性 〈第9回〉 発育発達期のプログラム(青少年期の成長発育とトレーニング) 〈第10回〉 加齢にともなう体力の退行と健康 〈第11回〉 体力退行に対する身体運動の効果 〈第12回〉 中・高年期の運動処方と留意点 〈第13回〉 女性の運動処方と留意点 〈第14回〉 障害者のスポーツ参加の現状と課題 〈第15回〉 まとめ</p> <p>【授業方法】 授業時に資料プリントを配布するとともに、パワーポイントを用いて講義を行う。</p>	
専門科目群	展開科目 健康増進科学	<p>【概要】 超高齢化社会を迎え、健康の維持・増進は最も重要な社会的課題の一つである。そのために必要なことは、人生の各ステージによっても異なる。そこで、幼児期から高年期までの各ステージにおける課題について理解を含め、健康増進のための科学的な方法について総合的に学ぶ。</p> <p>【到達目標】 人の一生を通じて、健康の維持・増進をはかるために必要な基礎知識を習得し、健康増進指導を行うための方法に着いても理解を深める。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉 授業ガイダンス 〈第2回〉 健康増進とは 〈第3回〉 発育期の健康と身体活動1 〈第4回〉 発育期の健康と身体活動2 〈第5回〉 発育期の健康と栄養 〈第6回〉 青年期の健康と生活習慣 〈第7回〉 中年期の健康と生活習慣 〈第8回〉 高年期の健康と生活習慣 〈第9回〉 生活習慣と行動変容1 〈第10回〉 生活習慣と行動変容2 〈第11回〉 生活習慣と行動変容3 〈第12回〉 高齢者の健康づくり1 〈第13回〉 高齢者の健康づくり2 〈第14回〉 社会環境と健康 〈第15回〉 まとめ</p> <p>【授業方法】 パソコンやOHPを利用して図表や写真を提示しながら授業を行う。双方向的な授業にしたいので、受講者への問いかけを行い、意見を求める。受講者の理解度をみるために、授業内容に関する小レポートの作成と提出をもとめる。参考書や資料は適宜紹介する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	展開科目 生活習慣病と運動	<p>【概要】 生活習慣病が遺伝的要因、環境要因、生活習慣要因の関連から生じる疾患群であることを理解し、世界的規模で対策が進みつつあることを認識する。さらに、社会的・経済的な面からも重要な疾患群であり、予防・治療の基本的な対応について認識できるようにする。その手段としての栄養・運動・休養を三原則とする健康づくりについて理解を深め、実践できるようにする。</p> <p>【到達目標】 疾患群の概念、疫学、機序などから診断、治療、予防までを理解し解説できること。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉メタボリックシンドローム 〈第2回〉肥満症1 〈第3回〉肥満症2 〈第4回〉高血圧症1 〈第5回〉高血圧症2 〈第6回〉高脂血症1(高尿酸血症) 〈第7回〉高脂血症2(高尿酸血症) 〈第8回〉糖尿病1 〈第9回〉糖尿病2 〈第10回〉虚血性心疾患1 〈第11回〉虚血性心疾患2 〈第12回〉骨粗鬆症 〈第13回〉関節リウマチと変形性関節症 〈第14回〉まとめ1 〈第15回〉まとめ2</p> <p>【授業方法】 基本的教科書、資料を基にそれぞれの病態、治療、予防法について解説する。毎回授業の最後に当日の授業内容に関する課題を2題程提示するので、各自それに対する解答を記述し提出する。</p>	
専門科目群	展開科目 体力測定・評価	<p>【概要】 今日、医学において行われている疾病の治療は検査と診断によってはじまる。体力トレーニングにおいても初期水準の測定と評価に基づいたトレーニング刺激が与えられるべきである。またトレーニング終了後で測定した結果からトレーニングの効果が判断される。本講義では、体力および運動能力の測定法とその結果の処理・評価法を学ぶ。結果の処理・評価には統計的試行・手法が必要であることから統計学の学習も合わせて行う。</p> <p>【到達目標】 体力・運動能力の測定を実践し測定の方法と評価法を理解する。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉体力学総論1 〈第2回〉体力学総論2 〈第3回〉体力と運動能力(構成要素)・体力構成要素の測定法 〈第4回〉フィールドテストの実習1(中年者) 〈第5回〉フィールドテストの実習2(中年者) 〈第6回〉高齢者の体力測定法1 〈第7回〉高齢者の体力測定法2 〈第8回〉介護予防に関連する体力測定法とその評価1 〈第9回〉介護予防に関連する体力測定法とその評価2 〈第10回〉身体組成(形態)の測定 〈第11回〉トレーニング効果の測定と評価の実際1 〈第12回〉トレーニング効果の測定と評価の実際2 〈第13回〉測定データの活用とフィードバックの実際1(統計処理法を含む) 〈第14回〉測定データの活用とフィードバックの実際2(統計処理法を含む) 〈第15回〉まとめ</p> <p>【授業方法】 講義と測定を主体とし、適宜プリントを配布する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	展開科目 運動処方理論と実習Ⅰ	<p>【概要】 本講義では、ストレッチングの理論(意味とその効果)及びストレッチング実施時の安全性、各部位のストレッチングの方法を実習し、ストレッチング指導上の問題点を理解させる。 ストレッチングの目的とその効果、留意点、種類、基本的なストレッチング(部位別のストレッチングの方法)を実習する。また、補強運動の必要性和プログラムへの取り入れ方を理解させる。目的に応じた各種体操(上体起こし、腕立て伏せ、柔軟運動、徒手体操など)や整理体操を実習し、指導法及び実施法を習得させる。アイソメトリック、アイソトニック、アイソキネティック、ウェイト及びサーキット・トレーニングの特徴と各種トレーニングの原則・効果、組み立て方を理解させ、効果的かつ安全に実施できるよう実習を通して指導法を学ばせる。さらに、介護予防のための運動指導について理解させ、その運動プログラムを実技・実習を通して理解させる。</p> <p>【到達目標】 一般的な、トレーニングプログラムの意味を理解し、自らそのトレーニングプログラムを体験することによって、トレーナーとして必要最低限のスキルを身につける。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉指導計画のたて方1(集団の指導計画, 個人の指導計画, 期別計画) 〈第2回〉指導計画のたて方2(集団の指導計画, 個人の指導計画, 期別計画) 〈第3回〉スポーツ活動と安全管理(個人的要因, 環境的要因, 競技特性) 〈第4回〉運動プログラム作成の理論1 〈第5回〉運動プログラム作成の理論2 〈第6回〉生活習慣病(成人病)に対する適切な運動療法1(プログラム作成実習) 〈第7回〉生活習慣病(成人病)に対する適切な運動療法2(プログラム作成実習) 〈第8回〉生活習慣病(成人病)に対する適切な運動療法3(プログラム作成実習) 〈第9回〉生活習慣病(成人病)に対する適切な運動療法4(プログラム作成実習) 〈第10回〉生活習慣病(成人病)に対する適切な運動療法5(プログラム作成実習) 〈第11回〉生活習慣病(成人病)に対する適切な運動療法6(プログラム作成実習) 〈第12回〉運動量とエネルギー消費量の関係 〈第13回〉メッツ(METS)によるエネルギー消費量の推定 〈第14回〉運動強度と心拍数、心拍数の関係 〈第15回〉まとめ</p> <p>【授業方法】 講義を中心に行う。</p>	
専門科目群	展開科目 運動処方理論と実習Ⅱ	<p>【概要】 メタボリックシンドローム、ロコモティブシンドロームに代表される要介護の状況の原因について理解を深めるとともに、一般的なリスク評価を行える基本的検査手技、判定能力について見識を深め、理論のみならず実践できる能力の獲得に努める。</p> <p>【到達目標】 講義、実習で一般的な健診、負荷試験を理解、経験することから基本的な行動変容、運動処方の方法を習得し実践できる能力を獲得する。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉介護予防と運動1 〈第2回〉介護予防と運動2 〈第3回〉健診結果の読み方及び効果判定1 〈第4回〉健診結果の読み方及び効果判定2 〈第5回〉運動のためのメディカルチェックの重要性 〈第6回〉心電図の基礎と記録法(安静時心電図の読み方) 〈第7回〉服薬者の運動プログラム作成上の注意 〈第8回〉運動負荷試験の実際 〈第9回〉運動負荷試験実習1 〈第10回〉運動負荷試験実習2 〈第11回〉運動負荷試験実習3 〈第12回〉運動負荷試験実習4 〈第13回〉運動行動変容の理論と実際1 〈第14回〉運動行動変容の理論と実際2 〈第15回〉運動行動変容の理論と実際3</p> <p>【授業方法】 講義と講義室での実習演習、実際の機器を使用しての実習を適宜配置し行う予定。</p>	
専門科目群	展開科目 スポーツ障害	<p>【概要】 スポーツ活動において起こりやすい内科的障害や整形外科的障害とそれらの予防法や対処法、発育・発達期に特に注意すべきケガや病気、あるいは事故を未然に防ぐためのスポーツ活動前のメディカルチェックについて学習する。</p> <p>【到達目標】 スポーツの現場において見られる主な外傷、障害、そのメカニズム、対処法あるいは予防法など指導者にとって必要な医学的知識についてより高いレベルで理解することを目標とする。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉コンディショニング・メディカルチェック 〈第2回〉アスリートの健康管理システム 〈第3回～第5回〉内科的な急性障害および慢性障害(原因、症状、対処法、予防法など) 〈第6回〉頭部、頸部、体幹部の外傷・障害 〈第7回～第8回〉上肢の外傷・障害 〈第9回～第10回〉下肢の外傷・障害 〈第11回～第12回〉特殊環境化での対応(暑熱、寒冷、高地、時差) 〈第13回～第14回〉ドーピング 〈第15回〉まとめ</p> <p>【授業方法】 講義を主体に行う。非常に身近な話題が中心となるので、受講者諸君にも積極的に講義に参加してもらおう形態の講義を考えている。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目群	展開 科目	トレーニング実習 I	<p>【概要】 スポーツや健康運動のトレーニングには、安全で効果的なプログラムの作成と指導が求められる。本授業では、運動指導とプログラムデザインに必要とされる運動の選択方法、運動強度と量の決定方法に関する知識と技術を学習することを目的とする。</p> <p>【到達目標】 学校体育指導者やパーソナルトレーナーなどの健康運動指導者に必要な基礎知識と安全で効果的な技術と指導法を習得する。</p> <p>【授業計画】 <第1回> ストレッチングと柔軟体操の理論と実際 <第2回> ウォーミングアップとクーリングダウン <第3回> ウォーキングとジョギング1 <第4回> ウォーキングとジョギング2 <第5回> 静的レジスタンス(ウエイト)トレーニング <第6回> 動的レジスタンス(ウエイト)トレーニング <第7回> トレーニングの原則と効果、ウォーミングアップとクーリングダウン <第8回> 運動プログラムの基本的な考え方 <第9回> 体操 <第10回> 自負荷(自体重)を用いたトレーニング <第11回> サーキットトレーニング <第12回> 有酸素性および無酸素性持久力向上トレーニングの実際 <第13回> トレーニングの運営1 <第14回> トレーニングの運営2 <第15回> まとめ</p> <p>【授業方法】 トレーニングルームを中心にして実習を行う。 必要な場合は、教室等で講義を行う。</p>
専門 科目群	展開 科目	トレーニング実習 II	<p>【概要】 健康づくりから競技力向上を目的とした広い範囲に含まれるトレーニングを実践学習により習得する。その中でも、中高年者、女性、障害者、アスリートなど、それぞれの特性に応じて必要とされるエクササイズを学習。特に競技力向上を目的としたトレーニングでは、専門的エクササイズの知識と技能を高めながら、競技特性を十分留意した上でトレーニング指導ができるようにする。リフティングやプライオメトリクスのような高い専門技術を要するエクササイズの習得に努めたい。</p> <p>【到達目標】 ・運動者の生活習慣や運動目的を留意した上でトレーニング指導ができるようになる。 ・競技特性(ポジション特性)を理解した上でトレーニング指導ができるようになる。 ・リフティング(クリーン、スナッチ)が正しくできるようになる。</p> <p>【授業計画】 <第1回> 運動プログラムの基本的な考え方 <第2回> トレーニングの原則と効果、ウォーミングアップとクーリングダウン <第3回> スピード向上トレーニングの理論とプログラム作成1 <第4回> スピード向上トレーニングの理論とプログラム作成2 <第5回> スピード向上トレーニングの実際1 <第6回> スピード向上トレーニングの実際2 <第7回> 中高年者とスポーツ1(加齢に伴う体力の自然減退とトレーニング) <第8回> 中高年者とスポーツ2(加齢に伴う体力の自然減退とトレーニング) <第9回> 女性とスポーツ1(女性の体力・運動能力の特徴とトレーニング) <第10回> 女性とスポーツ2(女性の体力・運動能力の特徴とトレーニング) <第11回> 障害者とスポーツ1(障害者の運動能力の特徴とトレーニング) <第12回> 障害者とスポーツ2(障害者の運動能力の特徴とトレーニング) <第13回> 静的レジスタンス(ウエイト)トレーニング <第14回> 動的レジスタンス(ウエイト)トレーニング <第15回> 試験(模擬指導)</p> <p>【授業方法】 「トレーニング実習 I」や「トレーニング科学」で学習した知識を実技を通じて実践的に展開する。</p>

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	展開科目 野外運動論	<p>【概要】 現代の社会生活においては社会の発展に伴い、情報化、機械化が進み、身体活動やコミュニケーション能力の低下、コミュニティの崩壊、犯罪の低年齢化・過激化などが進行している。その一方で、産業化や都市化に伴い失われつつある自然環境、温暖化に代表される環境破壊などが問題となり、環境保護運動や自然環境への理解が求められている。これらの課題に取り組む上で、自然体験学習の必要性が叫ばれている。本講義では、野外活動の必要性、歴史の変遷、代表的な活動である組織キャンプ、学校や地域とのかかわりを学ぶ。特に、野外スポーツや野外活動の事例を良く知り、展開の方法や知識を知り、野外活動を教育学、社会学、心理学、経済学、経営学などの学際的な視点から理解することを目指す。</p> <p>【到達目標】 現代社会における自然体験学習の必要性を学び、指導者として野外活動のプログラム作成スキルを身につける。</p> <p>【授業計画】 <第1回> ガイダンス <第2回> 野外活動の概要 <第3回> 野外教育の考え方 <第4回> 現代社会と環境問題 <第5回> 環境プログラムの考え方と実際 <第6回> 自然に関する知識と理解 <第7回> 動植物に関する知識と理解 <第8回> 天文、気象、地形に関する知識と理解 <第9回> 自然観察の方法 <第10回> 野外活動での危険と安全対策 <第11回> 野外教育プログラムの作成について <第12回> グループワークトレーニング <第13回> 野外活動プログラムを作成する <第14回> タイムテーブルの書き方 <第15回> タイムテーブルを作成する</p> <p>【授業方法】 講義を中心とするが、グループによるグループワーク・事例研究なども積極的に行う。</p>	
専門科目群	展開科目 野外運動実習(キャンプ)	<p>【概要】 本実習の目的は、野外運動を体験することによって、野外運動を実施する上で必要な基礎的知識や技術を学ぶとともに、その意義や重要性を認識する。本実習に参加することによりスポーツに関わる者としての資質の向上を図る。事前学習においてはキャンプの基礎的な知識を学ぶとともに、班の人々と協力する態度を養う。野外運動では、集団行動のあり方や指導方法、他者との関わり、指導者としての心構え、キャンプ運営の実際、安全への配慮等を学ぶ。事後学習では、実習中の各自の行動を振り返り、今後指導者を目指すものとして目標達成のために何をすべきか考える。</p> <p>【到達目標】 野外運動に必要な知識や技能を身につける。活動を通して自然への興味関心と環境意識の向上、集団での協力による役割分担と責任意識の向上、問題解決能力の向上を目指す。成功体験により気づきによる自己肯定し行動力と自主性をのばす。</p> <p>【授業計画】 1. 事前研修 概要説明、班分け、役割分担等 2. キャンプ実習(2泊3日) アイスプレーキング、ウォークラリー、星空観察、砂の造型、ニュースポーツ体験、飯盒炊飯、キャンプファイヤー、竹とんぼづくり、フィードバック等 3. 事後学習 レポート提出</p> <p>【授業方法】 2泊3日での野外活動・運動実習が中心になる。事前ガイダンス、事後ガイダンスに出席することを履修条件とする。</p>	
専門科目群	展開科目 体育経営管理学	<p>【概要】 体育・スポーツの経営領域には、学校、地域社会、商業施設、職場、プロフェッショナルなどがある。これらの各領域における経営目標を達成するためには、経営・管理・運営等のマネジメントに関する基礎理論を理解し、それを状況に応じて応用できる実戦力を習得しておくことが重要である。そこで、本授業では、体育・スポーツのマネジメントに関する概念論、構造論、過程論、領域論、行政論について講義し、体育・スポーツマネジメントの実践に役立てることができるようにする。</p> <p>【到達目標】 講義内容の6割以上を理解すること。</p> <p>【授業計画】 <第1回> 体育・スポーツの指導者と体育・スポーツ経営管理学 <第2回> 体育・スポーツ経営管理の概念と目的 <第3回> 体育・スポーツ経営管理の構造 <第4回> 体育・スポーツ経営管理の領域 <第5回> 運動者と運動者行動 <第6回> 運動者と運動生活 <第7回> 体育・スポーツ事業-その1- (エリア・サービス) <第8回> 体育・スポーツ事業-その2- (プログラム・サービス) <第9回> 体育・スポーツ事業-その3- (クラブ・サービス) <第10回> 体育・スポーツ事業-その4- (関連的体育・スポーツ事業) <第11回> 体育・スポーツの経営過程と経営機能 <第12回> 体育・スポーツの経営計画・統制・組織・財務・事務 <第13回> 体育・スポーツの行政・政策 <第14回> まとめ <第15回> まとめ</p> <p>【授業方法】 講義とレポート</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	展開科目 スポーツ政策論	<p>【概要】 体育・スポーツ行政の施策の実際を学び、スポーツの意義、国および地方公共団体のスポーツ振興施策等について理解を深める。さらに、体育・スポーツにおける施策上の諸課題について検討しながら、よりよい生涯スポーツ社会づくりについて考える。</p> <p>【到達目標】 生涯スポーツ社会の充実に向けて、個人としてあるいは仲間とともに体育・スポーツの推進にどのような関わり方ができるか、考え方をまとめ発表することができる。</p> <p>【授業計画】 <第1回> ガイダンス…講義のすすめ方、その他 <第2回> 人とスポーツとの関わり…スポーツの意義、スポーツ振興の歴史 <第3回> 体育・スポーツ行政の意義と仕組みⅠ…国の体育・スポーツ振興策 <第4回> 体育・スポーツ行政の意義と仕組みⅡ…地方公共団体の体育・スポーツ振興策 <第5回> 体育・スポーツ行政と関係法令等…スポーツ振興に関わる法令等の理解 <第6回> 学校体育と体育・スポーツ行政…学校体育の現状とスポーツ振興策としての役割・課題 <第7回> 我が国のスポーツ振興策Ⅰ…青少年の体力の現状とその向上策 <第8回> 我が国のスポーツ振興策Ⅱ…国際競技力向上策の現状と課題 <第9回> 我が国のスポーツ振興策Ⅲ…生涯スポーツの推進策及び広域スポーツセンターの役割 <第10回> 諸外国におけるスポーツ振興策…諸外国における生涯スポーツへの取り組みの現状 <第11回> 総合型地域スポーツクラブⅠ…総合型地域スポーツクラブの機能と役割 <第12回> 総合型地域スポーツクラブⅡ…総合型地域スポーツクラブの現状と課題 <第13回> スポーツ振興と人材育成…スポーツマネジメントと人材育成 <第14回> 体育・スポーツをとりまく諸課題と今後の施策…スポーツ倫理、スポーツ事故、その他 <第15回> まとめ</p> <p>【授業方法】 講義を中心とし、毎時の理解の確認を授業ノートを通して行なう。またレポートを随時課す。</p>	
専門科目群	展開科目 スポーツ環境論	<p>【概要】 現代のスポーツを取り巻く環境について、様々な角度から論じる。気温が高い環境では、長距離走などの記録は落ちるし、早くスタミナが切れてしまう。また、長距離選手が高地トレーニングを行っているボルダールにおけるトレーニングで、どんな効果があるのだろうか。実際に見てきた私の経験も交えて解説していく。箱根駅伝は、関東大学対抗駅伝なのはどうして全日本大学駅伝よりも人気があるのだろうか。また、独特な箱根の山上りを選手が速く走れる理由などについても推察して論じる予定である。できるだけ具体的な例を挙げて、スポーツの不思議に関して君たち自身の頭の中で考え、進歩することをこの講義の目的とする。</p> <p>【到達目標】 毎回の講義の最後に、分からないこと、もっと知りたいことなどに関して、配布する用紙に記入し提出を求める。次回の講義の最初に、それらの質問に関して解説するところから始めていく。理解できなかったことが、ある程度整理できるであろうし、さらにいい質問ができるようになることが目標である。</p> <p>【授業計画】 <第1回>はじめに、授業全体の説明<第2回>眼は外界をどのように捉えて見ているのか。認知と錯覚を中心に<第3回>運動とカロリー計算のしかた<第4回>高温の下でのスポーツは、短距離ではいいのに長距離は成績が下がるのはなぜか<第5回>高所でのスポーツの特徴(パフォーマンスの低下)<第6回>高所でのスポーツの特徴(パフォーマンスの向上)<第7回>アマチュアリズムとプロフェッショナル<第8回>スポーツ用具の変化と記録の向上<第9回>スポーツマンシップとゲームズマンシップ<第10回>スポーツパフォーマンスの限界因子って何だろう<第11回>どうして箱根駅伝は人気があるのだろうか<第12回>山登りの区間を速く走れる秘訣を考える<第13回>スポーツ界にはびこる疑似科学<第14回>スポーツ界に広がっている迷信<第15回>どうやったらスポーツが上手くなるのだろうか</p> <p>【授業方法】 パワーポイントやDVD教材も使用し、授業計画で示した内容に沿って解説していく。分からないことがあったら適宜質問してもかまいません。そして毎時間の最後に、もっと知りたいことに関して、配布した用紙に記載し提出してもらおう。次週にそのことに回答するが、それ以上に自分で問題を見つけて、その回答を考えてもらいたい。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	展開科目 スポーツマネジメント論	<p>【概要】 戦後日本のビッグスポーツといえば、世界的にはオリンピック、国内では国民体育大会であった。言うまでもなく国家予算で運営されるアマチュアスポーツであり、経営の戦略的な思考は必要なかった。 現在のスポーツは多様化、巨大化しスポーツの持つ概念は大きく変貌した。同時にスポーツを取り巻く環境も変わり、スポーツビッグイベントが間断なく開催される。人々はスポーツのすばらしさにますます魅力を感じ、愛好者が増大した。情報伝達の形態、速度も開発発展し、瞬時に試合状況が映像で届き、視聴者は世界トップレベルのゲームに興奮する。この現象は「実践する」「見る」「支える」「育てる」スポーツの価値観の高まりで、スポーツの商品としての値打ちが上がり、スポーツ需要が増したということである。 本講義では、「スポーツマネジメントとは」といった基礎的な事柄について学習した上で、スポーツの行政やスポーツ産業、あるいは地域スポーツ、クラブスポーツ、さらには、レジャー、レクリエーション活動にも言及し、これらスポーツの運営、経営現象を論理的に学習する。</p> <p>【到達目標】 スポーツ活動の現状を把握し、「実践する」「見る」「支える」「育てる」スポーツのマネジメントについて理解を深める。</p> <p>【授業計画】 ＜第1回＞ガイダンス：本授業の進め方＜第2回＞スポーツとは、マネジメントとは＜第3回＞スポーツマネジメントの基礎＜第4回＞スポーツ市場：需要と供給、消費者との関連＜第5回＞スポーツとスポーツイベント＜第6回＞トップスポーツのマネジメント＜第7回＞オリンピック、Wカップなどの企画、運営の実際＜第8回＞スポーツとメディア＜第9回＞プロスポーツの経営＜第10回＞スポーツとファン、サポーター＜第11回＞スポーツと法＜第12回＞財務、経理、会計、税務の知識＜第13回＞スポーツ組織と人事マネジメント＜第14回＞総合型地域スポーツの拡大＜第15回＞まとめ</p> <p>【授業の方法】 授業は資料を配布し、それによって講義を行う。</p>	
専門科目群	展開科目 スポーツレジャー論	<p>【概要】 労働中心主義、効率主義を再考する風潮の中、余暇 (Leisure) 問題が注目されている。生活の質への関心の高まりから「ゆとり」という文脈の中で市民権を得たと言えよう。かかる社会では余暇を楽しむ能力 (余暇能力) が重要視されている。ここでは余暇の本来の意味を学ぶとともに、余暇 (Leisure) としてのスポーツの現状や余暇能力 (活用法) などの諸問題に関する理解を深める。スポーツを分析研究するとき、余暇 (Leisure) の基本的概念を学ぶことは必須である。そこでレジャーやレクリエーションの成立の背景と現代的意義についても理解を深める。</p>	
専門科目群	展開科目 スポーツマーケティング論	<p>【概要】 マーケティングの原点は、顧客の理解がすべてに優先するという消費者第一主義の思想である。スポーツマーケティング論では、スポーツビジネス現象を解明する概念装置としてのスポーツ消費者について学ぶとともに、営利・非営利セクターで起きている具体的なマーケティング現象について考える。</p> <p>【到達目標】 スポーツの消費行動は、スポーツ観戦 (見るスポーツ)、スポーツ参加 (するスポーツ)、スポーツボランティア (支えるスポーツ) 等、スポーツとの多彩な関わりがあるが、その原点はホモ・ルーデンスという人間観にあり、これが、スポーツマーケティングの特異性につながることを理解する。</p> <p>【授業計画】 ＜第1回＞授業ガイダンス：スポーツマーケティングの意味＜第2回＞概念装置としてのスポーツ消費者の理解＜第3回＞スポーツプロモーションとエンドースメント＜第4回＞プロスポーツチームのマーケティング＜第5回＞スポーツスポンサーシップ論＜第6回＞スポーツ観戦者 (ファン) の行動＜第7回＞スポーツプロダクト論＜第8回＞関係性マーケティング＜第9回＞フィットネス産業＜第10回＞CRMとスポーツマーケティング＜第11回＞サービスクオリティと経験価値マーケティング＜第12回＞集客施設の会員継続マーケティング＜第13回＞ブランディングとライセンス＜第14回＞スポーツマーケティング・リサーチ＜第15回＞まとめ</p> <p>【授業方法】 原田宗彦編著「スポーツマーケティング」大修館書店 (2008年) を教科書にして、授業を進める。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目群	展開 科目	障がい者スポーツ論	<p>【概要】 今日では障がい者スポーツは「Adapted Sports (アダプテッド・スポーツ)」あるいは「Adapted Physical Activity (アダプテッド・フィジカル・アクティビティ)」と同義である。このスポーツは身体諸機能に障害を持つ人ならびに身体諸機能が加齢低下した高齢者の参加が含まれ、参加する個人に適合したスポーツあるいは身体活動と広義で捉えることができる。本講義ではこのスポーツに携わる人々またその環境を理解し、「アダプテッド・スポーツ」の概念を身につける。</p> <p>【到達目標】 「アダプテッド・スポーツ」分野に携わるために必要な基礎知識を理解し、実践方法を考える。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉 アダプテッド・スポーツの定義・対象 〈第2回〉 アダプテッド・スポーツの種類 〈第3回-第4回〉 競技スポーツと学校体育 〈第5回〉 障がい者社会政策 〈第6回〉 インクルージョンとノーマライゼーション 〈第7回〉 リハビリテーション・レクリエーションとしてのアダプテッド・スポーツ 〈第8回〉 パラリンピック 〈第9回〉 障がいとクラス分け・カテゴリー制 〈第10回-第11回〉 アダプテッド・スポーツと健康 〈第12回-第13回〉 アダプテッド・スポーツと体力・運動能力 〈第14回〉 高齢者のアダプテッド・スポーツ 〈第15回〉 まとめ</p> <p>【授業方法】 講義を主体とする。また講義順序は随時変更する場合がある。</p>
専門 科目群	展開 科目	レクリエーション論	<p>【概要】 レクリエーション活動の考え方は、時代とともに変遷してきた。その背景や現在の活動展開を学び、時代や社会のニーズに適したレクリエーション活動について学ぶ。各自が、本時での学びを生かした社会における活動のあり方や展開方法について考える機会とする。</p> <p>【到達目標】 レクリエーション活動の展開方法を学ぶ事によって、どの世代や対象者の状態においても、指導者(支援者)としてその活動を支えることができる知識を習得する。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉 ガイダンス・レクリエーション概論 〈第2回〉 子どもの発達とレクリエーション 〈第3回〉 生活行動とレクリエーション 〈第4回〉 体力づくりとレクリエーション 〈第5回〉 レクリエーション援助プロセス 〈第6回〉 福祉分野でのレクリエーション 〈第7回〉 セラピューテイツク・レクリエーション 〈第8回〉 グループワーク・トレーニング 〈第9回〉 レクリエーション活動Ⅰ(屋内活動) 〈第10回〉 レクリエーション活動Ⅱ(野外活動) 〈第11回〉 レクリエーション活動の安全管理 〈第12回〉 レクリエーションのマネージメント 〈第13回〉 レクリエーション活動の企画・運営 〈第14回〉 広報活動について考える 〈第15回〉 地域社会におけるレクリエーション</p> <p>【授業方法】 講義を主体に行うが、グループ討議、レポート作成等も行う。</p>

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	展開科目 レクリエーション実技Ⅰ	<p>【概要】 レクリエーション実技は、幼児期から高齢者まで幅広い方に、遊びを通したからだづくりや、人生における生きがいの追求、生涯スポーツに参加するきっかけを提案ことを目的としてそのノウハウを学習する。このことから、指導者(支援者)としての資質として大切な対人関係能力の向上をめざし、生涯スポーツを体験学習することによってその指導方法を身に付ける。レクリエーション活動は、教育現場において学級活動や体育の一環として有効に取り入れることができる本技術を学び、現場での実践を体験することによって、より実践的な学びを得ることが可能になる。総合型地域スポーツクラブや社会体育分野での活動等においても活用できることを目指す。</p> <p>【到達目標】 教員やインストラクターとして、人と関わる際の接し方や言葉のかけ方等を身につける。 指導者として、対象となる人たちのコミュニケーションが深まり、楽しくスポーツに親しみきっかけを提案できる力を身につける。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉アイスブレイキングの技法(仲間づくりに有効なゲームの実際) 〈第2回〉チャレンジ・ザ・ゲームの実際 〈第3回〉アイスブレイキングの技法(集団活動を発展させるゲームの実際) 〈第4回〉ニュースポーツの実際(ドッチビー) 〈第5回〉ニュースポーツの実際(ドッチビー) 〈第6回〉アイスブレイキングの実習 〈第7回〉ホスピタル・トレーニング(自己を見つめる) 〈第8回〉生涯スポーツの実際(クロリティー) 〈第9回〉生涯スポーツの実際(大会の運営を学ぶ) 〈第10回〉生涯スポーツの実際(インディアカ) 〈第11回〉生涯スポーツの実際(インディアカ) 〈第12回〉フォークダンスの実際 〈第13回〉福祉レクリエーションの実際(心をほぐす活動) 〈第14回〉福祉レクリエーションの実際(運動量を高める活動) 〈第15回〉生涯スポーツの実際(ニチレクボール)</p> <p>【授業方法】 実技を主体に行うが、グループ討議、レポート作成等も行う。</p>	
専門科目群	展開科目 レクリエーション実技Ⅱ	<p>【概要】 レクリエーション実技は、幼児期から高齢者まで幅広い方に、遊びを通したからだづくりや、人生における生きがいの追求、生涯スポーツに参加するきっかけを提案ことを目的としてそのノウハウを学習する。このことから、指導者(支援者)としての資質として大切な対人関係能力の向上をめざし、生涯スポーツを体験学習することによってその指導方法を身に付ける。レクリエーション活動は、教育現場において学級活動や体育の一環として有効に取り入れることができる本技術を学び、現場での実践を体験することによって、より実践的な学びを得ることが可能になる。総合型地域スポーツクラブや社会体育分野での活動等においても活用できることを目指す。</p> <p>【到達目標】 教員やインストラクターとして、人と関わる際の接し方や言葉のかけ方等を身につける。 指導者として、対象となる人たちのコミュニケーションが深まり、楽しくスポーツに親しみきっかけを提案できる力を身につける。</p> <p>【授業計画】 〈第16回〉生涯スポーツの実際(ニチレクボール) 〈第17回〉チャレンジ・ザ・ゲーム 〈第18回〉チャレンジ・ザ・ゲーム記録に挑戦 〈第19回〉手づくりおもちゃの製作 〈第20回〉伝承あそび(鬼ごっこ) 〈第21回〉伝承あそび お手玉・けん玉 〈第22回〉ユニバーサルスポーツの実際(ユニバーサルホッケー) 〈第23回〉ユニバーサルスポーツの実際(ユニバーサルホッケー) 〈第24回〉ニュースポーツの実際(キンボール) 〈第25回〉ニュースポーツの実際(キンボール) 〈第26回〉クラフト グリーティングカードの作成 〈第27回〉アイスブレイキングの振り返り 〈第28回〉シナリオの作成 〈第29回〉レクリエーション援助の実際 〈第30回〉レクリエーション援助の実際</p> <p>【授業方法】 実技を主体に行うが、グループ討議、レポート作成等も行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	展開科目	スポーツ方法学実習（陸上Ⅰ）	<p>【概要】 中学校・高等学校教員に必要な授業計画作成と授業展開能力の育成。陸上競技の「走・跳・投」を含んだ各種目の特性と競技規則を理解し、正しい見本実技と指導方法を学習する。「陸上Ⅰ」では主に、短距離走、ハードル走、跳躍競技（走高跳、または走幅跳）を中心に各種目の競技特性、競技ルールなどについての理解を深め、実践（実技）的学習により技術と記録の向上を目指す。そして、正しい用器具の扱い方や安全な指導方法の習得も目的とする。</p> <p>【到達目標】 ・短距離、ハードル、跳躍種目の種目特性と技術構造を理解し実践できる。 ・各種目の専門的な技術指導法を理解し、デモンストレーションおよび技術指導ができる。 ・正しい用器具の扱い方、記録の測定方法、競技規則の理解。 ・各種目定められた一定の記録をクリアできるようにする。</p> <p>【授業計画】 〈1回目〉 授業展開方法、評価、学習指導要領における陸上競技の説明、陸上競技の歴史 〈2回目〉 短距離走（導入：種目特性、ルール）の理解と実技（ウォーミングアップの方法） 〈3回目〉 短距離走の実践（スタート技術、ランニングフォーム、測定）とその指導方法の学習① 〈4回目〉 短距離走の実践（スタート技術、ランニングフォーム、測定）とその指導方法の学習② 〈5回目〉 ハードル走（導入：種目特性、ルール）の理解と実技（ウォーミングアップとドリル） 〈6回目〉 ハードル走の実践（色々なインターバルとハードルの高さを経験）とその指導法の学習① 〈7回目〉 ハードル走の実践（色々なインターバルとハードルの高さを経験）とその指導法の学習② 〈8回目〉 ハードル走の実践①（測定） 〈9回目〉 ハードル走の実践②（測定） 〈10回目〉 跳躍種目の理解：走高跳の紹介（競技特性、歴史、ルール、安全確保と用具の扱い方） 〈11回目〉 跳躍種目の実践①：走高跳（はさみ跳び、バリーロール、背面跳の導入、記録測定、競技会の運営） 〈12回目〉 跳躍種目の実践②：走高跳（背面跳、助走、記録測定、競技会の運営） 〈13回目〉 跳躍種目の実践③：走高跳（背面跳、助走、記録測定、競技会の運営） 〈14回目〉 総合学習（ハードルと走高跳の未熟練者の個別指導） 〈15回目〉 総合学習（ハードルと走高跳の未熟練者の個別指導及び記録の計測）</p> <p>【授業方法】 主に実技中心の授業展開となるが、講義も含めながら実技を行うので学生は筆記用具を毎回持参すること。</p>
専門科目群	展開科目	スポーツ方法学実習（陸上Ⅱ）	<p>【概要】 中学・高等学校教員に必要な授業計画作成、授業展開能力の育成。陸上競技の「走・跳・投」を含んだ各種目の特性と競技規則を理解し、安全で効率的な見本実技と指導方法を学習する。「陸上Ⅱ」では、「陸上Ⅰ」で学んだ安全管理や指導方法を活かしながら、リレー、中長距離と跳躍、投てき種目の競技特性やルール、歴史などを理解した上で、実践的に取り組み技術習得と記録向上を目指す。</p> <p>【到達目標】 ・中長距離、リレー競技、走幅跳、砲丸投の種目特性と技術構造の理解し、実践できる。 ・各種目の技術指導法を理解し、デモンストレーションおよび技術指導ができる。 ・正しい用器具の扱い方、記録測定法、競技規則の理解。 ・各種目定められた一定の記録をクリアできるようにする。</p> <p>【授業計画】 〈1回目〉 授業展開方法、評価、学習指導要領における陸上競技の説明、陸上競技の歴史 〈2回目〉 リレー競技の導入（バトンワーク、ゴーマーク設定）、ルール理解とその指導法の学習 〈3回目〉 リレー競技の実践①（バトンワーク、ゴーマーク設定） 〈4回目〉 リレー競技の実践②（測定、競技会の運営） 〈5回目〉 跳躍種目の理解：走幅跳の導入（跳躍運動について、種目とその特性の紹介） 〈6回目〉 走幅跳の実践①（踏み切り技術、助走マーク、測定） 〈7回目〉 走幅跳の実践②（踏み切り技術、助走マーク、測定） 〈8回目〉 走幅跳の実践③（記録測定、測定方法の理解） 〈9回目〉 投擲種目の理解：砲丸投の導入（種目特性、ルール、リスクマネジメント） 〈10回目〉 砲丸投の実践（立ち投げ、グライド） 〈11回目〉 砲丸投（立ち投げ、グライド）、ジャベリックスロー、円盤投の実践 〈12回目〉 砲丸投の実践（測定、測定方法の理解） 〈13回目〉 砲丸投、ジャベリックスロー、円盤投の実践（測定、競技会の運営） 〈14回目〉 中長距離種目の実践（運動生理学の知識を活用しながら種目特性の理解） 〈15回目〉 中長距離種目の実践（測定、競技会の運営）、総合学習</p> <p>【授業方法】 主に実技中心の授業展開となるが、講義も含めながら実技を行うので学生は筆記用具を毎回持参すること。</p>

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	展開科目 スポーツ方法学実習(バスケットボール)	<p>【概要】 スポーツ方法学実習では、スポーツの指導者になるために必要な基礎的な指導理論と実践する能力を身につけることを目標としている。様々なスポーツ種目を経験することによってそれぞれの種目特性を理解し、またスポーツの指導における普遍性を考えることが肝要である。これらの実習を通じてスポーツ指導者としての指導能力を高め、各種スポーツを実践する能力を高めると同時に、技術・戦術の習得はもちろん、指導法、審判法などの習得も目指す。</p> <p>【到達目標】 バスケットボールの基本技術であるボールハンドリング、パス、シュート、ドリブルなどの習得を目標とする。そして、将来、バスケットボールを楽しむことができるよう、ゲームの中で個人技能を発揮できるようにするとともに、基本的なルールを身につける。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉 授業ガイダンス 〈第2回〉 ボールハンドリング、シュートその1、ゲーム 〈第3回〉 パス、シュートその2、ゲーム 〈第4回〉 ドリブル、シュートその3、ゲーム 〈第5回〉 パスその2、ドリブルシュート、ゲーム 〈第6回〉 実技テスト 〈第7回〉 シューティングゲーム、ゲーム 〈第8回〉 2人、3人パス、ゲーム 〈第9回〉 4人、5人パス、ゲーム 〈第10回〉 3人パスから2対1、ゲーム 〈第11回〉 5人パスから3対2、ゲーム 〈第12回〉 実技テスト 〈第13回〉 総合練習、ゲーム 〈第14回〉 総合練習、ゲーム 〈第15回〉 トーナメント戦</p> <p>【授業方法】 実技実習形式で授業をすすめる。必要に応じてビデオ映像を提供する。講座の中で、随時実技テストを実施する。</p>	
専門科目群	展開科目 スポーツ方法学実習(バレーボール)	<p>【概要】 バレーボールの実践・指導理論の学習を通して、中・高等学校教員として必要な授業計画の作成、授業展開能力を育成する。特にバレーボールの競技特性を活かして、チーム内でのコミュニケーションやカバーリングの重要性を学び、その能力を養う。また集団スポーツの教育効果を理解し、その特性を十分に引き出せる指導方法の獲得を目指す。</p> <p>【到達目標】 バレーボールの指導に必要なである試合規則と技術構造および戦術理論を理解し、バレーボールの技術の獲得とその師範方法、審判およびゲーム指導の方法を習得する。またこれらの知識に基づいて単元計画、授業計画を作成する能力を養う。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉ガイダンス、技術に関する用語の説明、競技特性の理解 〈第2回～第4回〉守備に関する基本技能と指導法の習得 アンダーハンドパス、サーブとレセプション(サーブレシーブ)、オーバーハンドパスとトスアップの実技とその指導法 〈第5回～第6回〉攻撃に関する基本技能と指導法の習得 アタック・フェイントおよびブロックの実技とその指導法 〈第7回～第10回〉フォーメーションとコンビネーションの理解 守備におけるポジショニング、レセプションからコンビネーション攻撃への展開方法 ラリー中におけるポジショニングの理解とその指導法 〈第11回～第14回〉ゲームの実施と運営 コート設営、ゲーム運営の注意点および審判方法 ゲーム戦略の理解と実技およびその指導法 〈第15回〉選手の技能の評価方法の理解と実施、まとめ</p> <p>【授業方法】 実技・実習に加え、ルールや技術理論、指導理論を学ぶための講義を行う。</p>	
専門科目群	展開科目 スポーツ方法学実習(サッカー)	<p>【概要】 サッカーの楽しさを伝えることが指導者の重要な役割である。この授業では、(財)日本サッカー協会公認C・D級養成講習会で行われている、実技講習をわかりやすく実践しながら、日本サッカー協会が推進する強化育成策に準じ、指導者として獲得しておくべき知識及び情報を紹介する。サッカーの構造や仕組みそのものを理解すると同時に、テーマを設定したトレーニングの考案、指導法の習得を目指す。</p> <p>【到達目標】 ・サッカーの技術・戦術理論及びプレーの原則など、サッカーの構造や仕組みを理解する。 ・指導者の役割、トレーニング法、コーチング法などの知識を深める。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉ガイダンス、サッカーをしよう 〈第2回〉ボールフィーリング 〈第3回〉ボールフィーリング さまざまなシュート 〈第4回〉ゴールを目指す パス 〈第5回〉指導実践 ゴールを目指す コントロール (M-T-Mメソッド) 〈第6回〉ゴールを奪う 突破 〈第7回〉ボールを奪う 〈第8回〉ゴールキーピング 〈第9回〉スモールサイドゲーム 〈第10回〉指導者の役割及び技術・戦術理論 〈第11回〉スカウティング、審判、ルールの理解 攻撃、守備のアジリティテスト 〈第12回〉11対11のゲーム 〈第13回〉11対11のゲーム 〈第14回〉11対11のゲーム 〈第15回〉11対11のゲーム 本授業のまとめと評価</p> <p>【授業方法】 実技形式ではあるが、講義及び映像も予定している。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	展開科目 スポーツ方法学実習（ハンドボール）	<p>【概要】 スポーツ方法学実習では、スポーツの指導者になるために必要な基礎的な指導理論と実践する能力を身につけることを目標としている。様々なスポーツ種目を経験することによってそれぞれの種目特性を理解し、またスポーツの指導における普遍性を考えることが肝要である。本実習を通じてハンドボールを実践する体力や基礎技能を高めるとともに、戦術の習得はもちろん、体育教員としての指導能力を高め、指導法、審判法などの習得を目指す。</p> <p>【到達目標】 1. ハンドボールにおける基礎的な技術・戦術の習得とその指導法を身につける。 2. パワー、持久力、調整力などのさまざまな体力的な要因の向上とその指導法を身につける。 3. 味方に協力する態度やルールを守り、審判の判定に従う態度などの養成とその指導法を身につける。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉 授業の進め方（ガイダンス、アンケート） 〈第2回〉 基本技術（フットワーク、パスキャッチ、ドリブル） 〈第3回〉 " (ステップシュート、ジャンプシュート、フェイント) 〈第4回〉 基本コンビ（2対1, 3対2） 〈第5回〉 " (1対1, 2対2, 3対3場面練習) 〈第6回〉 応用技術 ユニットプレー（3対3, 4対4場面練習） 〈第7回〉 " (速攻、セットオフense) 〈第8回〉 " (5対5, 6対6, GK) 〈第9回〉 戦術・ゲーム 〈第10回〉 " 〈第11回〉 " 〈第12回〉 " (審判法) 〈第13回〉 " (") 〈第14回〉 " (") 〈第15回〉 まとめ、評価</p> <p>【授業方法】 実技の中で、必要な理論やルールも紹介する。 個人技から戦術まで、レベルに応じた練習法や指導のポイントを示す。 チームごとに作戦を考え、主体的に目標を持ってゲームが出来るようにする。</p>	
専門科目群	展開科目 スポーツ方法学実習（ウィンタースポーツ）	<p>【概要】 教育現場における保健体育教員あるいはスポーツ指導者としての指導能力向上を目的とする。また、冬期山岳の雄大な自然の魅力を体感すると共に、自然環境の厳しさを体験し、スキー場での安全管理、集団行動や生活に関する指導者としての心構えについても体得する。</p> <p>【到達目標】 急激な気象状況の変化に対処する能力や安全に滑降できる技術および指導法を習得し、実践現場でも応用できる能力を養うことを目標とする。</p> <p>【授業計画】 〈第1～第3回〉 事前指導（スキーの心得、環境とスポーツ、集団行動や生活について） 〈第4～第14回〉 スキー技術の習得（実習） スキー技術によりクラスに分けし、実技講習は下記の目標を到達するような内容とする。 ・初心者（初めてスキーを経験する者）は、スキー場におけるマナーの習得、および安全確保に留意する姿勢を学び、緩斜面をブルークボーゲンあるいはパラレルターンで安全に滑降できるようにする。 ・初級者（ブルークボーゲンで滑降できる者）は、スキー場におけるマナーの習得、および安全確保に留意する姿勢を学び、急斜面をパラレルターンで安全に滑降できるようにする。 ・中・上級者（パラレルターンで滑降できる者）は、スキー場におけるマナー習得、および安全確保に留意する姿勢を学び、急斜面、不整地の斜面をパラレルターンで安全かつ美しく滑降できるようにする。 なお、最終日には実技テストを実施する。 〈第15回〉事後指導（実技テストのポイントの解説および集団行動や生活の反省）</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	展開科目 スポーツ実習(陸上)	<p>【概要】 陸上競技に含まれる走・跳・投の各種目を実際に経験しながら陸上競技の魅力を知る。トップアスリートのテクニックやトレーニング方法を参考にしながら実際の指導現場に活かせるようになる。また、オリンピックや世界選手権大会などの高度競技スポーツにおける陸上競技の普及活動やナショナルレベルの強化策に関する知識も深める。</p> <p>【到達目標】 ・授業内で定められた設定記録をクリアできるようになること。 ・陸上競技のルールを理解した上で競技に取り組むことができるようになる。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉授業展開方法、陸上競技の歴史(歴史背景と競技種目の発祥、記録更新の背景)、オリンピックにおける陸上競技 〈第2回〉歩行と走行の運動特性について 〈第3回〉色々なリズムで走る(測定)、スプリントドリルの理解と実践 〈第4回〉加速を加えた走測定、スタート技術の理解と実践(ブロックワーク) 〈第5回〉ハードル走Ⅰ:ハードル走の導入、走りながら障害物を跳び越える 〈第6回〉ハードル走Ⅱ:ハードル走の実践、色々なインターバルで走る、測定 〈第7回〉跳躍種目の理論と実践Ⅰ:走幅跳と三段跳の測定 〈第8回〉跳躍種目の理論と実践Ⅱ:走高跳(色々な跳び方、測定) 〈第9回〉高度競技スポーツとスポーツプロモーション:陸上競技の普及と強化策 〈第10回〉リレー競技Ⅰ:ルールの理解と実践、ゴーマークの設定 〈第11回〉リレー競技Ⅱ:バトンワークの実践、測定 〈第12回〉投擲競技Ⅰ:リスクマネジメント、砲丸投、ジャベリックスロー 〈第13回〉投擲競技Ⅱ:リスクマネジメント、砲丸投とジャベリックスローの測定 〈第14回〉混成競技Ⅰ:ルールの理解と実践 〈第15回〉混成競技Ⅱ:ルールの理解と実践、スプリントトライアスロン、測定</p> <p>【授業方法】 ・主に実技を中心とした授業展開。</p>	
専門科目群	展開科目 スポーツ実習(バスケットボール)	<p>【概要】 スポーツ方法学実習では、スポーツの指導者になるために必要な基礎的な指導理論と実践する能力を身につけることを目標としている。様々なスポーツ種目を体験することによってそれぞれの種目特性を理解し、またスポーツの指導における普遍性を考えることが肝要である。これらの実習を通じてスポーツ指導者としての指導能力を高め、各種スポーツを実践する能力を高めると同時に、技術・戦術の習得はもちろん、指導法、審判法などの習得も目指す。</p> <p>【到達目標】 バスケットボールの基本技術であるボールハンドリング、パス、シュート、ドリブルなどの習得を目標とする。そして、将来、バスケットボールを楽しむことができるよう、ゲームの中で個人技能を発揮できるようにするとともに、基本的なルールを身につける。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉授業ガイダンス 〈第2回〉ボールハンドリング、シュートその1、ゲーム 〈第3回〉パス、シュートその2、ゲーム 〈第4回〉ドリブル、シュートその3、ゲーム 〈第5回〉パスその2、ドリブルシュート、ゲーム 〈第6回〉実技テスト 〈第7回〉シューティングゲーム、ゲーム 〈第8回〉2人、3人パス、ゲーム 〈第9回〉4人、5人パス、ゲーム 〈第10回〉3人パスから2対1、ゲーム 〈第11回〉5人パスから3対2、ゲーム 〈第12回〉実技テスト 〈第13回〉総合練習、ゲーム 〈第14回〉総合練習、ゲーム 〈第15回〉トーナメント戦</p> <p>【授業方法】 実技実習形式で授業をすすめる。必要に応じてビデオ映像を提供する。講座の中で、随時実技テストを実施する。</p>	
専門科目群	展開科目 スポーツ実習(バレーボール)	<p>【概要】 スポーツの指導者に必要な基礎的な指導理論と実践能力を身につけることを目標とする。様々なスポーツ種目を体験することによりそれぞれの競技特性を理解するだけでなく、スポーツの指導における普遍性を捉えることで、スポーツ指導者としての指導力や実践力を養う。また技術・戦術の習得、指導法、審判法などの習得も目指す。</p> <p>【到達目標】 指導者として必要とされる技術構造と技能習得、そしてゲームを通してのチーム作り、審判技術を含めた運営能力の養成を目的とする。個人の技術からコンビネーションプレー、チーム戦術を関連付けながら、段階的に習得する。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉オリエンテーション 授業内容の説明と諸注意 コートのセッティング方法の習得 〈第2回・第3回〉基本技能の習得 ウォーミングアップ、フットワーク パス、レシーブ、スパイク、ブロック、サーブ 〈第4回～第6回〉組織プレーと応用技術の習得 2対2または3対3のミニゲームから 6対6のゲームへ オフェンス・ディフェンスのフォーメーション 基本的戦略の実践 〈第7回～第12回〉6人制ゲームの実践 チームの目標設定と練習方法の工夫 コンビネーション、フォーメーションを考慮した戦略の研究と実践 ルールの理解と審判技術と習得 ゲーム運営の実施 〈第13回～第15回〉関連競技の実践 9人制バレーボール、ソフトバレーボール、ビーチバレーボール まとめと評価</p> <p>【授業方法】 実技・実習が中心であるが、ルールや技術理論、指導理論を学ぶための講義も取り入れる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	展開科目 スポーツ実習 (サッカー)	<p>【概要】</p> <p>サッカーの楽しさを伝えることが指導者の重要な役割である。この授業では、(財)日本サッカー協会公認C・D級養成講習会で行われている、実技講習をわかりやすく実践しながら、日本サッカー協会が推進する強化育成策に準じ、指導者として獲得しておくべき知識及び情報を紹介する。サッカーの構造や仕組みそのものを理解すると同時に、テーマを設定したトレーニングの考案、指導法の習得を目指す</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> サッカーの技術・戦術理論及びプレーの原則など、サッカーの構造や仕組みを理解する。 指導者の役割、トレーニング法、コーチング法などの知識を深める。 <p>【授業計画】</p> <p><第1回>ガイダンス、サッカーをしよう <第2回>ボールフィーリング <第3回>ボールフィーリング ささまざまなシュート <第4回>ゴールを目指す パス <第5回>指導実践 ゴールを目指す コントロール (M-T-Mメソッド) <第6回>ゴールを奪う 突破 <第7回>ボールを奪う <第8回>ゴールキーピング <第9回>スモールサイドゲーム <第10回> 指導者の役割及び技術・戦術理論 <第11回>スカウティング、審判、ルールの理解 攻撃、守備のアジリティテスト <第12回>11対11のゲーム <第13回>11対11のゲーム <第14回>11対11のゲーム <第15回>11対11のゲーム 本授業のまとめと評価</p> <p>【授業方法】</p> <p>実技形式ではあるが、講義及び映像も予定している。</p>	
専門科目群	展開科目 スポーツ実習 (ハンドボール)	<p>【概要】</p> <p>スポーツ実習では、各種スポーツの基礎的な知識と実践する能力を身につけることを目標としている。様々なスポーツ種目を経験することによってそれぞれの種目特性を体得し、効果的な練習方法を学習する中で楽しくゲームを実践する能力を身につける。</p> <p>本実習を通じてハンドボールの種目特性を理解し、必要な個人技能を高めるだけでなく、チームメイトと協力して練習したり、集団技能に必要な戦術の習得を目指す。また、練習方法や審判法などを習得し、自らゲームの運営ができるようにする。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ハンドボールにおける基礎的な技術・戦術の習得とその練習方法の学習 パワー、持久力、調整力などのさまざまな体力的な資質を向上させる。 味方に協力する態度やルールを守り審判の判定に従う態度などを身につける。 <p>【授業計画】</p> <p><第1回> 授業の進め方 (ガイダンス、アンケート) <第2回> 基本技術 (フットワーク、パスキャッチ、ドリブル) <第3回> " (ステップシュート、ジャンプシュート、フェイント) <第4回> 基本コンビ (2対1, 3対2) <第5回> " (1対1, 2対2, 3対3場面練習) <第6回> 応用技術 ユニットプレー (3対3, 4対4場面練習) <第7回> " (速攻、セットオフエンス) <第8回> " (5対5, 6対6, GK) <第9回> 戦術・ゲーム <第10回> " <第11回> " <第12回> " (審判法) <第13回> " (") <第14回> " (") <第15回> まとめ、評価</p>	
専門科目群	展開科目 スポーツ実習 (体操)	<p>【概要】</p> <p>子どもの発育を考える上で、幼少期の身体活動は極めて重要な役割を果たしています。特に幼児期の動き作りや小学校での器械運動は、子どものバランス能力や巧緻性などの調整力を高める上で重要です。本講義では、マット運動、鉄棒、跳び箱、平均台などの器械運動を素材として、幼児から小学生を対象として、子どものバランス能力や巧緻性などの調整力を高めるための器械運動を計画し、指導する能力の育成を目的とする。また、近年、スポーツクラブなどでは逆上がりや側転など、学校の体育の授業で「できない子ども」の指導も増えており、本講義ではこれらの指導についても併せて学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 幼児から小学校低学年を対象に、マット運動、鉄棒、跳び箱、平均台などの器械運動を素材として、遊びによる動きづくりの計画、指導ができる。 小学校の体育で逆上がりや側転ができない小学生に、逆上がりや側転などが指導できる。 器械運動やトランポリン、ボールなどを用いて、バランス能力や巧緻性などの調整力や敏捷性を高めるためのプログラムの作成、指導ができる。 <p>【授業計画】</p> <p><第1回>授業の進め方の説明 <第2回～第4回>マット運動の指導法の学習とその実践 <第5回～第7回>鉄棒と平均台の指導法の学習とその実践 <第8回～第10回>跳び箱の指導法の学習とその実践 <第11回～第13回>マット、跳び箱、平均台を組み合わせた指導法の学習とその実践 <第14回～第15回>器械運動の実技テスト</p> <p>【授業方法】</p> <p>実技形式で行う。各種目ごとに課題の運動を解説した後に実技の練習を行うが、講義時間だけでは実技の練習時間が足りないので、各自で練習をしておくこと。器械運動の実技ができなければ単位は取得できない。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	展開科目 スポーツ実習 (水泳)	<p>【概要】 文部省の学習指導要領に取り上げられている平泳ぎ、クロールを中心に4泳法の習得を目標とする。競技者に限った指導や指導方法ではなく、正しいフォームで長い時間泳ぐ事も狙いとする。また、オリンピックや世界水泳など高度競技スポーツにおける水泳競技の魅力にも触れていく。</p> <p>【到達目標】 ・4泳法を習得する。 ・各泳法における段階別指導方法と練習方法を理解し実践できる。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉水泳授業内容の説明及びプール使用上の注意事項の説明 〈第2回〉水慣れと泳力審査(平泳ぎ)〈第3回〉泳法技術の理論説明(ビデオ学習)と平泳ぎの技術練習 〈第4回〉平泳ぎの技術指導(足のけり・手のかき・呼吸法・コンビネーション) 〈第5回〉平泳ぎの技術指導と段階別練習法及び指導法 〈第6回〉泳法技術の理論説明(ビデオ学習)・クロールの技術練習 〈第7回〉クロールの技術指導と段階別練習法及び指導法 〈第8回〉クロールの技術指導(蹴伸びからストリームライン・パタ足・手のかき・呼吸法・コンビネーション) 〈第9回〉泳法技術の理論説明(ビデオ学習)・バタフライの技術練習 〈第10回〉バタフライの技術指導と段階別練習法及び指導法 〈第11回〉背泳ぎの技術指導と段階別練習法及び指導法 〈第12回〉泳法技術の理論説明(ビデオ学習)・背泳ぎの技術練習 〈第13回〉水泳指導の理論とプログラミング 〈第14回〉水泳指導の実践 〈第15回〉水泳指導の実践</p> <p>【授業方法】 大半がプールを使つての実技的授業である。水泳の指導力と泳力の向上を目指す。</p>	
専門科目群	展開科目 スポーツ実習 (水中運動)	<p>【概要】 社会資本の充実によって四季を通じて水泳を含む水中運動を楽しむことができるようになり、同時に水中運動を計画的に生活に取り入れた健康づくりも可能となった。本授業では水泳を含む水中運動の方法を健康づくりの観点から学ぶ。</p> <p>【到達目標】 ・水中の生体反応について知る。・運動強度と主観的運動強度や心拍数の関係から、運動強度を評価することができる。・水中ウォーキングやアクアビクスの指導ができる。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉水中運動の特性と生理学/アクアウォーキングの体験 〈第2回〉水泳・水中運動の強度の設定Ⅰ/アクアウォーキングの体験(水泳における強度変化…心拍数測定) 〈第3回〉水泳・水中運動の強度の設定Ⅱ/アクアウォーキングの体験(アクアビクスにおける強度変化…心拍数測定) 〈第4回〉水泳・水中運動のプログラム構成/アクアウォーキングの体験(ウォーミングアップとクーリングダウン) 〈第5回〉水中運動(アクアビクス)の指導法Ⅰ/アクアビクス体験 〈第6回〉水中運動(アクアビクス)の指導法Ⅱ/アクアビクス体験 〈第7回〉水中運動(アクアビクス)の指導法Ⅲ/アクアビクス体験 〈第8回〉水中運動(アクアビクス)の指導法Ⅳ/アクアビクス体験 〈第9回〉水中運動(アクアビクス)の作成(指導練習)Ⅰ 〈第10回〉水中運動(アクアビクス)の作成(指導練習)Ⅱ 〈第11回〉水泳の指導法(指導練習)Ⅰ/水泳実技 〈第12回〉水泳の指導法(指導練習)Ⅱ/水泳実技 〈第13回〉水中運動による健康づくりプログラム実施における安全と障害予防 〈第14回〉指導者の役割と資質について/アクアビクス体験 〈第15回〉まとめ</p> <p>【授業方法】 主にプールにて実技中心に授業を展開する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	展開科目 スポーツ実習(エアロビクスダンス)	<p>【概要】 エアロビクスダンスエクササイズの魅力を感じ、基本動作の習得と、それらを自己の身体で表現する能力を身に付ける。「健康運動実践指導者認定試験」の実技科目としての対応も考慮に入れると同時に、エアロビクスエクササイズの安全性や指導法に関する知識も学ぶ。</p> <p>【到達目標】 ・音楽に合わせて運動するという他の有酸素運動にないエアロビクスダンスの特徴を体験する。・上肢下肢をバランスよく組み合わせ、安全で効果的な要素を踏まえながら、「リズムミカルな多種多様な動き」を習得する。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉エアロビクスレッスン体験 エアロビクスの特色 〈第2回〉レッスン体験(入門・初級クラス) レッソンの基本構成、特徴と効果について 〈第3回〉W-U Pについて(目的・構成、正しいアライメント) 〈第4回〉メインパートについて(目的・構成、強度変換について) 〈第5回〉安全・心拍数測定、下肢の障害、水分補給 〈第6回〉エアロビクスダンス1 〈第7回〉エアロビクスダンス2 〈第8回〉エアロビクスダンス3 〈第9回〉初級ローインパクトクラス体験 基本ステップの習得と作成、発表Ⅰ(ドリル) 〈第10回〉初級ローインパクトクラス体験 基本ステップの習得と作成、発表Ⅱ(ドリル) 〈第11回〉初級クラスの体験 上肢のバリエーションの考え方・習得(ドリル) 〈第12回〉初級ローインパクト(歩く)クラスの編成と指導の練習 〈第13回〉初級ローインパクト(歩く)クラスの編成と指導の練習 〈第14回〉インストラクターとしてのあり方・役割 〈第15回〉まとめ</p> <p>【授業方法】 主に実技中心の授業展開</p>	
専門科目群	展開科目 スポーツ実習(マリンスポーツ)	<p>【概要】 本実習は、自然海域(湖沼地)において行われるスポーツレクリエーション活動を通じて、各種の技能や正しい知識を習得する。また、社会におけるレクリエーションスポーツの意義や重要性を理解し、体育・スポーツ指導者としての資質向上を図る。</p> <p>【到達目標】 マリンスポーツに必要な知識を学習し、広くその特性を理解し技能を高め、指導力を備える。体育・スポーツ指導者として、安全に留意して楽しい野外活動を企画運営する能力を養う。</p> <p>【授業計画】 春学期 マリンスポーツに関する講義(数回) 夏季休暇 マリンスポーツ実習(集中) 秋学期 マリンスポーツ実習の総括 詳細に関しては、掲示を行う。</p> <p>【授業方法】 数回の事前講義の後、集中で実習を行う(9月上旬を予定)。</p>	
専門科目群	展開科目 スポーツ情報学	<p>【概要】 競技力向上のためにはデータに対する正しい知識と分析能力が不可欠である。本講義では画像処理ソフトの基本操作から、競技スポーツにおけるITの活用など、スポーツにおける実践的な情報処理能力とデータ分析能力を養う。</p> <p>【到達目標】 スポーツにおける情報の意義と役割を理解し、IT活用による実践的な情報処理能力、データ分析能力を習得すること。</p> <p>【授業計画】 ・情報とは何か・スポーツと情報 ・インターネットとスポーツ ・競技スポーツにおける情報戦略 ・スカウティング ・ゲーム分析とITの活用 ・最新の活用事例・画像データの基礎知識 ・画像データの編集1 ・画像データの編集2 ・動画データの基礎知識・動画データの編集1 ・動画データの編集2 ・スポーツ画像・動画データの活用方法 ・まとめ</p> <p>【授業方法】 スポーツ情報に関する講義と実際に各自で画像や動画データの編集の実習を行う演習形式で授業を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目群	展開 科目 スポーツ統計学	<p>【概要】 スポーツの測定データを基に統計法を用いて科学的に分析できる基礎的な能力を養う。また、統計ソフトを用いて統計処理をできるようにする。</p> <p>【到達目標】 本授業で学んだ知識や勉強法を活用して、卒業研究等において統計処理を行うことができるようになる。また、実践現場でも応用する能力を習得することを目標とする。</p> <p>【授業計画】 <第1回>統計学とは <第2回>データの種類・度数分布表・分割表 <第3回>標本と母集団 <第4回>平均値・中央値・最頻値・分散値・標準偏差値 <第5回>標本平均(平均値の標本分布、平均値の標準誤差) <第6回>理論分布と確率(正規分布・正規曲線、t分布) <第7回>2つの母集団の比較(原理と計算法、t検定) <第8回>片側検定・両側検定と検定力、繰返し実験と1対実験 <第9回>単回帰分析(一つの変数から他の変数を予測・説明する) <第10回>重回帰分析(複数の変数から他の変数を予測・説明する) <第11回>相関(二つの変数の関連性をみる) <第12回>量的データと質的データ、ノンパラメトリック検定 <第13回>ノンパラメトリック統計的検定法(カイ二乗検定・順位による検定) <第14回>分散分析法の基礎 <第15回>二元配置・三件配置の分散分析法</p>	
専門 科目群	展開 科目 運動生理学実験	<p>【概要】 運動生理学に関する実験・測定方法を体得するとともに、この実験を通じて運動によって身体がどのように変化するかについて理解を深める。</p> <p>【到達目標】 授業で習得したこれらの運動生理学に関する基礎知識や実験・測定方法を利用して、学校での体育の授業や健康・スポーツの現場でのトレーニングに応用する実践力を養うことを目標とする。</p> <p>【授業計画】 <第1回>形態計測 -正しいメジャーの使い方を習得する- <第2回>身体組成-皮下脂肪厚、超音波法やインピーダンス法による体脂肪率の測定- <第3回>形態計測および身体組成に関する実験のまとめ <第4回>運動前後および運動中の心拍数(脈拍)計測 -トレーニングの負荷強度を心拍数で設定する- <第5回>運動前後の血圧計測 -運動の種類、量や強度による血圧上昇の違いを理解する- <第6回>運動中の心拍数や血圧変化に関する実験のまとめ <第7回>ガス分析装置を用いた安静時及び運動時の呼吸循環系応答の計測 -安静時および最大下運動時の心拍数やRPE、酸素摂取量の測定- <第8回>超音波画像診断装置を用いた運動前後の血流量の変化 -個人の血流量の違いを理解し運動による変化についても実験する- <第9回>ガス分析装置や超音波画像診断装置を用いた実験のまとめ <第10回>筋力測定1-等尺性筋収縮の測定を用いて関節角度での筋力発揮の違いを理解する-<第11回>筋力測定2-等速性筋収縮の測定を用いて異なる角速度での筋力発揮の違いを理解する-<第12回>筋力発揮の特異性に関する実験のまとめ <第13回>筋電図計測1-筋力発揮レベルと筋放電量との関係-<第14回>筋電図計測2-筋疲労と筋放電量との関係-<第15回>筋電図計測を用いた実験のまとめ</p> <p>【授業方法】 実験を行い、その内容をレポートにまとめる。</p>	
専門 科目群	展開 科目 バイオメカニクス実験	<p>【概要】 近年、スポーツ科学の発達は目覚しく競技力向上や傷害予防など、その必要性はますます高まってきている。なかでもスポーツバイオメカニクスはコンピュータの発達に伴って急速に発展し、ウルトラハイスピードカメラやモーションキャプチャーなど、身体動作の解明には不可欠の手法となっている。本講義では、スポーツバイオメカニクスの測定手法の基礎知識を習得し、実際の実験を通じて実験手法を学習する。</p> <p>【到達目標】 本講義では、スポーツバイオメカニクスの基礎知識と基本的な実験手法を習得することによって、3、4年生で展開される専門演習で、卒業研究の研究手法として応用できる知識と実践能力を習得する。</p> <p>【授業計画】 <第1回>授業の進め方の説明 <第2回-第4回>スピードを測る スピードガン、光電管、ビデオを用いて種々のスポーツのスピードを測る <第5回-第7回>関節角度を測る ゴニオメータ、ビデオを用いて運動中の身体各関節の角度を測る <第8回-第10回>身体重心を求める体重計を用いた測定法、作図による測定法を用いて運動中の身体重心を求める <第11回-第14回>力を測る 床反力計などの力量計を用いて運動中に発揮される種々の力を計測する運動中に発揮される力をビデオ映像から求める <第15回>まとめ</p> <p>【授業方法】 実際のスポーツ場面の中で、各種の計測装置を用いて種々の測定を行い、そのデータをまとめてレポートを作成する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	展開科目 スポーツ心理学実験	<p>【概要】 普段何気なく行っている書字や日常動作から、スポーツの大きな大会での技能発揮まで、私たちの行っている運動には様々な要因がかかわっています。特にここでは心理的な側面から運動を見直す考え方とそれを確かめる方法論とを実習を通して学んでいきます。どうすれば運動がうまくなるのか、どうすれば実力を発揮できるのか。逆にいえば、なぜ練習してもうまくならないのか、いつも試合で失敗するのはなぜかということを実験を通して明らかにしていく、その方法を身につけていくことが授業のねらいです。</p> <p>【到達目標】 自らが自分の行っている運動の中で疑問をもち、その問題を解決していける方法を習得することが到達目標です。そのために、疑問点から実験や観察を計画し、計画した実験や観察を実施し、そこで得られたデータの処理方法とその解釈の仕方を習得することが必要となります。</p> <p>【授業計画】 <第1回> 授業の概要の説明 <第2回> 「運動学習におけるフィードバックの効果」に関する理論と実験の計画 <第3回> 実験計画と実験の準備 <第4回> 実験の実施 <第5回> 実験データの整理と統計的検定法 <第6回> 結果の解釈とレポート作成 <第7回> 「スポーツに対する意識・態度測定」に関する理論と質問紙調査の計画 <第8回> 意識・態度測定調査用紙の作成 <第9回> 調査データの整理と統計的検定法 <第10回> 結果の解釈とレポート作成 <第11回> 「リラクゼーショントレーニング」に関する理論とトレーニング計画 <第12回> トレーニング方法の具体化と測定準備 <第13回> トレーニングの実施 <第14回> トレーニング結果の整理と統計的検定法 <第15回> 結果の解釈とレポート作成</p> <p>【授業方法】 本授業は実験実習で、受講者自らが実験や観察などの計画を作成し、実験や観察を行い、その結果を整理し、レポートにまとめるまでを行う。実験や観察・調査などの課題によって少人数グループを作り、グループで議論しながら行っていくが、レポートに関しては個々人で作成する。</p>	
専門科目群	展開科目 コーチング科学実習	<p>【概要】 スポーツパフォーマンスを向上させるためには、トレーニングとかコーチングの手続きが必要である。自己流のパフォーマンスを向上させた場合、時にはスランプやスポーツ障害の原因にもなる。その問題解決方法や指導法を身につけることは指導者として必要不可欠である。そのため、これらの目的を安全に、かつ能率的に達成させる手助けがコーチングである。以上のことから、コーチングの科学的基盤を実習するのが本授業の目標である。</p> <p>【到達目標】 コーチングの基本的知識と科学的なトレーニングの実践的指導方法を身につける。</p> <p>【授業計画】 <第1回>スポーツ指導者とは (コーチング科学の復習) <第2回~第3回>指導者の視点 (指導者として必要なコミュニケーションスキル) <第4回~第6回>コンセプチュアルスキル (抽象的な考えや大枠を理解し本質について考える力を学ぶ) <第7回~第8回>プレゼンテーション、ファシリテーション (コーチングの基本スキルについて学ぶ) <第9回~第11回> マネジメントスキル (計画的実行のためのプロセスについて学ぶ) <第12回~第14回>スポーツコーチングの行動について学ぶ (1. 止めたとき・集めたときのコーチングスキル 2. 競技者が運動をしているときのコーチングスキル) <第15回>まとめ</p> <p>【授業方法】 本授業では、コーチングの基礎スキルの重要性やそのノウハウに着いて理解し、トレーニングします。実技が中心です。自らの課題を知り、積極的にトライする姿勢が重要となります。</p>	
専門科目群	展開科目 コンディショニング実習	<p>【概要】 コンディショニングは、心身の状態を目的に合わせて理想的な方向に整えることといえる。また、コンディショニングは、健康や体力の維持増進や競技力向上など、様々な目的を持って行われる。本講義は、コンディショニングの意義や方法について理解することを目的とする。</p> <p>【到達目標】 ・コンディショニングに関わる知識を理解する ・コンディショニングの方法を習得する</p> <p>【授業計画】 <第1回> 講義ガイダンス コンディショニングについて (概論) <第2回> アスリートの健康管理について① <第3回> アスリートの健康管理について② <第4回> アスリートの外傷と障害について <第5回> アスリートの外傷・障害と対策について <第6回> アスリートの内科的障害について <第7回> アスリートの内科的障害と対策について <第8回> 検査と評価について <第9回> コンディショニングの手法について① <第10回> コンディショニングの手法について② <第11回> コンディショニングの手法について③ <第12回> アスレチックリハビリテーションについて <第13回> アスレチックリハビリテーションとトレーニング計画について <第14回> 総合演習 <第15回> まとめ</p> <p>【授業方法】 ・コンディショニングに関する知識について講義を行う ・理解した方法について実際に実習する</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目群	展開 科目	アスレチックトレーニング	<p>【概要】 本講義では、これまでに学習したアスレチックトレーニングに関わる知識を整理し、各種トレーニングの理論と方法を理解する。その上でトレーニング実技を行い、トレーナーとして必要な能力を身につける。 スポーツや健康指導の現場において、安全で効果的にアスレチックトレーニングを実践するために必要な知識とスキルを学習することを目的とする。</p> <p>【到達目標】 ・アスレチックトレーニングに関する知識（解剖生理学、運動学など）を理解する ・各種トレーニング方法の技術を習得し、適切なトレーニング指導ができるようにする</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉 講義ガイダンス 〈第2回〉 ウォーミングアップ、クールダウンについて（講義） 〈第3回〉 ウォーミングアップ、クールダウンについて（実技） 〈第4回〉 レジスタンストレーニングについて（講義） 〈第5回〉 レジスタンストレーニングについて（実技：マシントレーニング） 〈第6回〉 レジスタンストレーニングについて（実技：フリーウエイトトレーニング①） 〈第7回〉 レジスタンストレーニングについて（実技：フリーウエイトトレーニング②） 〈第8回〉 中間テスト（ペーパーテストと実技テスト） 〈第9回〉 持久力トレーニングについて（講義） 〈第10回〉 持久力トレーニングについて（実技） 〈第11回〉 スピードトレーニングについて（講義） 〈第12回〉 スピードトレーニングについて（実技） 〈第13回〉 ストレッチについて（講義） 〈第14回〉 ストレッチについて（実技） 〈第15回〉 まとめ</p>
専門 科目群	展開 科目	スポーツ指導論	<p>【概要】 本授業では、スポーツ指導者としての心構え・視点、指導者としてのモラルなどについて学習する。指導対象者の性別・年齢、また運動経験や競技レベルに応じて、それぞれの段階における適切な指導知識の理解を深める。実際の指導現場で必要とされる各種スポーツの特性に応じたテクニックや注意点についてもスポーツ科学の知識と裏付けながら学習していく。</p> <p>【到達目標】 ・指導者として必要とされるモラルを学習する。 ・スポーツ科学の知識によって裏付けられた指導方法を理解する。 ・人間の発育発達に応じた段階的指導を理解する。 ・特殊環境下における指導方法を理解する。</p> <p>【授業計画】 〈第1回目〉 スポーツ指導に携わる（様々な競技環境下における指導） 〈第2回目〉 スポーツ指導者とは（専門的知識、指導者資格、心構え・視点） 〈第3回目〉 スポーツ指導・コーチングの概念（指導者の必要性、スポーツ指導と倫理観、コーチング哲学など） 〈第4回目〉 海外のコーチングと日本のコーチングの違い 〈第5回目〉 スポーツ強化策（ナショナルトレセン、一貫指導システム、タレント発掘、ネットワークの活用） 〈第6回目〉 スポーツ指導方法と運動の学習理論（分習法と全習法、一定練習と多用練習） 〈第7回目〉 ミーティング（効果、運営方法） 〈第8回目〉 スポーツ指導と安全管理（リスクマネジメント） 〈第9回目〉 段階別指導（発育発達に応じたコーチング） 〈第10回目〉 中高年者、障がい者に対するスポーツ指導の留意点 〈第11回目〉 スポーツ指導と人権（女性に対するスポーツ指導の留意点、ハラスメント） 〈第12回目〉 プログラム作成（目標設定、個人と集団の指導計画、ピリオダイゼーション） 〈第13回目〉 競技力向上のためのチームマネジメント1（現状把握、情報収集・分析、計画、実践、評価、リーダーシップほか） 〈第14回目〉 競技力向上のためのチームマネジメント2（現状把握、情報収集・分析、計画、実践、評価、リーダーシップほか） 〈第15回目〉 競技スポーツとIT（VTR、インターネットなどを利用した情報収集・分析）</p> <p>【授業方法】 主に講義形式で行うが、授業内容によっては専門的理解を深めるために映像や実践を含む授業展開も予定している。</p>

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目群	展開 科目	生涯スポーツ論	<p>【概要】 幼年期から高年期にいたるまでの人生の各ステージでスポーツに親しみ、スポーツを楽しむことは、健康で充実した人生をおくるために有効な方法の一つである。この授業では生涯スポーツに関する理解を深め、生涯を通じてスポーツを楽しむための基礎づくりとなる知識を習得する。</p> <p>【到達目標】 将来、スポーツ指導者や健康運動指導者として地域の健康づくりに貢献できるように、生涯スポーツに関する基礎的な知識を幅広く習得する。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉授業ガイダンス 〈第2回〉生涯スポーツの概念 〈第3回〉子どもとスポーツ 1 子どもとスポーツ 2 〈第5回〉青少年とスポーツ 〈第6回〉ニュースポーツ 〈第7回〉野外スポーツ 〈第8回〉高齢者とスポーツ 1 〈第9回〉高齢者とスポーツ 2 〈第10回〉障害者のスポーツ 1 〈第11回〉障害者のスポーツ 2 〈第12回〉女性とスポーツ 〈第13回〉生涯スポーツと指導資格 〈第14回〉生涯スポーツとスポーツビジネス 〈第15回〉まとめ</p> <p>【授業方法】 パソコンやOHPを利用して図表や写真を提示しながら授業を行う。双方向的な授業にしたいので、受講者への問いかけを行い、意見を求める。受講者の理解度をみるために、授業内容に関する小レポートの作成と提出をもとめる。参考書や資料は適宜紹介する。</p>
専門 科目群	展開 科目	地域スポーツ論	<p>【概要】 スポーツを通じた交流は、地域の一体感や活力をもたらし、地域社会を活性化させる。また、生涯にわたりスポーツに親しむことのできる地域社会をつくることは世代を超えて意義のあることである。 本授業では、スポーツの地域振興に関する興味・関心を高め、具体的事例に関する実践力を高めることを目的とする。</p> <p>【到達目標】 地域におけるスポーツについて、スポーツ行政や住民との関わりを踏まえながら説明することができる。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉ガイダンス 〈第2回〉地域の現状 〈第3回〉地域スポーツの現状 〈第4回〉スポーツ行政と地域スポーツの関わり 〈第5回〉スポーツ行政の法的基盤 〈第6回〉スポーツ振興基本計画について 〈第7回〉スポーツ立国戦略について 〈第8回〉地域スポーツクラブの基本コンセプト 〈第9回〉地域スポーツクラブの経営資源 〈第10回〉地域スポーツクラブの諸問題 〈第11回〉地域スポーツクラブの諸問題と将来像 〈第12回〉広域スポーツセンターの現状と問題 〈第13回〉広域スポーツセンターの必要性 〈第14回〉地域スポーツクラブ事例：クラブづくりのプロセス 〈第15回〉地域スポーツクラブ事例：活動意欲を高めるマネジメント</p> <p>【授業方法】 授業は講義形式で行う。</p>
専門 科目群	展開 科目	スポーツ審判法	<p>【概要】 競技団体から認定されている各種スポーツ競技別の審判法について学習する。審判資格を取得するための手続きの仕方、講習の受け方、試験の方法を調べて、資格試験を受験し、各種スポーツ審判の資格の取得を目指す。</p> <p>【到達目標】 スポーツ審判法を学び、各種スポーツ審判の資格を取得する。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉スポーツ審判法について(講義の進め方・学習方法) 〈第2回〉スポーツ審判法の種類 〈第3回〉競技別の審判資格について 〈第4回〉資格の取得方法について 〈第5回〉資格取得の進め方 〈第6回〉審判講習について 〈第7回〉受験方法について 〈第8回〉試験演習① 〈第9回〉試験演習② 〈第10回〉試験演習③ 〈第11回〉試験演習④ 〈第12回〉〈第13回〉試験演習⑤ 〈第14回〉資格取得後に認定 〈第15回〉まとめ</p> <p>【授業方法】 学生の主に専門としているスポーツ種目の中から、各種スポーツ競技団体から発認定されている審判の資格を調べて、手続きの仕方、講習の受け方、試験の方法などを把握して、資格試験を受験する学習を行う。</p>

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目群	展開 科目	水泳C級Ⅰ	<p>【概要】 日本水泳界の競技力を向上し、世界の水泳界をリードする競技者を発掘・育成・指導するためには、その指導者もまた世界トップレベルの技量・人格の持ち主であることが求められる。本規定はかかる指導者が排出することを期するとともに水泳指導者の社会的地位の向上を図ることを目的とする。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 水泳の特性と歴史について理解する。 2. 水泳技術の構造を理解する。 3. 水泳指導法の基本について理解する。 4. 水泳の管理と安全対策について理解する。 5. 水泳競技の規則と審判法について理解する。 6. 水泳競技解説について理解する。 7. トレーニング科学・心理学について理解する。 8. メディカル・コンディショニングについて理解する。 <p>【授業計画】 〈第1回〉水泳の特性・歴史、水泳の管理と安全対策。〈第2回〉水泳技術の構造。〈第3回〉水泳指導の基本。〈第4回〉水泳競技の規則と審判法。〈第5回〉水泳競技解説。〈第6回-第7回〉トレーニング科学 バイオメカニクス。〈第8回〉トレーニング科学 水泳の生理学。〈第9回-第10回〉心理学 水泳の心理学とメンタルトレーニング。〈第11回〉メディカル・コンディショニング 選手育成に必要な栄養学。〈第12回〉メディカル・コンディショニング 水泳の医学。〈第13回-第14回〉メディカル・コンディショニング 水泳に必要な障害対処法。〈第15回〉まとめ</p> <p>【授業方法】 教科書、参考書、配布資料及びVTRを活用した講義と、指導現場を想定したコーチングなどの講義及び演習。</p>
専門 科目群	展開 科目	水泳C級Ⅱ	<p>【概要】 日本水泳界の競技力を向上し、世界の水泳界をリードする競技者を発掘・育成・指導するためには、その指導者もまた世界トップレベルの技量・人格の持ち主であることが求められる。本規定はかかる指導者が排出することを期するとともに水泳指導者の社会的地位の向上を図ることを目的とする。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 選手育成に必要なトレーニング方法を理解する 2. 選手育成に必要なコーチング法を理解する。 3. 選手育成に必要な指導法を実践する。 <p>【授業計画】 〈第1回-第2回〉日本泳法 横泳ぎを習得。〈第3回〉トレーニング法 選手育成に必要なトレーニング。〈第4回〉トレーニング法 各種トレーニングの目的・方法・種類。〈第5回-第6回〉コーチング法 指導重要ポイントおよび分析。〈第7回-第8回〉コーチング法 各種技術習得と改善のための処方。〈第9回-第10回〉個人・集団指導 個人・個人の指導法の実習、指導計画の立案評価。〈第11回-第12回〉実習指導 トレーニング法の実践。〈第13回-第14回〉実習指導 コーチング法の実践。〈第15回〉まとめ</p> <p>【授業方法】 教科書、参考書、配布資料及びVTRを活用した講義と、指導現場を想定したコーチングなどの講義及び演習。</p>
専門 科目群	展開 科目	インターンシップⅠ	<p>【概要】 本科目は「健康運動指導士」認定試験の受験資格に含まれる科目の一つである。(財)健康・体力づくり事業財団では、「健康運動指導士を個々の心身状態に応じた安全で効果的な運動実践計画の作成と調整の役割。一方、健康運動実践指導者を健康づくりを目的として作成された運動プログラムに基づいて実践指導を行う。」とそれぞれの資格性質を位置づけている。インターンシップを通じて、健康増進産業に関連した職業理解とそれに必要とされる専門知識を高めながら、専門領域に関する更なる学習意欲と自己適正能力を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康産業施設に携わる職務内容の理解。 ・社会人としての対人能力をみにつける。 ・運動者の目的にあった運動プログラミングができるようになる。 ・施設の安全管理や器具の取り扱いが適切にできるようになる。 <p>【授業計画】 〈第1回〉学内事前指導1：インターンシップ実施の意義と目的、運動指導関連の資格の紹介 〈第2回〉学内事前指導2：「健康運動指導士」資格受験まで経緯〈第3回〉学内事前指導3：施設責任者からの実習に関するガイダンス〈第4-13回〉健康産業施設にて現場実習〈第14-15回〉事後指導</p> <p>【授業方法】 健康産業施設内での実践実習を10日間程度行う。</p>

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	展開科目 インターンシップⅡ	<p>【概要】 本学と名古屋市との連携事業である「なごや健康カレッジ：健康学のススメ」（市民向け公開講座）に学生スタッフとして参加し、受講者に運動指導を行うとともに、実践プログラムの運営方法を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 ※中高年者を対象として、健康づくりのための運動指導ができるようになること。 ※健康づくりプログラムを理解し、その運営ができるようになること。 ※一般社会人とのコミュニケーション能力を身につけること。 ※自分たちの活動について報告書を作成できるようになること。</p> <p>【授業計画】 授業研修 講座が開講される前に専門家のもとでストレッチングや筋力トレーニング等、必要な運動指導法について数回の研修を行う。 <第1回～第15回> 秋学期に名古屋キャンパスで開講される「なごや健康カレッジ：健康学のススメ」に参加し、各回の講座をサポートするとともに、その中で適宜運動指導を行う。</p> <p>【授業方法】 ※各回の講座の事前準備および案内や受付等、運営に必要なことを手分けして行う。 ※各回のテーマについて担当講師から受講者とともに学ぶ。 ※受講者に対して各種の健康づくり運動指導を行う。 ※各自が活動報告書を作成する。</p>	
専門科目群	展開科目 保健体育科教育法（陸上）	<p>【概要】 中学校・高等学校教員に必要な授業計画作成と授業展開能力の育成。陸上競技の「走・跳・投」を含んだ各種目の特性と競技規則を理解し、正しい見本実技と指導方法を学習する。短距離走（リレー含む）ハードル走、跳躍競技（走高跳、走幅跳）、投擲（砲丸投、ジャベリックスロー）の競技特性、競技ルールなどについての理解を深め、実践的学習により技術と記録の向上を目指す。そして、正しい器具の扱い方や安全な指導方法の習得をすることも目的とする。</p> <p>【到達目標】 ・各種目の特性と技術構造を理解し、実践できる。 ・各種目の専門的な技術指導法を理解し、デモンストレーションおよび技術指導ができる。 ・正しい器具の扱い方、記録会の運営、測定方法、競技規則を理解すること。</p> <p>【授業計画】 <第1回> 授業展開方法、評価、学習指導要領における陸上競技の説明 <第2回> 短距離走（導入：種目特性、ルール）の理解と実技（ウォーミングアップの方法） <第3回> 短距離走の実践（スタート技術、ランニングフォーム、測定）とその指導方法の学習① <第4回> 短距離走の実践（スタート技術、ランニングフォーム、測定）とその指導方法の学習② <第5回> ハードル走（導入：種目特性、ルール）の理解と実技（ウォーミングアップとドリル） <第6回> ハードル走の実践（色々なインターバルとハードルの高さを経験）とその指導法の学習① <第7回> ハードル走の実践（色々なインターバルとハードルの高さを経験）とその指導法の学習② <第8回> 跳躍種目の理解：走高跳の紹介（競技特性、ルール、安全確保と用具の扱い方など、色々な跳び方） <第9回> 跳躍種目の実践①：走高跳（はさみ跳び、ベリーロール、背面跳の導入、記録測定） <第10回> 跳躍種目の実践②：走高跳（背面跳、助走、記録測定） <第11回> 跳躍種目の実践③：走幅跳（助走、記録測定） <第12回> 投擲種目の実践とリスクマネジメント（導入：砲丸投、ジャベリックスロー） <第13回> 投擲種目の実践①（砲丸投、ジャベリックスロー） <第14回> 投擲種目の実践②（測定：砲丸投、ジャベリックスロー） <第15回> 総合学習（各種目未熟練者の個別指導及び記録の計測）</p> <p>【授業方法】 実技を中心とした授業を展開する。講義も含めながら実技を行うので学生は筆記用具を毎回持参すること。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目群	展開 科目	保健体育科教育法(体操・ 器械運動)	<p>【概要】 本講義では、中・高等学校の保健体育の教員として必要な、体づくり運動、体操、器械運動(マット運動、跳び箱、鉄棒、平均台)の授業計画の作成、授業展開能力の育成を目的とする。また、これらの学修を通じて、体育実技の指導に必要な号令や体形の組み方、集団行動などについても学修し、体育教員としての実践能力の育成を目指す。</p> <p>【到達目標】 1. NHKラジオ体操第1、第2が正確に正しくできる。 2. 準備運動、整理運動、体ほぐしの運動を工夫し、示範および指導ができる。 3. 器械運動の示範および指導ができる。 4. 集団行動の指導ができる。 5. 徒手体操、器械運動の単元計画、授業計画が作成できる。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉授業の進め方の説明、指導要領における体操領域の解説 〈第2回～第3回〉体づくりの運動の学習 〈第4回～第5回〉集団行動の学習 〈第6回～第7回〉ラジオ体操の学習 〈第8回～第9回〉マット運動の学習 〈第10回～第11回〉鉄棒、平均台の学習 〈第12回～第13回〉跳び箱の学習 〈第14回～第15回〉器械運動の総合テスト</p> <p>【授業方法】 実技形式で行う。各種目ごとに課題の運動を解説した後に実技の練習を行うが、講義時間だけでは実技の練習時間が足りないので、各自で練習をしておくこと。け上がりなどの器械運動の実技ができなければ単位は取得できない。</p>
専門 科目群	展開 科目	保健体育科教育法(球技)	<p>【概要】 運動不足により体力の低下が指摘される今日、単に身体能力の面だけでなく、集団遊びの減少からコミュニケーション能力の不足もまた社会問題化されている。学校体育の中では「球技」が、集団技術を高める中で、チーム内での相互のコミュニケーション能力を高める領域として期待されている。 本講座では教職を希望する学生に対し、それぞれの球技における基本技能を高めるだけでなく、様々な練習方法を学習する中で、社会性を高めることを理解し、合わせて指導上の具体的な留意事項や指導のポイントを身につけ、実践的な指導力を高めることに重点を置く。</p> <p>【到達目標】 ①各種球技の様々な練習方法を理解し、指導力を高める。 ②指導のポイントを把握し、レベルに応じた適切な師範ができるようにする。 ③集団に対してわかりやすい言葉で適切に説明や指示ができるようにする。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉授業の進め方(ガイダンス、アンケート) 〈第2回〉バレーボール(個人技能の指導) 〈第3回〉" (集団技能の指導) 〈第4回〉" (ゲームの指導) 〈第5回〉ハンドボール(個人技能の指導) 〈第6回〉" (集団技能の指導) 〈第7回〉" (ゲームの指導) 〈第8回〉サッカー(個人技能の指導) 〈第9回〉" (集団技能の指導) 〈第10回〉" (ゲームの指導) 〈第11回〉バスケットボール(個人技能の指導) 〈第12回〉" (集団技能の指導) 〈第13回〉" (ゲームの指導) 〈第14回〉その他の球技(ソフトボール、テニス) 〈第15回〉まとめ、評価</p> <p>【授業方法】 ・実技の中で、必要な理論やルールも紹介する。 ・個人技から戦術まで、レベルに応じた指導を実践する。</p>

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	展開科目 保健体育科教育法(武道)	<p>【概要】 中学校・高等学校体育科教員として必要な武道(剣道・柔道)の実技指導、及び授業計画作成、授業担当能力の育成を図る目的で、実技と講義を組み合わせ内容で実施する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 剣道・柔道の技術構造を理解する。 2. 剣道・柔道の単元計画、教授課程の作成ができる。 3. 剣道・柔道の基礎技術、応用技術の指導法を理解し、示範および技術指導ができる。 4. 剣道・柔道の審判規則を理解し、試合の審判や試合の指導ができる。 <p>【授業計画】 <第1回> 剣道の特徴、技術構造、防具・竹刀の取り扱い、構え、足さばき、素振りの学習 <第2回> 防具などの脱着法、基本動作の学習 <第3回> 基本となる技(面・小手・胴)とその防御法の実技、および指導法の学習 <第4回> しかけ技(胴打ち)と打ち込み稽古の実技、および指導法の学習 <第5回> 連続技、抜き技、ひき技の実技、および指導法の学習 <第6回> 既習技術を使った互角稽古の実技とその指導方法の学習 <第7回> 試合と審判法の学習 <第8回> 柔道の特徴、柔道の技術構造、受け身の実技とその指導方法 <第9回> 柔道の特徴、柔道着の身につけ方、礼法、姿勢、受け身についての学習 <第10回> 足技(支え釣り込み足、膝車、足払い)と足技に対する受け身の取り方の実技と指導方法の学習 <第11回> 膝技(大腰、払い腰)と腰技に対する受け身の取り方の実技と指導方法の学習 <第12回> 手技(背負い投げ、体落)と手技に対する受け身の取り方の実技と指導方法の学習 <第13回> 抑え技(袈裟固、上四方固、横四方固)とその攻防法の実技と指導方法の学習 <第14回> 絞め技(送襟絞・裸絞)・関節技(十字固)とその攻防法の実技と指導方法の学習 <第15回> 試合と審判法の学習</p> <p>【授業方法】 実技指導を中心としながら、教授法や技能、知識についてレポート提出で理解度の確認を行う。また、実技は少人数で集中して講義が受けられるように以下のように剣道と柔道をそれぞれのグループに分けて授業を行う。1～7回まで剣道を学習した学生は8～15回まで柔道、同様に1～7回まで柔道を学習した学生は8～15回まで剣道を履修する。</p>	
専門科目群	展開科目 保健体育科教育法(水泳)	<p>【概要】 水遊び、浮く・泳ぐ運動の運動特性および水泳の技術的特性について学習し、それらの実践を通して個々の技能の向上を図りながら、水中における各種運動や各種泳法の指導法について習得する。また、水泳の心得や救助法・救急法についても学習する。</p> <p>【到達目標】 水中運動の基礎について学習する。さらに、4泳法の指導と指導における安全管理について理解する。これらの学修を通じて、体育実技の指導に必要な号令や体形の組み方、集団行動などについても学修し、体育教員としての実践能力の育成を目指す。</p> <p>【授業計画】 <第1回> オリエンテーションと水泳の基礎知識についての理解する。 <第2回> 水泳に必要な準備体操について理解する。水慣れと水の特性を体験する。また、水の特性と生体応答(心拍数など)について学ぶ。 <第3回> 水慣れ、種々の水遊びの方法。また、心拍数により運動強度の変化を学ぶ。 <第4回> 浮く・沈む・進む練習。また、心拍数により運動強度の変化を学ぶ。 <第5回> クロールの指導法と泳法練習 I : クロールの段階的指導法について学ぶ。 <第6回> クロールの指導法と泳法練習 II : クロールの泳力向上について学ぶ。 <第7回> 背泳ぎの指導法と泳法練習 I : 背泳ぎの段階的指導法について学ぶ。 <第8回> 背泳ぎの指導法と泳法練習 II : 背泳ぎの泳力向上について学ぶ。 <第9回> 平泳ぎの指導法と泳法練習 I : 平泳ぎの段階的指導法について学ぶ。 <第10回> 平泳ぎの指導法と泳法練習 II : 平泳ぎの泳力向上について学ぶ。 <第11回> バタフライの指導法と泳法練習 I : バタフライの段階的指導法について学ぶ。 <第12回> バタフライの指導法と泳法練習 II : バタフライの泳力向上について学ぶ。 <第13回> 実技テストに向けた、総合練習(スタートやターンなど)を各自の泳力レベルに応じておこなう。 <第14回> 実技テスト1(50mクロール泳)をおこなう。 <第15回> 実技テスト2(50m平泳ぎ)をおこなう。</p> <p>【授業方法】 1コース2人～4人程度でおこない、指導法および泳力が向上できるような授業を方法を行う。また、50mクロール及び50m平泳ぎを完泳しないと単位の取得はできない。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群 展開科目	保健体育科教育法(ダンス)	<p>【概要】 ダンスの特性を理解し、身体を通した様々な表現のあり方を追求する。また、ダンスの表現技能を習得するとともにダンス授業計画を作成して授業を展開する能力を育成する。</p> <p>【到達目標】 ダンスでは、次の3点を目標とする。 ①様々なダンスを踊ることを通し、舞踏的・表現的身体を習得する。 ②ダンス作品を創作し、発表、鑑賞ができるようになる。 ③創作ダンス授業の指導計画を作成し、実践できるようになる。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉ガイダンス、ダンスと向き合うための心身作り 〈第2回〉リズムに合わせたダンスの特性の理解とリズムの取り方 〈第3回〉リズムに合わせたダンスの動き方、踊り方の工夫 〈第4回〉リズムに合わせたダンスの小作品の創作 〈第5回〉創作ダンスの基本的動きの理解と習得 〈第6回〉動きの質と空間の作り方 〈第7回〉ボディコンタクトから生まれる動き 〈第8回〉イメージからの動きの創作 〈第9回～第11回〉創作ダンスの作品制作 〈第12回〉創作ダンスの作品発表と鑑賞 〈第13回〉ダンス授業の展開方法と授業計画の立案 〈第14回〉模擬授業の実践 〈第15回〉まとめ</p> <p>【授業方法】 教科書、参考書、配布資料及びビデオ教材により講義し、CDプレーヤー、ビデオカメラ等を利用して演習する。</p>	
専門科目群 展開科目	保健体育科教育法(授業理論)	<p>【概要】 中高保健体育科教員として基本的な学習指導要領の理解及び、教材、学習内容、指導計画、指導法、評価法などについて学習し、保健体育科教員としての基礎的な資質を育成する。</p> <p>【到達目標】 ・学習指導要領(保健体育編)の内容を理解する。 ・指導計画や指導方法を工夫し考えることができる。 ・指導案を作成し、検討することができる。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉シラバスの内容理解・単元全体の概要把握 〈第2回〉学習指導要領について 〈第3回～第4回〉中学校学習指導要領(保健体育編)についての学習 〈第5回～第6回〉高等学校学習指導要領(保健体育編)についての学習 〈第7回～第8回〉指導案の作成 〈第9回〉指導方法について 〈第10回〉指導計画の作成 〈第12回〉評価について 〈第13回～第15回〉模擬授業とまとめ</p> <p>【授業方法】 学習指導要領、参考書、配布資料及びVTRを活用した講義と、授業を想定した指導案の作成・模擬授業などの演習を実施する。</p>	
専門科目群 展開科目	保健体育科教育法(体育理論)	<p>【概要】 中学校・高等学校の保健体育科教員として必要な学習指導要領の学習をする。「中学校・高等学校学習指導要領解説保健体育編」を用いて学習し、保健体育科教員としての基礎的な資質を育成する。</p> <p>【到達目標】 中学校・高等学校の学習指導要領の内容を理解する。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉学習指導要領の目標と内容 〈第2回〉体づくり運動 〈第3回〉器械運動 〈第4回〉陸上競技 〈第5回〉水泳 〈第6回〉球技 ゴール型 〈第7回〉球技 ネット型 〈第8回〉球技 ベースボール型 〈第9回〉武道 〈第10回〉ダンス 〈第11回〉体育理論 〈第12回〉保健分野 〈第13回〉指導計画の作成と内容の取扱い 〈第14回〉評価について 〈第15回〉まとめ</p> <p>【授業方法】 中学校・高等学校の学習指導要領の本文を理解するとともに、「中学校・高等学校学習指導要領解説保健体育編」を活用した講義をする。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目 群	展 開 科 目 体育史	<p>【概要】 本講義は、社会の変化と対応させながら、各時代の体育・スポーツの特色や要点について理解する。具体的には、先史、古代、中世、近代、現代という時代区分によりながら、体育・スポーツの変遷について講述する。加えて、学校体育の発展史についても詳しく取り上げることとする。</p> <p>【到達目標】 スポーツと学校体育の歴史的な変遷について、理解する。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉 授業ガイダンス 〈第2回〉 人類の進化とスポーツ 〈第3回〉 古代の体育・スポーツ 〈第4回〉 中世の体育・スポーツ 〈第5回〉 日本近世の体育・スポーツ 〈第6回〉 近代の体育・スポーツ① 〈第7回〉 近代の体育・スポーツ② 〈第8回〉 近代の体育・スポーツ③ 〈第9回〉 小テスト 〈第10回〉 近代オリンピック 〈第11回〉 学校教育と体育・スポーツ① 〈第12回〉 学校教育と体育・スポーツ② 〈第13回〉 学校教育と体育・スポーツ③ 〈第14回〉 現代の体育・スポーツ 〈第15回〉 まとめ</p> <p>【授業方法】 授業方法 講義中心に行う。</p>	
専 門 科 目 群	展 開 科 目 教職概論	<p>【概要】 日本国憲法第26条に掲げる国民の教育を受ける権利を保障する営為としての学校教育の公共性及び特性を関係法規に基づき理解し、教職の意義と教員の使命・役割、それに伴う服務義務などについて認識する。教育基本法に掲げる教育の目的及び目標を正しく認識し、教員の具体的職務内容及び発揮すべき諸教育機能について理解し、その職責の遂行に求められる一般的資質能力及び人間力についての認識を深める。更に教育の今日的諸課題とその対応についての認識を深める。毎回の授業に目的意識を持って自主的、積極的に臨み、T・P・Oに応じた社会的常識及びマナーの実践、必要な限りの知的緊張感及び集中力の持続など、教職志望者に必要な基本的な資質・姿勢態度の涵養に努めつつ、自己の教職への適性を厳しく点検する。</p> <p>【到達目標】 法律に定める学校の教員になることの意義をわかまえる。教職に関わる不可欠な主要事項を正しく理解する。教育の諸領域における教育機能と求められる指導力について理解する。教育課題とその対応について認識を深める。今後どのように勉強し研鑽していくべきかを自覚する。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉「教職課程履修の心構え」〈教職・教師をめざすとは〉 〈第2回〉「公教育・学校教育」と「主な教育関係法規」 〈第3回〉「教職の意義」及び「教員の使命職責」 〈第4回〉「教員の法的身分」と「採用任用、服務義務、分限・懲戒等」 〈第5回〉「教員の法的職務内容」と「実務の多様性」 〈第6回〉「教員の職務・仕事の具体的内容」 〈第7回〉「校種の特性及び発達課題に応じた教員の在り方」 〈第8回〉「教育機能の軸〈学習指導と生徒指導〉」① 〈第9回〉「教育機能の軸〈学習指導と生徒指導〉」② 〈第10回〉「教員に求められる〈資質・能力・力量・人間力〉」① 〈第11回〉「教員に求められる〈資質・能力・力量・人間力〉」② 〈第12回〉「教員に求められる〈資質・能力・力量・人間力〉」③ 〈第13回〉「今日教育課題」と「対応の在り方」 〈第14回〉「教職適性の自己点検」と「今後の教職課程履修の在り方」 〈第15回〉「まとめ」</p> <p>【授業方法】 毎回の授業を教職者への自己育成の道場と位置づけ、ふさわしい態度を身に付ける。主要事項の定着をはかりながら、諸事項への問題意識を深め、発展的に学ぶようにする。中間テストを実施し主要事項の相当量の定着を図る。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	展開科目 教育原理	<p>【概要】 教育の意義、目的・目標及び理念、教育の歴史と思想、学習指導、教育課程、学校経営、教育行政・制度、世界の教育、現代の教育問題等について、教職教養の基礎的知識の習得に努める。</p> <p>【到達目標】 教職に関する基礎的知識について理解し、説明することができる。教師として教育を考え、実践する上で自らの意見を持ち、発表することができる。</p> <p>【授業計画】 <第1回> 教育の意義、目的・目標及び理念-教育の必要性、教育の行われる場所、教育の目的と目標、教育の理念 <第2回> 教育の歴史と思想(1)-欧米の教育の歴史と思想 <第3回> 教育の歴史と思想(2)-日本の教育の歴史と思想 <第4回> 学習指導、教育課程と学習指導要領-教授と学習、教授法、学習形態、教育課程の意義、類型、編成原理、編成基準、学習指導要領とその性格・変遷、現行の学習指導要領の概要 <第5回> 生徒指導-生徒指導の理念、組織、指導上の諸問題等 <第6回> 道徳教育-道徳性、学校における道徳教育、「道徳の時間」の指導 <第7回> 特別活動-目標、領域と内容、内容の取扱い <第8回> 特別支援教育-意義・目的、教育課程、インテグレーション・インクルージョン教育 <第9回> 生涯学習・社会教育-意義、目的、方法、学習機関、学校教育との連携・融合、今後の動向・課題 <第10回> 学校経営・学級経営-学校経営の概念、校務分掌、職員会議、学校評議員、学級経営の内容、学級王国、学級崩壊 <第11回> 教育行政と教育法規-中央教育行政機関(文科省)と地方教育行政機関(教育委員会)、内的事項と外的事項、教育権、規制緩和等、教育法規(教育基本法、学校教育法、教育公務員特例法等) <第12回> 教育制度-教育制度の諸原理(義務、無償、中立性、教育の機会均等)、公教育と学校の公共性、教員養成制度、教員の服務・研修・身分等、わが国の学校制度 <第13回> 世界の教育-諸外国の学校制度(米、英、独、仏、中国、豪)とその特色・改革動向 <第14回> 現代の教育問題とその改革-学校教育の諸問題(暴力行為、いじめ、不登校)と「確かな学力」「豊かな心」「生きる力」を育む学校教育の改革 <第15回> まとめ</p> <p>【授業方法】 講義及び小レポートを適宜課す</p>	
専門科目群	展開科目 発達心理学	<p>【概要】 発達心理学の目的は、単に人間の一生を順にみていくことではない。個体が環境とかかわることで、様々な心理的機能がどのように変化していくかを追求する学問である。本講義では生涯発達という視点から、心身の変化を考えるとともに、各段階におけるつまずきと発達の課題についても検討していく。</p> <p>【到達目標】 発達に関する基本的な知識を学ぶことを目標とする。加えて、学校教育・福祉の分野で役立つような人間理解を養っていく。</p> <p>【授業計画】 <第1回>発達ということ・発達心理学の出発-発達心理学の歴史と発達の概念について <第2回>遺伝と環境の影響1-発達における遺伝の影響について <第3回>遺伝と環境の影響2-発達における環境の影響について <第4回>発達段階-さまざまな領域における区分について <第5回>発達課題-各発達区分にかせられる課題について <第6回>胎児期-受精から出産にいたるまでの胎内での発達 <第7回>乳児期1-乳児の感覚・知覚・運動の発達について <第8回>乳児期2-乳児の社会的反応や認知能力の芽生えについて <第9回>幼児期-言語能力と遊びの発達について <第10回>児童期-学校教育における認知能力と社会性の発達について <第11回>青年期前期-思春期における心身の変化、友人関係の拡大 <第12回>青年期中期-自我の発見、親子関係の変化 <第13回>青年期後期-大学のもつ意味、自我の確立 <第14回>成人期-キャリアの形成、親になる意味 <第15回>成人期-老いの準備と心身の変化</p> <p>【授業方法】 講義を主体に行うが、ビデオやDVDを活用した映像やOHCによって雑誌の記事なども紹介する。教科書以外の資料を用いることで、さまざまな視点から発達について考えていく。期間中6回程度、授業中の小レポート提出を求める。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	展開科目 教育制度論	<p>【概要】 教育制度の諸原則(公教育の概念、義務・無償・中立性、教育の機会均等、教育を受ける権利、「説明責任」)や教育制度(学校制度、教育行政制度、教育財政制度、社会教育制度)、教育行政、教育法規、学校管理・運営、教職員の身分や職務、今日のわが国における教育制度改革の現状や諸外国の学校制度・教育改革動向について基本的知見を深める。</p> <p>【到達目標】 教育制度、教育行政、教育法規、教育改革の動向等の基本的知識について理解し、説明することができる。</p> <p>【授業計画】 <第1回> 教育制度の諸原則①-公教育の概念、義務・無償・(政治的・宗教的)中立性 <第2回> 教育制度の諸原則②-教育の機会均等、教育を受ける権利、教育の「説明責任」 <第3回> 教育制度-学校制度、教育行政制度、教育財政制度、社会教育制度 <第4回> 教育行政-教育行政の意義、国(文部科学省)と地方(教育委員会)の教育行政組織の概要とその関係 <第5回> 教育法規①-日本国憲法(教育規定)、教育基本法とその改正・教育振興基本計画 <第6回> 教育法規②-学校教育法、教育公務員特例法 <第7回> 教育法規③-その他の教育法規 <第8回> 学校管理・運営-学校経営、教科用図書と補助教材、修業年限等、就学・在学管理、児童・生徒への懲戒 <第9回> 教職員の身分と職務-資格と任用、服務、研修、身分と分限、倫理と懲戒 <第10回> 諸外国の教育制度と改革動向① 米国、英国、ドイツ <第11回> 諸外国の教育制度と改革動向② フランス、中国、韓国 <第12回> わが国の教育制度と改革動向 <第13回> 教育の国際比較研究-世界から見たわが国の教育① <第14回> 教育の国際比較研究-世界から見たわが国の教育② <第15回> まとめ</p> <p>【授業方法】 講義及び小レポートを適宜課す。</p>	
専門科目群	展開科目 教育課程論	<p>【概要】 今日における学校教育のあり方を鑑みると教育課程の問題は大切な意味を持つ。複雑で重層的な教育課程を多角的な視点から読み解いていく。特に、学校教育の根幹ともいべき教育課程の問題を次の4つの視点から学び、編成方法を習得する。①「だれが学校の教育課程を編成するか」という編成主体のあり方。②「何を教育内容として選択し、構成するか」という内容選定の基準と原理の問題。③学校の教育活動を全体としてどう構成するかという教育課程の全体構造の問題。④学校の教育課程をどのように評価・改善するのかという問題。</p> <p>【到達目標】 ①教育課程を支える基本的な考え方と仕組みを理解する。②教育課程改革の変遷を理解し、今日における教育課程の実態や課題について主体的に深める。③教育課程編成のための基礎的な能力の獲得をめざす。④学校づくりにおける教育課程の意義の理解を深める。</p> <p>【授業計画】 <第1回> 今日の教育課題と教育課程 -教育活動の全体計画としての教育課程 <第2回> 学習指導要領と教育課程 <第3回> 教育課程編成の基本問題① -編成主体と編成原理 <第4回> 教育課程編成の基本問題② -子どもの発達と教育課程 <第5回> 教育課程編成の基本問題③ -教育課程の構造 <第6回> 教育課程改革の歴史① -近代日本の教育課程の歩み <第7回> 教育課程改革の歴史② -現代日本の教育課程の歩み <第8回> 今日の教育改革における教育課程 -総合的な学習の時間をめぐって- <第9回> 今日の課題に挑戦する教育実践① -鳥山敏子の授業実践- <第10回> 今日の課題に挑戦する教育実践② -金森俊朗の授業実践- <第11回> 教育実践における教育課程の諸問題 <第12回> 教育課程編成の実践例 兵庫県府中小学校 北海道稚内中学校など <第13回> 教育課程の創造① 教育課程の再定義 <第14回> 教育課程の創造② 学校づくりをめぐって <第15回> まとめ</p> <p>【授業方法】 講義を主体に行うが、理解を助けるために、適宜視聴覚教材も使用する。主体的な思考を引き出すため、時々グループ活動も取り入れる。自分の考えを文章で表現する力を養うために、授業の中で小レポート(意見、感想など)を書いてもらう。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目群	展開 科目	<p>道徳教育指導論</p> <p>【概要】 現代の社会状況の中で道徳にかかわる様々な問題が指摘され、道徳教育の充実が大きな課題となっている。道徳教育は、一人ひとりが人間らしく生きる能力を獲得するための基本的な学習である。また安定した社会を維持し発展していくためにも欠くことのできない重要な教育であり、特に学校に対する期待度は、大きなものがあるといえよう。</p> <p>【到達目標】 学校の全教育活動を通じて行われる道徳教育の意義・役割・内容・道徳教育の中核を占める道徳の時間の指導のあり方について、論理的な研究をすすめ、学校教育における道徳教育の果たす役割の大きさを習得する。</p> <p>【授業計画】 〈第1回～第8回〉1.道徳教育の変遷、意義、本質を理解し、道徳教育の基本的な在り方を探究する。2.道徳性の発達と道徳教育について、関連を明確にする。3.生徒をとりまく社会の変化と道徳教育について考察する。4.道徳教育と心の教育とのかかわりを究明する。〈第9回～第12回〉5.各教科、特別活動、他の活動との関連かつ道徳指導の役割を位置づける。6.道徳の指導の内容構成を明確にし、それぞれの内容の性格と意図を究明する。(1)道徳の目標(道徳教育・道徳の時間)、指導内容と取り扱い方(2)内容項目の指導の観点(3)道徳教育の全体計画と道徳の時間の指導計画(4)道徳の時間の指導 7.学習指導案作成と指導方法を、実践事例から把握し、指導上の問題点を探究する。〈第13回～第15回〉8.道徳教育における学校、家庭、地域社会の三者の連携について考察し、道徳教育と人権教育、道徳教育といじめ・問題行動の防止について究明する。「まとめ」</p> <p>【授業方法】 ・講義形態を主体とする。・講義内容のまとめ-小レポートを提出する。(評価に加算)・授業者の経験や体験を授業内にとり入れる。・学校現場教師の実践の資料を活用する。</p>	
専門 科目群	展開 科目	<p>特別活動論</p> <p>【概要】 人格の完成を目的とする教育計画の骨格をなす教育課程における「特別活動」の重要性を認識し、社会の一員として有意義に生きるに必要な「生きる力」や「人間としての在り方生き方」を実践的に体得すべき場としての「特別活動」について理解を深め、活動の各領域における展開の在り方と諸問題について学習指導要領に準拠しながら、事例的に学ぶ。</p> <p>【到達目標】 学習指導要領に沿って教育課程における「特別活動」の役割の重要性を知り、特別活動の特性と教育的意義、内容と展開、配慮事項、諸問題について理解を深め、「特色ある学校」「学校の活性化」及び「生きる力」「人間としての在り方生き方」の指導とのかかわりを理解する。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉授業の進め方(ガイダンス、アンケート)〈第2回〉学習指導要領における教育課程と特別活動〈第3回〉特別活動の目標〈第4回〉特別活動の内容〈第5回〉学級活動・ホームルーム活動と学級経営〈第6回〉学級活動の内容と担任の役割〈第7回〉生徒会活動の目標〈第8回〉生徒会活動の内容と特色〈第9回〉学校行事の目標〈第10回〉学校行事の内容と特色〈第11回〉儀式的学校行事の意味〈第12回〉基本的配慮事項と他分掌との関連〈第13回〉他教科や部活動との関連〈第14回〉生徒の主体性と教師の指導性〈第15回〉まとめ・評価</p> <p>【授業方法】 様々な学生の事例的イメージと関連させながら、現在の学校における実態と諸問題について講義を中心に理解を深めていく。</p>	
専門 科目群	展開 科目	<p>教育方法・技術論</p> <p>【概要】 学校教育は、制度として組織された意図的な働きかけである。学校では、教育の目的や目標に到達するために様々な教育活動が行われている。その中心は教科の学習であり、教師は教育方法や技術を理解しなければならない。本講座では最近の児童生徒の特徴や学校の現状を理解するとともに体育の授業を実施する上での留意すべき事項を確認しながら、強化指導の実践力を身につける。</p> <p>【到達目標】 基本的な授業の進め方を理解し、生徒の状況や環境の変化に応じてそれぞれの学習の目的に合わせた指導が適切に行える実践力を身につける。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉授業の進め方(ガイダンス、アンケート)〈第2回〉最近の児童生徒の特徴と教育改革の動向〈第3回〉学びに関する理論と教育観〈第4回〉教育方法の歴史と日本の教育改革〈第5回〉教育課程と学習指導要項〈第6回〉教師の役割と指導技術〈第7回〉教師の役割と指導技術〈第8回〉体育科教育の特性〈第9回〉体育の運動領域〈第10回〉指導技術と教授組織〈第11回〉年間学習計画の作成〈第12回〉授業研究(1)〈第13回〉授業計画(2)〈第14回〉評価方法〈第15回〉まとめ・評価</p> <p>【授業方法】 学習に関する基礎理論を学んだ後、実際の体育実技の現場で教師と生徒の立場に立って授業のあり方を確認しながら実践力を身につける。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	展開科目 生徒指導論(進路指導を含む)	<p>【概要】 生徒指導・進路指導は、児童生徒一人一人の人間形成の場としての学校において教科指導、道徳教育、特別活動、総合的な学習の時間とともに教育目標を達成していく上で不可欠なものである。こうした教科指導等を通じた学習活動は、社会を担う有為な人間形成の育成を目指している。一方、生徒指導・進路指導は、その時代に生きる社会環境の中で児童生徒一人一人の健全な成長と人格の形成を直接の目的としている。従って、このような学習活動と生徒指導・進路指導は、学校教育を推進する上で深く関わっている。更に、急速な社会環境の変化や情報化社会の多様な広がりの中で、生涯にわたっての自己形成と健全な人格の発達を進めていくには、児童生徒一人一人に自己指導力・自己統制力(規範意識)を育成していく必要がある。この自己指導力・自己統制力の基底をなす規範意識を育成していくには、生徒指導・進路指導の対応に関する方針や基準を教師集団がともに共通理解し、明確化するとともに児童生徒、保護者等に周知し、毅然とした姿勢と粘り強い指導を展開していくことが必要である。 以上の考えについて、具体例を通して理解し、生徒指導・進路指導に対する考え方を確立することが本授業の主たる目的である。</p> <p>【到達目標】 ・生徒指導・進路指導に関する教育活動について、アメリカや日本で誕生した歴史的な背景、その後のプロセスを知ることにて、それらに関わる教育活動は、社会的な背景と深く関わっていることを理解することができる。 ・規範意識を育成することに関して、ピアジェとエリクソンの理論をもとに考察することで、自己形成や健全な人格の発達と教育活動とは極めて深く関わっていることを認識することができる。 ・生徒指導・進路指導は、学校教育活動を円滑に推進させるための重要な教育活動であることを具体的な実践事例を基に考え、その意義を認識することができる。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉生徒指導・進路指導の意義 〈第2回〉生徒指導・進路指導の歴史(戦前) 〈第3回〉 生徒指導・進路指導の歴史(戦後) 〈第4回〉生徒指導と諸教育活動との関連性Ⅰ(発達課題と成長) 〈第5回〉生徒指導と諸教育活動との関連性Ⅱ(ピアジェとエリクソンの理論) 〈第6回〉生徒指導と諸教育活動との関連性Ⅲ(事例:道徳性と道徳教育) 〈第7回〉問題行動への対応Ⅰ(事例:不登校) 〈第8回〉問題行動への対応Ⅱ(事例:いじめ) 〈第9回〉問題行動への対応Ⅲ(事例:非行、暴力、器物破損等) 〈第10回〉進路指導の内容と領域、組織と計画 〈第11回〉進路指導の進め方と今日的課題(事例:学カテスト) 〈第12回〉教育相談の内容と領域、組織と計画 〈第13回〉教育相談の進め方と今日的課題(事例:迷惑メール) 〈第14回〉新しい教育観と生徒指導・進路指導のアセスメント 〈第15回〉新しい教育観と生徒指導・進路指導に対する自己の考えの発表</p> <p>【授業方法】 本授業では、規範意識の育成に関し、江戸時代の藩校教育、戦前の初等教育・中等教育の具体的な資料(パワーポイントで作成したもの)を通し、現在の学校教育を推進していく上で、生徒指導・進路指導が重要な役割を果していることを認識する。また、規範意識を育成するために教育活動を地道に実践している学校や教師の姿勢を視聴(DVD)したり、具体的な生徒指導・進路指導・教育相談の実践指導事例を読んだりして、教師の子どもに対する関わり方、対応の仕方の基礎を養う。 授業ごとに授業内容に対する自分の考え、意見、疑問点、質問等を記述して提出する。</p>	
専門科目群	展開科目 教育相談(カウンセリング基礎を含む)	<p>【概要】 様々な問題に悩む一人ひとりの児童・生徒やその親に対して、児童・生徒一人ひとりの潜在的 가능성이最大限に発揮できるよう、側面から手助けするための、相談や助言ができる能力の育成を目指す。</p> <p>【到達目標】 児童・生徒に限らず、人間は一人ひとり個性や目標は異なるものであるから、その関わり方も異なるものとなる。生徒の個性に応じた関わり方を実践するための個別の視点を身につけることを目指す。また、教え込むのではなく、引き出すという関わり方の態度の形成を目指す。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉 ガイダンス:授業構成と授業の進め方 〈第2回〉 教育相談の役割と方法:教育相談の役割と扱う問題 〈第3回〉 教育相談の役割と方法:教育相談で用いられる心理療法 〈第4回〉 教育相談の役割と方法:教育相談で用いられる心理療法 〈第5回〉 カウンセリング実習(1):カウンセリングのロールプレイング実習 〈第6回〉 カウンセリング実習(2):カウンセリングの実習の振り返りとシェアリング 〈第7回〉 思春期・青年期の発達課題(1):思春期の発達特徴と発達課題 〈第8回〉 思春期・青年期の発達課題(2):青年期の発達特徴と発達課題 〈第9回〉 心理テスト実習:青年期の自我同一性テストの実習 〈第10回〉 不登校への対応:不登校の心理的メカニズムとプロセス 〈第11回〉 不登校への対応:不登校を主訴とする事例の検討 〈第12回〉 情緒的な問題への対応:思春期の情緒的障害の心理的メカニズムと関わり方 〈第13回〉 情緒的な問題への対応:情緒的な問題を主訴とする事例の検討 〈第14回〉 反社会的行動への対応:思春期の反社会的行動の心理的メカニズムと関わり方 〈第15回〉 発達障害への対応:発達障害の理解と関わり方</p> <p>【授業方法】 一方向的な講義による、知識としての理解にとどまらず、自らの心で感じ、体験する授業を実践するために、ケーススタディによる質疑応答や、心理テスト、描画、ビデオなどの教材を取り入れ、受講生の方との相互交流をはかりながら進めていく。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	展開科目 教育実習指導	<p>【概要】 教育実習の「事前指導」「事後指導」として位置づけ、その研究と実践を行う。 「事前指導」では、「教育実習の意義と実践」の全体像を把握し、「学校の仕組みや運営」「教育活動の領域」「教育機能として求められる能力・技術・方法」などについて認識し、教育実習生としての適切かつ的確な言動を身につけ、実習現場で具体的な準備を整える。 「事後指導」では、無事に教育実習を終え、「まとめ」としての必要な提出物が適切な内容で、期限内に提出されることを前提として、「実習の成果を総合的に評価」し、「教員としての資質能力」の涵養を目指して、主体的に研究をすすめる基とする。</p> <p>【到達目標】 教育現場での多大な負担と迷惑を承知した上で、教育実習生の受け入れを承諾した学校側の心情を察し、実習生が志と情熱を持って、真剣に実習に取り組み、充実した教育実習が行えるようにする。教育実習を通して、「教員としての資質能力」を自覚する。</p> <p>【授業計画】 (秋学期) <第1回～第2回> 教育実習の「目的と意義」「目標と内容」「日程と段階的展開」 <第3回> 実習生の「実習・勤務の態様」と「配慮事項」 <第4回～第5回> 学習指導における「配慮事項」と「学習指導案」の作成 <第6回～第7回> 授業展開における「配慮事項」と「模擬演習」 <第8回～第9回> 学級経営における「配慮事項」と「模擬演習」 <第10回～第11回> 生活指導における「配慮事項」と「模擬演習」 <第12回> 「実施の場面・局面(T・P・O)」に応じた「配慮事項」と「模擬演習」 <第13回～第14回> 模擬授業 <第15回> まとめ (春学期) <第1回～第2回> 教育実習への「準備・配慮への総点検」 <第3回～第4回> 「実習記録」など関係諸表簿の「記入要領」「扱いの配慮事項」 <第5回～第6回> 教育実習の「調整」 <第7回～第10回> 教育実習期間 <第11回～第12回> 教育実習期間 <第13回> 教育実習後の整理と反省 <第14回> 実習関係記録・報告書等の作成 <第15回> まとめ</p> <p>【授業方法】 講義を軸に、模擬演習なども加え、実践的態度を育成する。</p>	
専門科目群	展開科目 中学校教育実習	<p>【概要】 教育実習は、大学の授業で習得した知識技能を基礎として、大学の授業だけでは得られない、「学校のしくみ・運営」「各教育活動と求められる知識・技能・指導力」「教員の仕事・勤務」などの全般にわたり、学校の現場において観察・実践を通して、集中的に研究することである。</p> <p>【到達目標】 実習に参加することにより、「学校の経営運営」「教育活動」「教員の勤務」等の実際を理解し、教職への基本的な態度や心構えをわかまえ、さらに、教員に求められる資質能力・人間力の涵養に励み、実践的職務遂行能力の修得に努めていく基とする。</p> <p>【授業計画】 <事前指導>・オリエンテーション・実習校との打ち合わせ <実習第1週目>①「講話」校長、教頭、教務主任、生徒指導主事、進路指導主事、特別活動部主任、学年主任、教科主任など②「観察」授業の観察、学級・ホームルームの観察、生徒の生活全般の観察、各種教育活動の観察、教員の勤務全般の観察、保護者・地域社会との「かかわり」の観察など③「授業実践」 <実習第2週目>①「観察」②「各種教育活動の指導実践」③「授業実践」④「教員の仕事への参加」 <実習第3週目>①「観察」②「各種教育活動の指導実践」③「授業実践」④「研究授業」⑤「教員の仕事への参加」⑥「反省会」 <事後指導>・教育実習の報告・反省・関係記録簿等の整理・提出</p> <p>【授業方法】 事前準備を万端にわたり整え、充実した実習を実践し、成果を集約し、今後の発展につなげる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	展開科目	<p>高等学校教育実習</p> <p>【概要】 教育実習は、大学の授業で習得した知識技能を基礎として、大学の授業だけでは得られない、「学校のしくみ・運営」「各教育活動と求められる知識・技能・指導力」「教員の仕事・勤務」などの全般にわたり、学校の現場において観察・実践を通して、集中的に研究することである。</p> <p>【到達目標】 実習に参加することにより、「学校の経営運営」「教育活動」「教員の勤務」等の実際を理解し、教職への基本的な態度や心構えをわかまえ、さらに、教員に求められる資質能力・人間力の涵養に励み、実践的職務遂行能力の修得に努めていく基とする。</p> <p>【授業計画】 ＜事前指導＞・オリエンテーション・実習校との打ち合わせ ＜実習第1週目＞①「講話」校長、教頭、教務主任、生徒指導主事、進路指導主事、特別活動部主任、学年主任、教科主任など②「観察」授業の観察、学級・ホームルームの観察、生徒の生活全般の観察、各種教育活動の観察、教員の勤務全般の観察、保護者・地域社会との「かかわり」の観察など③「授業実践」 ＜実習第2週目＞①「観察」②「各種教育活動の指導実践」③「授業実践」④「研究授業」⑤「反省会」 ＜事後指導＞・教育実習の報告・反省・関係記録簿等の整理・提出</p> <p>【授業方法】 事前準備を万端にわたり整え、充実した実習を実践し、成果を集約し、今後の発展につなげる。</p>	
専門科目群	展開科目	<p>教職実践演習(教諭)</p> <p>【概要】 大学4年間の教職課程履修において、培ってきた教師としての基礎的基本的な資質能力について確認する。併せて4年次において、これらの点について各自の課題を自覚し、不足しているあるいは補充・深化が必要であると考えられる領域における知識や技能を補い、定着を図る。主な授業形態は、講義や演習、発表、グループ討論、ロールプレイ等を組み合わせ、実際の教育現場を想定した教育課題を取り扱う。なお教人の教員によるオムニバスに基づく。</p> <p>【到達目標】 教師として求められる5つの事項(①教職論、②組織・協働、③生徒指導、④学級経営、⑤学習指導)をテーマとし、次のような到達目標を掲げる。①教職の意義と役割、望ましい教師像について、自らの到達点と課題を明確にしてその達成に向けて努力できる。②校務分掌について理解し、組織の一員として活動することを弁えている。また、保護者や地域の人々との連携や協力の必要性を自覚している。③カウンセリング・マインドを持ち、子ども理解に基づいた適切な指導・支援を行うことができる。④学級経営のための基礎的知識や技能を有し、実践できる。⑤子どもの発達段階を踏まえ、教材研究を適切に行って、学習指導案を作成することができる。また、基本的な指導技術を駆使して子どもの反応に柔軟に対応できる。</p> <p>【授業計画】 ＜第1回＞これまでの教職履修についての省察(教職論①)、＜第2回＞授業を通して子どもを観る・育てる(教職論②)、＜第3回＞教材研究と学習指導案(学習指導①)、＜第4～6回＞模擬授業と省察(学習指導②～④)、＜第7回＞教科の指導力についてのまとめ(学習指導⑤)、＜第8回＞発達段階に応じた子どもの理解と支援(生徒指導①)、＜第9回＞子どもの悩みや問題行動等への対応(生徒指導②)、＜第10回＞カウンセリング・マインド(生徒指導③)、＜第11回＞家庭との連携(組織・協働①)、＜第12回＞学校の1日(学級経営①)、＜第13回＞協働が求められる校務分掌(組織・協働②)、＜第14回＞校内生活の危機管理(組織・協働③)、＜第15回＞望ましい教師像に向けてーまとめー(教師論③)*オムニバス形式</p> <p>【授業方法】 受講生を50名ずつ編成して、教職、教科専門、教科教育担当者がティーム・ティーチング等を適宜採りながら、授業を行い、評価する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	展開科目 教職演習Ⅰ	<p>【概要】 教員採用試験対策として、教職演習Ⅰ～Ⅵ(内容は下記に示す)までの3年間を見通し系統だった演習を計画・実施し、教職に対し意欲ある学生の実践力向上を目的とする。最終的には、各都道府県が実施する教員採用試験の合格をめざす。 ☆1年秋・教職演習Ⅰ(一般教養Ⅰ) 2年春・教職演習Ⅱ(一般教養Ⅱ) 2年秋・教職演習Ⅲ(教職教養Ⅰ) 3年春・教職演習Ⅳ(教職教養Ⅰ) 3年秋・教職演習Ⅴ(専門教養・中高保健体育) 4年春・教職演習Ⅵ(実技・時事問題・小論文など)</p> <p>【到達目標】 教員採用試験の一般教養の内容を理解し、その基礎的な知識を身に付ける。</p> <p>【授業計画】 <第1回> ガイダンス&実力テスト1(5教科) <第2回> 国語→(小テスト) <第3回> 社会(日本史・世界史・地理・政経)→(小テスト) <第4回> 数学(計算を含む)→(小テスト) <第5回> 理科(物理・化学・生物・地学)→(小テスト) <第6回> 英語→(小テスト) <第7回> 実力テスト2 <第8回> 人文科学(国語、英語、倫理・思想) <第9回> 人文科学(芸術・文化、日本史、世界史、地理) <第10回> 人文科学テスト <第11回> 自然科学(数学、物理、化学) <第12回> 自然科学(生物、地学) <第13回> 自然科学テスト <第14回> 社会科学(政治・法律、経済) <第15回> 社会科学(社会・労働、国際) 試験：社会科学テスト</p> <p>【授業方法】 専門業者と連携を図り、教材の準備や確認テストを実施し、基礎教養(公立高校入試程度)から一般教養への学生の意識の転換を図る。</p>	
専門科目群	展開科目 教職演習Ⅱ	<p>【概要】 教員採用試験対策として、教職演習Ⅰ～Ⅵ(内容は下記に示す)までの3年間を見通し系統だった演習を計画・実施し、教職に対し意欲ある学生の実践力向上を目的とする。最終的には、各都道府県が実施する教員採用試験の合格をめざす。 1年秋・教職演習Ⅰ(一般教養Ⅰ) ☆2年春・教職演習Ⅱ(一般教養Ⅱ) 2年秋・教職演習Ⅲ(教職教養Ⅰ) 3年春・教職演習Ⅳ(教職教養Ⅰ) 3年秋・教職演習Ⅴ(専門教養・中高保健体育) 4年春・教職演習Ⅵ(実技・時事問題・小論文など)</p> <p>【到達目標】 教員採用試験の一般教養の過去の問題傾向を理解し、一般教養に関する実践的な知識を身に付ける。</p> <p>【授業計画】 <第1回> ガイダンス&実力テスト1(5教科) <第2回> 愛知県の過去問 <第3回> 名古屋市の過去問 <第4回> 岐阜県の過去問 <第5回> →確認テスト① <第6回> 静岡県・静岡市・浜松市の過去問 <第7回> 三重県の過去問 <第8回> 滋賀県の過去問 <第9回> →確認テスト② <第10回> 神奈川県・川崎市・横浜市の過去問 <第11回> 大阪府・大阪市・堺市の過去問 <第12回> 京都府・京都市の過去問 <第13回> →確認テスト③ <第14回> その他の都市の過去問 <第15回> その他の都市の過去問 試験 総復習テスト</p> <p>【授業方法】 「一般教養の過去問」の問題集を用いて、実践的な知識を身に付ける。 また、業者へ模試を依頼し、実践的な試験対策を実施する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目 群	展 開 科 目	<p>【概要】 教員採用試験対策として、教職演習Ⅰ～Ⅵ(内容は下記に示す)までの3年間を見通し系統だった演習を計画・実施し、教職に対し意欲ある学生の実践力向上を目的とする。最終的には、各都道府県が実施する教員採用試験の合格をめざす。 1年秋・教職演習Ⅰ(一般教養Ⅰ) 2年春・教職演習Ⅱ(一般教養Ⅱ) ☆2年秋・教職演習Ⅲ(教職教養Ⅰ) 3年春・教職演習Ⅳ(教職教養Ⅱ) 3年秋・教職演習Ⅴ(専門教養・中高保健体育) 4年春・教職演習Ⅵ(実技・時事問題・小論文など)</p> <p>【到達目標】 教員採用試験の教職教養の内容を理解し、教職教養に関する基礎的な知識を身に付ける。</p> <p>【授業計画】 <第1回> ガイダンス&教職教養導入テスト <第2回> 教育史Ⅰ <第3回> 教育史Ⅱ <第4回> 教育心理Ⅰ <第5回> 教育心理Ⅱ <第6回> 教育心理Ⅲ <第7回> →確認テスト① <第8回> 教育原理Ⅰ <第9回> 教育原理Ⅱ <第10回> 教育原理Ⅲ <第11回> 教育法規Ⅰ <第12回> 教育法規Ⅱ <第13回> 教育法規Ⅲ <第14回> →確認テスト② <第15回> 教育時事Ⅰ 試験 総復習テスト</p> <p>【授業方法】 「教職教養30日完成」の問題集を用いて、基礎的な知識を身に付ける。</p>	
専 門 科 目 群	展 開 科 目	<p>【概要】 教員採用試験対策として、教職演習Ⅰ～Ⅵ(内容は下記に示す)までの3年間を見通し系統だった演習を計画・実施し、教職に対し意欲ある学生の実践力向上を目的とする。最終的には、各都道府県が実施する教員採用試験の合格をめざす。 1年秋・教職演習Ⅰ(一般教養Ⅰ) 2年春・教職演習Ⅱ(一般教養Ⅱ) 2年秋・教職演習Ⅲ(教職教養Ⅰ) ☆3年春・教職演習Ⅳ(教職教養Ⅰ) 3年秋・教職演習Ⅴ(専門教養・中高保健体育) 4年春・教職演習Ⅵ(実技・時事問題・小論文など)</p> <p>【到達目標】 教員採用試験の教職教養の過去の問題傾向を理解し、教職教養に関する実践的な知識を身に付ける。</p> <p>【授業計画】 <第1回> ガイダンス&教職教養導入テスト <第2回> 愛知県の過去問 <第3回> 名古屋市の過去問 <第4回> 岐阜県の過去問 <第5回> →確認テスト① <第6回> 静岡県・静岡市・浜松市の過去問 <第7回> 三重県の過去問 <第8回> 滋賀県の過去問 <第9回> →確認テスト② <第10回> 神奈川県・川崎市・横浜市の過去問 <第11回> 大阪府・大阪市・堺市の過去問 <第12回> 東京都の過去問 <第13回> →確認テスト③ <第14回> その他の都市の過去問 <第15回> その他の都市の過去問 試験 総復習テスト</p> <p>【授業方法】 「教職教養の過去問」の問題集を用いて、実践的な知識を身に付ける。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目 群	展 開 科 目	<p>教職演習Ⅴ</p> <p>【概要】 教員採用試験対策として、教職演習Ⅰ～Ⅵ（内容は下記に示す）までの3年間を見通し系統だった演習を計画・実施し、教職に対し意欲ある学生の実践力向上を目的とする。最終的には、各都道府県が実施する教員採用試験の合格をめざす。 1年秋・教職演習Ⅰ（一般教養Ⅰ） 2年春・教職演習Ⅱ（一般教養Ⅱ） 2年秋・教職演習Ⅲ（教職教養Ⅰ） 3年春・教職演習Ⅳ（教職教養Ⅱ） ☆3年秋・教職演習Ⅴ（専門教養・中高保健体育） 4年春・教職演習Ⅵ（実技・時事問題・小論文など）</p> <p>【到達目標】 教員採用試験の専門教養（中高保健体育）の内容を理解し、専門教養に関する基礎的な知識を身に付ける。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉 ガイダンス&専門教養導入テスト 〈第2回〉 学習指導要領Ⅰ 〈第3回〉 学習指導要領Ⅱ 〈第4回〉 体づくり運動 〈第5回〉 器械運動 〈第6回〉 陸上競技 〈第7回〉 →確認テスト① 〈第8回〉 水泳 〈第9回〉 球技Ⅰ 〈第10回〉 球技Ⅱ 〈第11回〉 武道 〈第12回〉 ダンス・運動事故 〈第13回〉 体育理論 〈第14回〉 保健 〈第15回〉 →確認テスト② 試験 総復習テスト</p> <p>【授業方法】 「中高保健体育」の問題集を用いて、基礎的な知識を身に付ける。</p>	
専 門 科 目 群	展 開 科 目	<p>教職演習Ⅵ</p> <p>【概要】 教員採用試験対策として、教職演習Ⅰ～Ⅵ（内容は下記に示す）までの3年間を見通し系統だった演習を計画・実施し、教職に対し意欲ある学生の実践力向上を目的とする。最終的には、各都道府県が実施する教員採用試験の合格をめざす。 1年秋・教職演習Ⅰ（一般教養Ⅰ） 2年春・教職演習Ⅱ（一般教養Ⅱ） 2年秋・教職演習Ⅲ（教職教養Ⅰ） 3年春・教職演習Ⅳ（教職教養Ⅱ） 3年秋・教職演習Ⅴ（専門教養・中高保健体育） ☆4年春・教職演習Ⅵ（実技・時事問題・小論文など）</p> <p>【到達目標】 教員採用試験の二次試験の内容を理解し、二次試験で実施される内容に関する基礎的な知識を身に付ける。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉 ガイダンス（二次試験対策） 〈第2回〉 面接対策（集団面接） 〈第3回〉 面接対策（模擬授業） 〈第4回〉 体育実技（陸上競技） 〈第5回〉 体育実技（器械運動） 〈第6回〉 小論文対策Ⅰ 〈第7回〉 小論文対策Ⅱ 〈第8回〉 体育実技（水泳） 〈第9回〉 体育実技（球技Ⅰ） 〈第10回〉 体育実技（球技Ⅱ） 〈第11回〉 体育実技（武道） 〈第12回〉 体育実技（ダンス） 〈第13回〉 面接対策 〈第14回〉 面接対策 〈第15回〉 面接対策</p> <p>【授業方法】 実技・演習を中心に授業を展開する。実技指導が可能な専門教員に指導を依頼する。教員採用試験の2次試験で用いられる手法に対する実践的能力を身に付ける。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	展開科目 スポーツコーチ演習Ⅰ	<p>【概要】 様々な競技(チーム競技・個人競技)の指導法や思考方式を学び、アスリートの発掘、育成、強化、コーチング、チームマネジメントなどを含んだ幅広い理論の習得を狙いとする。各競技の専門家による競技スポーツの現場、実体験談を参考に、専門競技での指導法を考えていきたい。</p> <p>【到達目標】 ・各競技の競技特性を理解し、競技の魅力、面白さ、思考方式を理解する ・競技力向上をねらいとする実践的な取り組みができる</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉授業ガイダンス 〈第2回〉競技を知る(1) 専門スポーツの競技特性と運動特性の理解 〈第3回〉競技を知る(2) 専門スポーツ以外の競技特性と運動特性の理解 〈第4回〉競技を知る(3) 各競技の競技特性と思考方式 〈第5回〉競技特性に応じたチームマネジメント 〈第6回〉国内におけるスポーツ強化策 〈第7回〉海外におけるスポーツ強化策 〈第8回〉コーチの基本的役割 〈第9回〉競技力向上をねらった実践：対人競技① 〈第10回〉競技力向上をねらった実践：対人競技② 〈第11回〉競技力向上をねらった実践：個人競技① 〈第12回〉競技力向上をねらった実践：個人競技② 〈第13回〉競技力向上をねらった実践：チーム競技① 〈第14回〉競技力向上をねらった実践：チーム競技② 〈第15回〉まとめ</p> <p>【授業方法】 ・各競技別の指導者が授業を担当するオムニバス形式による授業展開とする ・専門競技の実践的な取り組み(実技)、講義</p>	
専門科目群	展開科目 スポーツコーチ演習Ⅱ	<p>【概要】 競技スポーツにおけるコーチングとスポーツ科学の係わりについて学ぶ。特にバイオメカニクスの観点から競技特性を理解し、そのコーチング方法を学修する。また各種スポーツを実践する能力を高めると同時に、技術・戦術の習得はもちろん、指導法や審判法などの習得も目指す。</p> <p>【到達目標】 競技スポーツをバイオメカニクスの観点から検討し、バイオメカニクスの観点から競技種目に応じた技術について理解し、そのコーチング計画を立案する能力を養う。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉オリエンテーション 〈第2回〉水泳における指導者の基本知識 〈第3回〉トレーニングプログラムの作り方 〈第4回〉トレーニングをスムーズに行う(タイムのとり方) 〈第5回〉ビデオを使つての指導方法1 〈第6回〉ビデオを使つての指導方法2 〈第7回〉指導者の心構え 〈第8回〉内野手の基本(捕球とスローイング) 〈第9回〉バッティング基本とバントの基本 〈第10回〉ゲーム分析 -試合で何を見るか- 〈第11回〉コーチング法 -選手が自ら判断し、プレーできる力を身につけさせる- 〈第12回〉指導実践 ゴールを目指すパスゴールを目指すコントロール 〈第13回〉まとめ、発表1 〈第14回〉まとめ、発表2 〈第15回〉まとめ、発表3</p> <p>【授業方法】 ・各競技別の指導者が授業を担当するオムニバス形式による授業展開とする。 ・専門競技の実践的な取り組み(実技)、講義。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	展開科目 スポーツコーチ演習Ⅲ	<p>【概要】 個人が専門としているスポーツ競技の特性やルールを十分に理解した上で、自身の競技力向上を目的とした実践的な取り組みを行う。経験や偏った情報に頼らず、客観的な視野をもって様々な選手に対応できるような指導者を目指す。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門競技の発祥と歴史背景に伴うその競技の発展を理解する。 ・シーズンの目標を立て、それを達成させるためのプランニングができる。 ・競技力を向上させる為に専門的知識を用いた実践的取り組みができる。 ・他競技の成功例を参考にして、自身の競技力向上やスポーツの普及について考えられる。 <p>【授業計画】 〈第1回〉授業ガイダンス(本科目の目的と授業展開について) 〈第2回〉競技を知る①: 専門スポーツの発祥と歴史背景に伴う競技レベルの変化 〈第3回〉競技を知る②: 競技特性と運動特性の理解、実践計画、課題レポート① 〈第4回〉他競技から学ぶ、課題レポート② 〈第5回〉競技力向上の実践①(陸上競技:「速く走る1」) 〈第6回〉競技力向上の実践②(陸上競技:「速く走る2」) 〈第7回〉競技特性とチームマネジメント:個人競技、チームスポーツ、課題レポート③ 〈第8回〉スポーツ強化策:国内外におけるナショナルレベルの競技スポーツの強化策について 〈第9回〉スポーツに関わる資格:コーチ制度の確立や資格認定制度 〈第10回〉パフォーマンスとフィードバック①:競技力向上を目的としたパフォーマンスの評価と分析 〈第11回〉パフォーマンスとフィードバック②:競技力向上を目的としたパフォーマンスの評価と分析 〈第12回〉ピリオダイゼーショントレーニング、課題レポート④ 〈第13回〉ストレングストレーニングの理解と実践① 〈第14回〉ストレングストレーニングの理解と実践② 〈第15回〉評価:シーズンを振り返って</p> <p>【授業方法】 ・主に実践的な取り組みが中心となるが、講義を交えながら競技スポーツに関する基礎知識も養う。</p>	
専門科目群	展開科目 スポーツコーチ演習Ⅳ	<p>【概要】 個人が専門とするスポーツ競技の競技特性を理解した上で、競技力向上を目的とした実践的な取り組みを行う。また、競技スポーツの積極的な推進を図るため、スポーツの実践からコーチング、チームマネジメントなどを含んだ幅広い理論の習得をねらいとする。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門競技の発祥と歴史背景に伴うその競技の発展を理解する。 ・競技力を向上させる為に専門的知識を用いた実践的取り組みができる。 ・他競技を参考に競技力向上やスポーツの普及について考えられる。 <p>【授業計画】 〈第1回〉授業ガイダンス(本科目の目的と授業展開について) 〈第2回〉競技を知るⅠ: 様々なスポーツの発祥と歴史背景 〈第3回〉競技を知るⅡ: 競技特性と運動特性の理解と実践計画 〈第4回〉競技力向上における基礎知識の習得Ⅰ: トレーニングの基礎 〈第5回〉競技力向上における基礎知識の習得Ⅱ: トレーニングの原理 〈第6回〉競技力向上の実践Ⅰ 〈第7回〉競技特性とチームマネジメント:個人競技、チームスポーツ、水中競技などに応じた指導 〈第8回〉スポーツ強化策:国内外におけるナショナルレベルの競技スポーツの強化策について 〈第9回〉競技力向上の実践Ⅱ 〈第10回〉パフォーマンスとフィードバックⅠ: 競技力向上を目的としたパフォーマンスの分析と定量化 〈第11回〉パフォーマンスとフィードバックⅡ: 競技力向上を目的としたパフォーマンスの質的・量的評価 〈第12回〉ピリオダイゼーショントレーニングⅠ: プランニング 〈第13回〉ピリオダイゼーショントレーニングⅡ: トレーニングサイクル 〈第14回〉ピリオダイゼーショントレーニングⅢ: 年間トレーニングプラン 〈第15回〉全体のまとめ</p> <p>【授業方法】 主に専門競技の実践的な取り組みが中心となるが、講義を交えながら競技スポーツに関する基礎知識も養う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目群	展 開 科 目 スポーツコーチ演習Ⅴ	<p>【概要】 本授業では、幾つかの競技スポーツに実践的に携わることで競技特性や指導方法、運営方法について学ぶことを目的とする。受講者は、個人やチーム、ラケット型、ネット型、ベースボール型などその競技ならではのコーチングやトレーニングを実践的に経験してその競技種目の理解を深めることを目的とする。</p> <p>【到達目標】 ・他競技から学んだトレーニング方法や指導法を自身の専門競技に活かせるようになる。 ・様々な競技のコーチングや練習、運営方法を実践できるようになる。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉授業展開方法の説明、本授業で携わる競技種目について 〈第2回〉トレーニング論、コーチング論 〈第3-6回〉スポーツコーチングの実践1-4(水泳、陸上競技、サッカー、テニス、野球他) 〈第7回〉中間報告 〈第8-13回〉スポーツコーチングの実践5-10(水泳、陸上競技、サッカー、テニス、野球他) 〈第14-15回〉最終報告会</p> <p>【授業方法】 水泳、陸上競技、サッカー、テニス、野球、ソフトボールなどの競技スポーツの指導やトレーニングを実践的に経験する。様々な競技種目に触れながら、競技間の相違について分析・評価する。</p>	
専門 科目群	展 開 科 目 スポーツコーチ演習Ⅵ	<p>【概要】 本授業では、「スポーツコーチ演習Ⅴ」に引き続き、複数の競技スポーツに実践的に携わることで、その競技特性や指導方法、チーム運営方法について学ぶ。個人やチーム、ネット型、ベースボール型など、その競技ならではのコーチングやトレーニングを実践的に経験してその競技種目の理解を深めることを目的とする。</p> <p>【到達目標】 ・他競技から学んだトレーニングや指導法を自身の専門競技に活かせるようになる。 ・様々な競技のコーチングや練習運営を実践できるようになる。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉授業展開方法の説明、本授業で携わる競技種目について 〈第2回〉トレーニング論、コーチング論 〈第3-6回〉スポーツコーチングの実践1-4(水泳、陸上競技、サッカー、テニス、野球他) 〈第7回〉中間報告 〈第8-13回〉スポーツコーチングの実践5-10(水泳、陸上競技、サッカー、テニス、野球他) 〈第14-15回〉最終報告会</p> <p>【授業方法】 水泳、陸上競技、サッカー、テニス、野球、ソフトボールなどの競技スポーツの指導やトレーニングを実践的に経験する。様々な競技種目に触れながら、競技間の相違について分析・評価する。</p>	
専門 科目群	展 開 科 目 健康トレーナー演習Ⅰ	<p>【概要】 健康運動実践指導者や健康運動指導士等の専門家として、運動を重視した健康増進指導をするために必要な基礎知識を身につけることを目的とする。</p> <p>【到達目標】 運動指導に関する専門的なテキスト、文献、資料等を読み、その内容を正確に理解できるようになること。</p> <p>【授業計画】 〈第1回～第3回〉ガイダンス、健康づくり施策概論〈第4回～第12回〉運動指導に必要な運動生理学の基礎〈第13回～第14回〉高齢者の体力低下と介護予防〈第15回〉全体のまとめ</p> <p>【授業方法】 テキストを中心として、スライドや資料を併用した講義を行う。適宜、理解度を見るための小テストや小レポートの作成を課す。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	展開科目 健康トレーナー演習Ⅱ	<p>【概要】 運動・スポーツを通して人々の健康づくりに貢献するためには、専門的な知識と教養が求められる。本演習では、受講生を健康運動指導士や健康運動実践指導者をを目指す学生の資格取得にかかわる専門知識を深めることを目的とする。</p> <p>【到達目標】 資格試験や採用試験に必要な知識を学びながら、問題への取り組み方を修得し、自ら試験対策を講ずることが出来るようになることを目標とする。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉オリエンテーション(授業展開の説明)〈第2回〉力学環境と身体運動Ⅰ：力と運動〈第3回〉力学環境と身体運動Ⅱ：力学の基礎(ニュートン力学、運動量と力積など)〈第4回〉力学環境と身体運動Ⅲ：力学の基礎(力学的仕事、機械的エネルギー)〈第5回〉関節運動Ⅰ：脊柱(肩甲骨を含む頸椎、胸椎、腰椎、胸郭)〈第6回〉関節運動Ⅱ：上肢(肩関節を含む上腕、前腕、手)〈第7回〉関節運動Ⅲ：下肢(骨盤を含む大腿、下腿、足)〈第8回〉小テスト〈第9回〉全身運動と関節運動Ⅰ：(並進運動・回転運動)〈第10回〉全身運動と関節運動Ⅱ：(姿勢と重心の関係)〈第11回〉仕事・エネルギーⅠ(並進運動)〈第12回〉仕事・エネルギーⅡ(回転運動)〈第13回〉陸上での運動(歩行・ランニング)〈第14回〉水中での運動(水泳)〈第15回〉まとめ</p> <p>【授業方法】 授業は講義形式で行う。黒板を用いた板書を最小限に止め、スクリーンに投影するスライドを中心に講義を進める。毎回の授業前にスライドを印刷した資料を配布する。テストを適宜実施し、理解度を確認する。</p>	
専門科目群	展開科目 健康トレーナー演習Ⅲ	<p>【概要】 本講義は、スポーツや健康に関する指導を行うために必要な健康・栄養学分野の専門的な知識、情報を獲得することを目的とする。具体的には、健康運動指導士、健康運動実践指導者を中心とした資格の取得をめざし、健康・栄養学分野のポイントを整理し、総合的な知識を得ることを目標とする。</p> <p>【到達目標】 ・健康運動指導士、健康運動実践指導者に必要な健康・栄養学分野の知識を身につける。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉授業ガイダンス 〈第2回〉栄養学の基礎知識Ⅰ 〈第3回〉栄養学の基礎知識Ⅱ(演習)〈第4回〉栄養素の機能と代謝Ⅰ 〈第5回〉栄養素の機能と代謝Ⅱ(演習)〈第6回〉消化と吸収の機構 〈第7回〉消化と吸収の機構(演習)〈第8回〉まとめ、小テスト 〈第9回〉運動、栄養と体重調節Ⅰ 〈第10回〉運動、栄養と体重調節Ⅱ(演習)〈第11回〉生活習慣病と予防Ⅰ〈第12回〉生活習慣病と予防Ⅱ(演習)〈第13回〉食生活と健康運動Ⅰ〈第14回〉食生活と健康運動Ⅱ(演習)〈第15回〉まとめ、小テスト</p> <p>【授業方法】 講義、演習を展開する。</p>	
専門科目群	展開科目 健康トレーナー演習Ⅳ	<p>【概要】 本科目は将来、健康産業施設やフィットネスクラブにて健康づくりに携わることを目指す学生が運動指導士やパーソナルトレーナーとしての職務内容を理解し、それに必要とされる専門的知識や技術、または資格取得の準備をすることを目的とする。特に「健康運動指導士」の資格取得を目指す学生に資格試験の対策を中心に行う。</p> <p>【到達目標】 ・「健康運動指導士」試験対策準備に取り組み、専門的知識と技能を習得する。 ・運動指導士、パーソナルトレーナーの職務を理解する。 ・運動者の目的にあわせて運動指導やプログラム作成ができるようになる。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉授業ガイダンス(授業展開と評価方法の説明、参考図書の紹介)〈第2回〉運動指導士に関わる資格と職務内容 〈第3回〉健康産業施設について 〈第4回〉職業理解講座① 〈第5回〉試験対策講座① 〈第6回〉試験対策講座② 〈第7回〉職業理解講座② 〈第8回〉運動指導の実践①(ストレッチング、ウォーミングアップ、形態測定) 〈第9回〉模擬指導①(健康運動実践指導者資格対策) 〈第10回〉職業理解講座③ 〈第11回〉運動指導の実践②(エアロビクエクササイズ、レジスタンストレーニング) 〈第12回〉模擬指導②(健康運動実践指導者資格対策) 〈第13回〉試験対策① 〈第14回〉試験対策② 〈第15回〉試験対策③</p> <p>【授業方法】 「健康運動実践指導者」、「健康運動指導士」の試験対策を目的に模擬試験に取り組む。また、運動指導士をはじめとする健康産業に関わる人物を招いた職業理解講座も行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	展開科目 健康トレーナー演習V	<p>【概要】 本講義は、スポーツや健康に関する指導を行うために必要な専門的な知識や情報を獲得することを目的とする。具体的には、健康運動指導士、健康運動実践指導者を中心とした資格の取得をめざし、各テーマのポイントを整理し、総合的な知識を得ることを目標とする。</p> <p>【到達目標】 ・健康運動指導士、健康運動実践指導者に必要な知識を身につける。 ・各種資格を得るために必要なさまざまな情報を整理する。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉 授業ガイダンス 資格ガイダンス〈第2回〉 健康づくり施策 〈第3回〉 生活習慣病 〈第4回〉 運動生理学 〈第5回〉 機能解剖とバイオメカニクス 〈第6回〉 健康づくり運動の理論 〈第7回〉 運動障害と予防 〈第8回〉 体力測定と評価 〈第9回〉 健康づくり運動の実践 〈第10回〉 応急処置 〈第11回〉 運動プログラムの管理 〈第12回〉 運動負荷試験 〈第13回〉 運動行動変容の理論と実際 運動と心の健康増進 〈第14回〉 栄養摂取と運動 〈第15回〉 授業のまとめ</p> <p>【授業方法】 講義、演習を展開する。</p>	
専門科目群	展開科目 健康トレーナー演習VI	<p>【概要】 これまで学んだ健康トレーナーに必要な知識の再確認と、健康運動指導士の受験対策を行う。</p> <p>【到達目標】 本授業で学んだ知識や勉強法を活用して、実践現場で応用するとともに健康運動指導士の資格を取得することを目標とする。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉オリエンテーション 〈第2回〉運動生理学① 〈第3回〉運動生理学② 〈第4回〉機能解剖学とバイオメカニクス① 〈第5回〉機能解剖学とバイオメカニクス② 〈第6回〉健康づくりのための運動基準2006の要点 〈第7回〉生活習慣病の知識と運動指導① メタボリックシンドローム 〈第8回〉生活習慣病の知識と運動指導② 高血圧症 〈第9回〉生活習慣病の知識と運動指導③ 脂質異常症(高脂血症) 〈第10回〉生活習慣病の知識と運動指導④ 糖尿病 〈第11回〉生活習慣病の知識と運動指導⑤ 虚血性心疾患 〈第12回〉服薬者への運動指導上の注意点 〈第13回〉食事バランスガイドの要点 〈第14回〉運動指導者のための算式 〈第15回〉まとめ</p>	
演習科目群	演習科目 基礎演習I	<p>【概要】 基礎演習Iでは、人間の思考活動の中でも最も重要な、「読む」「書く」「考える」「表現する」のうち、主として、「読む」と「考える」ことを中心として演習を行う。演習では積極的な授業への参加取り組みが不可欠である。「読む」ということは、その行為を通して、書かれている内容を理解して把握することである。著者の主張がどのようなものなのか、論理の展開、主張を支える素材の組み立てはどのようになっているかなどを理解することが大切である。ゼミ担当教員から提示される事柄を通して、議論を深め、他人の考えをよく聞き、自己の考えを柔軟にして、自分自身で考え、それを自分のことばで表現できる人間となることを目指す。</p> <p>【到達目標】 積極的な発表を通して、自己の考え方の問題点の把握、さまざまな思考に対する柔軟性を身につける。他者の意見に耳を傾け、論理の組み立てなどへの理解が深まることを目標とする。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉演習の展開と評価について 〈第2回〜第14回〉取り上げられる項目について各自が意見発表を行う。適宜、ゼミ担当教員から出される課題についてレポート報告を行う。〈第15回〉まとめ</p> <p>【授業方法】 演習といった性格から、各自の積極的な取り組みが最も重要視される。担当教員から出される課題についての発表、レポート提出などを重視する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習科目群	演習科目 基礎演習Ⅱ	<p>【概要】 基礎演習Ⅰに引き続き、基礎演習Ⅱではあらゆるコミュニケーションに不可欠な表現について、「書く」「発表する」の2点に重点を置いて、ゼミを行う。文章表現はこれからの人生においてとりわけ重要である。また、言葉は人間関係においてそのあり方を左右する最も大きな働きをするものであることから、言葉による表現能力を高めることはこれからの人生を大きく左右するといっても過言ではない。したがって、この演習では表現能力を高めることを目的として担当教員から提示される事柄について、十分調査し、自らの見識を、他者に理解されるように工夫して、発表することを主眼点とする。</p> <p>【到達目標】 自己の主張を客観的理論的根拠を持って、他者に自己の主張を理解させるための力をつけることを目標とする。このため、各自の積極的な取り組みが求められる。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉ゼミ運営の方法と評価の仕方について 〈第2回～第14回〉各教員が提示する課題について、調査し、資料作成し発表をする。〈第15回〉まとめ</p> <p>【授業方法】 ゼミ教員から提示される課題に沿った配布資料を基に、各自が調査し、その成果を他者に発表する。その際には必ず発表内容についての資料を作成し、他者への理解を促すこと。自己の意見の根拠となるものを明示する。と同時に同じ課題についての他者の立場に対する理解も深めるディスカッションを行う。</p>	
演習科目群	演習科目 専門基礎演習Ⅰ	<p>【概要】 各コースのゼミ担任から出される専門基礎課題に従い、収集した情報について検討・再構築し、その結果を発表および文章化できる能力を身につける。1年次の終わりに人間健康演習Ⅰのゼミ登録を行う。事前に各教員が行うゼミ内容のシラバスが配布され、希望するゼミを決める。</p> <p>【到達目標】 掲げられた課題に関する専門基礎的な知識の理解と、研究方法についての理解を深めることを目標とする。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉ゼミ運営のガイダンス 〈第2回～第14回〉取り上げられる分野の専門基礎知識についての理解。課題についてのアプローチ。各自による資料・実地調査、質問紙調査などによる分析。調査内容の発表、意見交換。〈第15回〉まとめ</p> <p>【授業方法】 演習であるため、各自の取り組みが中心となり、調査内容の発表や意見交換を中心とする。</p>	
演習科目群	演習科目 専門基礎演習Ⅱ	<p>【概要】 各コースのゼミ担任から出される専門基礎課題に従い、収集した情報について検討・再構築し、その結果を発表および文章化できる能力を身につける。春学期の専門基礎演習Ⅰとは異なる教員のゼミにて演習を行う。事前に各教員が行うゼミ内容のシラバスが配布され、希望するゼミを決める。</p> <p>【到達目標】 掲げられた課題に関する専門基礎的な知識の理解と、研究方法についての理解を深めることを目標とする。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉ゼミ運営のガイダンス 〈第2回～第14回〉取り上げられる分野の専門基礎知識についての理解。課題についてのアプローチ。各自による資料・実地調査、質問紙調査などによる分析。調査内容の発表、意見交換。〈第15回〉まとめ</p> <p>【授業方法】 演習であるため、各自の取り組みが中心となり、調査内容の発表や意見交換を中心とする。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習科目群	演習科目 専門演習Ⅰ	<p>【概要】 大学生生活の集大成としての研究課題を設定し、卒業研究論文、専門演習レポートの作成に向けて、指導教員のもとで、研究方法の確立、問題把握、設定したテーマに関する十分な調査分析などを行う。ゼミ決定については2年次の最後にオフィスアワーを通して決定する。シラバスの詳細はその時点で配布され、各自の関心事との関連を考慮して、指導教員を決定する。</p> <p>【到達目標】 研究成果を最終年次に卒業研究論文、専門演習レポートとしてまとめることを最終目標とする。その前段階として、調査状況などを随時指導教員の指示によって中間発表を行い、ゼミ生間での意見交換などを行う。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉ゼミ運営のガイダンス 〈第2回～第14回〉指導教員の指示により適宜発表やレポートを提出する。またゼミ生間での意見交換を行う。〈第15回〉まとめ。</p> <p>【授業方法】 演習・調査・実験。グループ指導と個別指導。</p>	
演習科目群	演習科目 専門演習Ⅱ	<p>【概要】 大学生生活の集大成としての研究課題を設定し、卒業研究論文、専門演習レポートの作成に向けて、指導教員のもとで、研究方法の確立、問題把握、設定したテーマに関する十分な調査分析などを行う。ゼミ担任の指導のもとに専門演習進捗報告書を作成し、提出する。</p> <p>【到達目標】 研究成果を最終年次に卒業研究論文、専門演習レポートとしてまとめることを最終目標とする。その前段階として、調査状況などを随時指導教員の指示によって中間発表を行い、ゼミ生間での意見交換などを行う。成果を最終的に専門演習進捗報告書として報告する。</p> <p>【授業計画】 〈第1回～第14回〉指導教員の指示により適宜発表やレポートを提出する。またゼミ生間での意見交換を行う。〈第15回〉まとめ。専門演習進捗報告書を提出する。</p> <p>【授業方法】 演習・調査・実験。グループ指導と個別指導。</p>	
演習科目群	演習科目 専門演習Ⅲ	<p>【概要】 大学生生活の集大成としての卒業論文作成に向けて、3年次に引き続き同じ指導教員のもとで、研究方法の確立、問題把握、設定したテーマに関する十分な調査分析などを通して、研究課題を進める。</p> <p>【到達目標】 研究成果を卒業研究論文、専門演習レポートとしてまとめる内容を得ることを目標とする。</p> <p>【授業計画】 〈第1回〉ゼミ運営のガイダンス 〈第2回～第14回〉指導教員の指示により適宜発表や中間レポートを提出する。ゼミ生間での意見交換を行う。〈第15回〉まとめ。</p> <p>【授業方法】 演習・調査・実験。グループ指導と個別指導。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習科目群	演習科目 専門演習Ⅳ	<p>【概要】 大学生生活の集大成としての卒業論文作成に向けて、3年次に引き続き同じ指導教員のもとで、研究方法の確立、問題把握、設定したテーマに関する十分な調査分析などを通して、各自の論点を明確にした卒業研究論文、専門演習レポートを作成する。</p> <p>【到達目標】 研究成果を卒業研究論文、専門演習レポートとしてまとめることを最終目標とする。</p> <p>【授業計画】 〈第1回～第14回〉 指導教員の指示により適宜発表や中間レポートを提出する。ゼミ生間での意見交換を行う。〈第15回〉 まとめ。指定時期に決められた様式に従って、卒業研究論文、専門演習レポートを提出する。提出された論文、レポートについて口頭発表を行う。</p> <p>【授業方法】 演習・調査・実験。グループ指導と個別指導。</p>	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校に於ける学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。